

# 測定ユーティリティ ソフトウェア FD-S2w

(OS X / macOS 版 : Ver. 1.61

Windows 版 : Ver. 1.60)

**Ja** 取扱説明書



ご使用前に必ず本書をお読みください。



KONICA MINOLTA

# Ⅰ 本書で使用されるアプリケーションソフトウェアの正式名称

( 本書での記載 )	( 正式名称 )
Windows、Windows 8.1	Microsoft® Windows® 8.1 Pro オペレーティングシステム
Windows、Windows 10	Microsoft® Windows® 10 Pro オペレーティングシステム
OS X	Apple® OS X® 10.10 ~ 10.11
macOS	Apple® macOS™ 10.12 ~ 10.15

## Ⅰ 商標

- “Microsoft”、“Windows”、“Windows 8.1” および “Windows 10” は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- “Apple”、“OS X”、“macOS” は、米国 Apple Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
- “Intel” および “Pentium” は、米国 Intel Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- 本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

## Ⅰ 本書に関するご注意

- 本書のいかなる部分も、無断で転載することは、形式や手段を問わず禁止されています。
- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書は内容について万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載もれなどでお気づきの点がございましたら、ご購入の販売店までご連絡ください。
- 本書に記載の指示に従わなかった結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

## Ⅰ 本書について

本取扱説明書は、ソフトウェアのインストール中に PDF 形式でもインストールされます。

PDF 形式の取扱説明書を読むには、

OS X、macOS の場合：FD-S2w のアプリケーションを右クリックし、“パッケージの内容を表示”を実行して、  
<Contents – Document – Manual> を選択してください。

Windows の場合：[ スタートメニュー ] - [ すべてのプログラム ] - [ KONICA MINOLTA ] - [ マニュアル ] を選択してください。

- この取扱説明書で、「FD-9」は「MYIRO-9 または FD-9」を示しています。
- 本書内のスクリーンショットは例であり、実際の画面イメージとは多少異なる場合があります。本書では、OS X のスクリーンショットを中心に掲載しています。Windows の場合は、画面上のレイアウトが OS X と異なる場合がありますが、メニュー名、ボタン名などと、それぞれの機能は同じです。
- 取扱説明書の他言語版もインストールされます。

## Ⅰ はじめに

測定ユーティリティソフトウェア FD-S2w は、自動スキャン分光測色計 FD-9 に接続してこの測定器を制御するために使用されるソフトウェアであり、カラーチャートのスキャンやチャート定義データファイルの作成など、さまざまな操作を可能にします。

## Ⅰ ソフトウェアライセンス契約

測定ユーティリティソフトウェア FD-S2w のライセンス契約の条項は、インストール中に画面に表示される [ソフトウェアライセンス契約] ダイアログボックスで提示されます。この契約の全条項に同意する場合にのみ、本ソフトウェアをインストールできます。

---

## Ⅰ 使用上の注意

- 測定ユーティリティソフトウェア FD-S2w は、Windows 8.1 あるいは Windows 10、または OS X 10.10 ~ 10.11、macOS 10.12 ~ 10.15 のオペレーティングシステムとともに使用されるように設計されています。本ソフトウェアには、オペレーティングシステムは含まれていません。本ソフトウェアをインストールする前に、これらのいずれかのオペレーティングシステムがコンピューターにインストールされている必要があります。

本ソフトウェアは正確な動作について万全を期していますが、万一不審な点やコメントなどがございましたら、最寄りのお問い合わせ窓口までご連絡ください。

# 目次

主な機能 .....	1
操作の流れ .....	2
一般チャートの測定 .....	2
濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整の測定 .....	3
メインウィンドウの構成 .....	4
メニューバー .....	5
[ ファイル (F) ] メニュー .....	5
[ 表示 (V) ] メニュー .....	5
[ 設定 (S) ] メニュー .....	5
[ 測定器 (I) ] メニュー .....	6
[ ツール (T) ] メニュー .....	6
[ ヘルプ (H) ] メニュー .....	6
ツールバー .....	7
ツールバーの表示 / 非表示 .....	7
ツールバーのドッキング / ドッキング解除 .....	7
ステータスバー .....	8
ステータスバーの表示 / 非表示 .....	8
チャートキャンバス .....	9
[ チャート表示 ] タブ .....	9
[ 測定点表示 ] タブ .....	10
チャートキャンバスのステータスバー .....	11
表示セクション .....	11
倍率スライダー .....	11
ウィンドウ .....	12
[ データリスト ] ウィンドウ .....	13
チャート定義データのセクション .....	14
フリーフォームチャートのセクション .....	17
データリスト領域のボタン .....	18
[ 測定条件設定 ] ウィンドウ .....	19
[ 測定データ ] ウィンドウ .....	20
[ 分光反射率グラフ ] ウィンドウ .....	21
全ウィンドウに共通の操作 .....	22
ウィンドウの表示 / 非表示 .....	22
ウィンドウのドッキング / 積み重ね / 浮動 .....	22
ウィンドウのサイズ変更 .....	22
ソフトウェアの起動 .....	23
Windows を使用している場合 : .....	23
OS X、macOS を使用している場合 : .....	23
スプラッシュ画面 .....	23
FD-9 との接続 .....	24
リストからの選択 .....	24
USB による接続 .....	25

LAN 経由の接続.....	26
LAN の IP アドレスを使用した接続.....	26
ネットワーク名を使用した接続 (Windows のみ) .....	27
ネットワーク設定の設定.....	28
<b>測定 .....</b>	<b>29</b>
測定の設定 .....	29
[ 設定 ] ダイアログ - [ 測定オプション ] タブ .....	29
[ 設定 ] ダイアログ - [ 環境 ] タブ .....	32
データグループの追加 / 変更.....	34
チャート条件.....	35
用紙サイズ .....	35
用紙とチャートの位置関係.....	35
一般的なパッチ領域 (パッチのグループ) とパッチ条件 .....	37
ベタチャート条件 .....	37
フリーフォームチャート測定のためのチャート条件.....	37
チャート定義データの測定の実行 .....	38
チャート定義データのユーザーによる選択.....	38
チャート定義データの QR コードによる自動選択.....	40
フリーフォームチャートの測定の実行 .....	42
FD-9 ジョブ測定の実行 .....	44
測定点の編集.....	45
[ パッチ領域編集 ] ダイアログ .....	45
測定点の削除.....	46
測定点の直接追加 .....	47
クリッピングチャートによる測定点の追加 .....	49
編集した測定点を新しいチャートとして保存.....	49
コントロール .....	50
測定データの出力 .....	51
<b>チャート定義データの作成 / 編集.....</b>	<b>52</b>
フリーフォームチャートをチャート定義データとして登録.....	52
完全に新しいチャート定義データを作成 .....	52
既存のチャート定義データを編集 .....	52
[ チャート作成 ] ダイアログ .....	53
レイアウト領域.....	53
ページボタン .....	55
[ パッチエリア ] のボタン .....	56
[ パッチ色 ]/[ パッチエリア x].....	56
チャート表示領域 .....	57
<b>ユーザー光源 .....</b>	<b>59</b>
CL-500A または FD-7 に格納されているユーザー光源データの設定 .....	59
ファイルからのユーザー光源データの読み込み .....	61
ファイルへのユーザー光源データの出力.....	61

測定器点検.....	62
基準値の設定.....	62
タイルの測定による基準値の設定 .....	62
ファイルからの読み込みによる基準値の設定 .....	64
基準値の出力.....	64
許容値の設定.....	65
点検測定 .....	66
点検測定結果の出力 .....	68
濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整.....	69
FD-9 単体による測定の実行.....	69
FD-9 と自動給紙ユニットによる測定の実行 .....	71
FD シリーズのハンディ測定器による測定の実行 .....	73
測定されたチャートデータの保存.....	76
測定結果保存ダイアログ .....	77
測定結果の自動保存 .....	77
フォルダの追加 / 削除.....	78
プリンターの追加 / 削除 .....	78
[ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウの構成.....	79
メニューバー ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ).....	80
[ ファイル (F) ] メニュー .....	80
[ 表示 (V) ] メニュー .....	80
[ 設定 (S) ] メニュー .....	80
[ 測定器 (I) ] メニュー .....	80
ステータスバー ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ).....	81
ステータスバーの表示 / 非表示.....	81
チャートキャンバス ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ).....	82
[ チャート表示 ] タブ .....	82
[ 測定点表示 ] タブ .....	83
チャートキャンバスのステータスバー .....	84
[ チャートリスト ] ウィンドウ ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ).....	85
チャート定義データ .....	85
測定 .....	86
[ 測定条件設定 ] ウィンドウ ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ).....	87
[ 測定データ ] ウィンドウ ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ).....	88
全ウィンドウに共通の操作 ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ).....	89
ウィンドウの表示 / 非表示.....	89
ウィンドウのドッキング / 積み重ね / 浮動 .....	89
ウィンドウのサイズ変更 .....	89
[ 定期校正 ] ダイアログ.....	90
エラーメッセージ .....	91
使用条件 .....	93

---

システム環境 .....	93
対応測定器 .....	93
言語 .....	93



# 主な機能

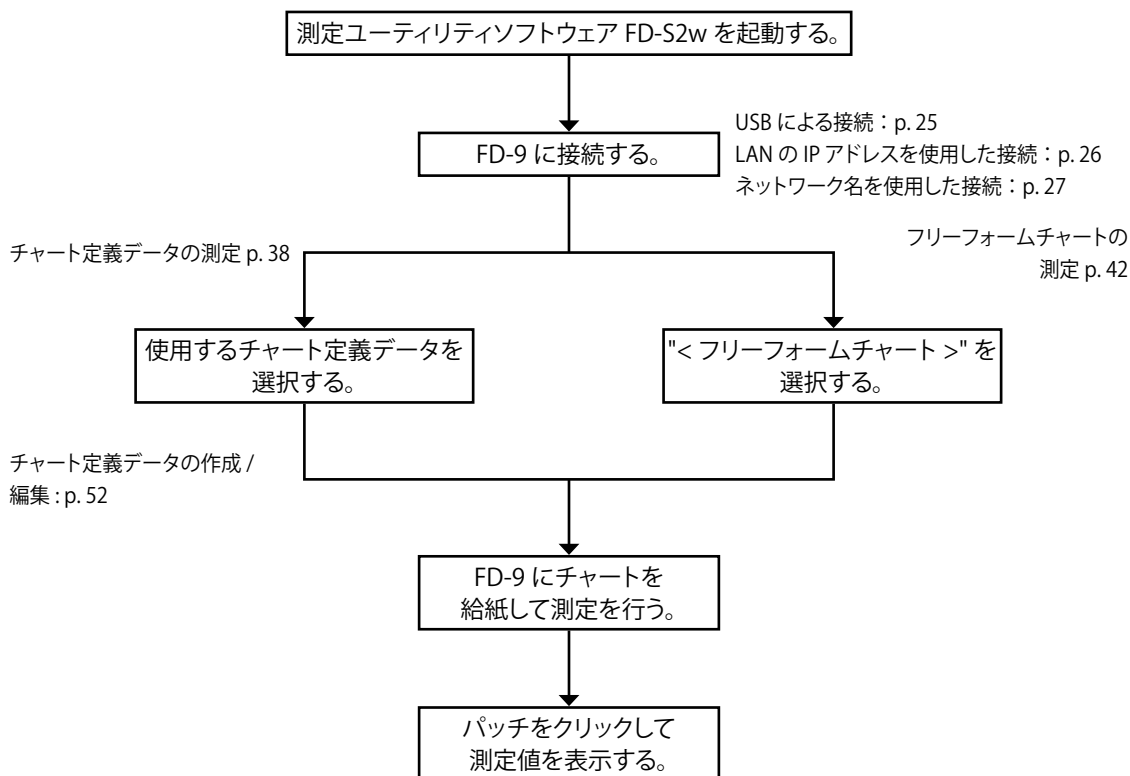
---

印刷品質を確認するためのカラーチャートの測定

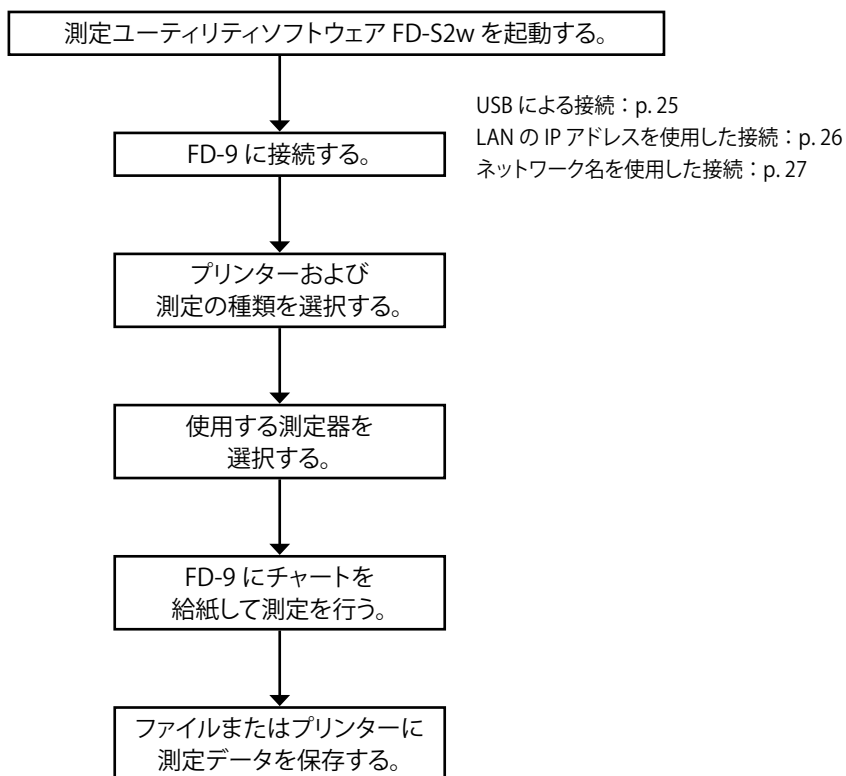
KONICA MINOLTA プリンターを調整するための出力紙濃度調整と濃度バランスの測定

# 操作の流れ

## I 一般チャートの測定

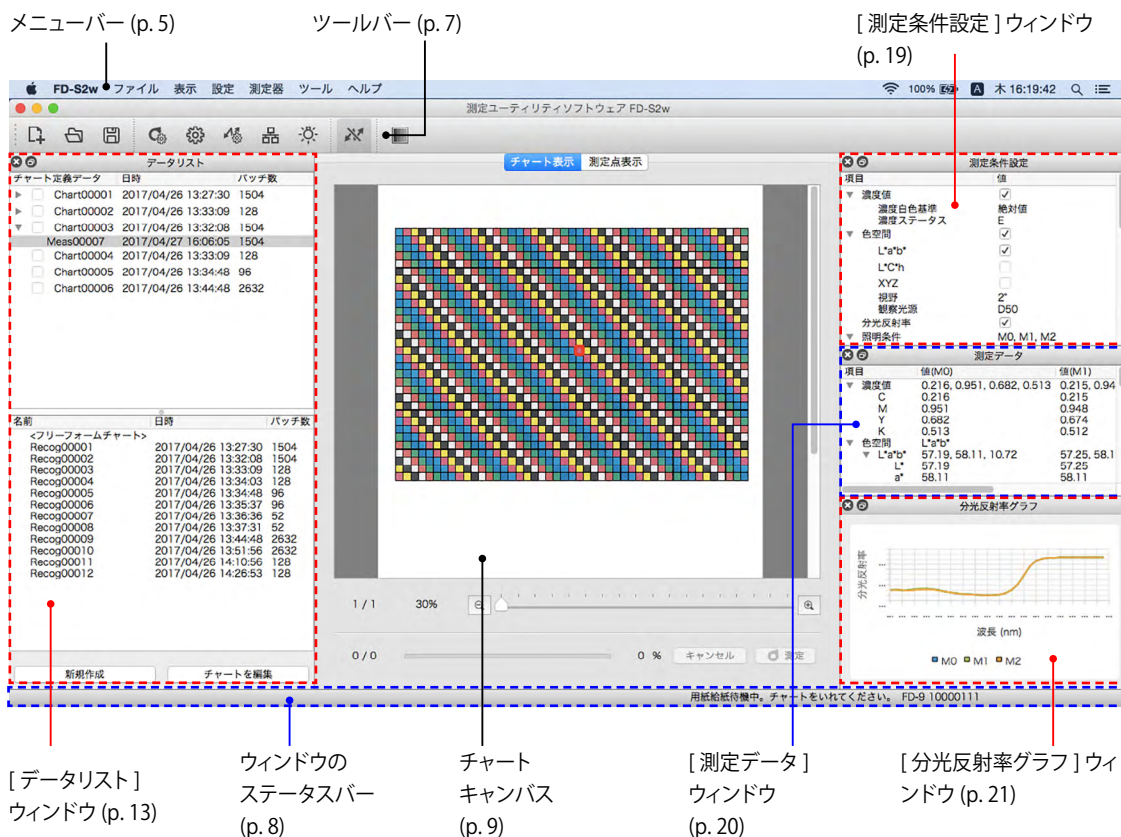


# 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整の測定



各手順の詳細については、p. 69 を参照してください。

# メインウィンドウの構成



FD-S2w のメインウィンドウは、メニューバー、ツールバー、チャートキャンバス、ステータスバーに加えて、[データリスト] ウィンドウ、[測定条件設定] ウィンドウ、[測定データ] ウィンドウ、[分光反射率グラフ] ウィンドウの 4 つのウィンドウで構成されています。

- ツールバーと 4 つのウィンドウは、図に示すように画面にドッキングすることや、浮動ウィンドウとしてドッキングを解除することができます。p. 22 を参照してください。
- ツールバー、ステータスバー、および 4 つの各ウィンドウは、表示または非表示にすることができます。

# | メニューバー

## [ ファイル (F)] メニュー

[ チャートファイル新規作成 ]:	[ 新規作成 ] ダイアログを開きます。p. 53 を参照してください。
[ チャートファイルを開く ]:	チャート定義データファイルを選択する [ チャートを開く ] ダイアログを開きます。
[ データ出力 ]:	[ データリスト ] のチャート定義データの測定のセクションで測定結果を選択すると、[ 測定結果保存 ] ダイアログが開きます。 [ データリスト ] のフリーフォームチャートの測定のセクションで測定結果を選択すると、[ 測定結果保存 ] ダイアログが開きます。
[ FD-S2w の終了 ]:	アプリケーションを終了します。

## [ 表示 (V)] メニュー

[ ツールバー ]:	ツールバーを表示 / 非表示にします。
[ ステータスバー ]:	ステータスバーを表示 / 非表示にします。
[ データリストウィンドウ ]:	[ データリスト ] ウィンドウを表示 / 非表示にします。
[ 測定条件設定ウィンドウ ]:	[ 測定条件設定 ] ウィンドウを表示 / 非表示にします。
[ 測定データウィンドウ ]:	[ 測定データ ] ウィンドウを表示 / 非表示にします。
[ 分光反射率グラフウィンドウ ]:	[ 分光反射率グラフ ] ウィンドウを表示 / 非表示にします。

## [ 設定 (S)] メニュー

[ 測定オプション設定 ]:	[ 設定 ] ダイアログを [ 測定オプション ] タブが選択された状態で開きます。p. 29 を参照してください。
[ 環境設定 ]:	[ 設定 ] ダイアログを [ 環境 ] タブが選択された状態で開きます。p. 32 を参照してください。
[ 測定器接続設定 ]:	[ 接続設定 ] ダイアログを開きます。p. 24 を参照してください。
[ ネットワーク設定 ]:	[ ネットワーク設定 ] ダイアログを開きます。p. 26 を参照してください。 • FD-9 が USB で接続されていない場合は無効になります。
[ ユーザー光源設定 ]:	[ ユーザー光源設定 ] ダイアログを開きます。p. 59 を参照してください。

## [ 測定器 (I)] メニュー

- [ 接続 / 切断 ] : 測定器が接続されていない場合、メニュー項目は [ 接続 ] になります。[ 接続 ] をクリックすると、[ 測定器接続 ] ダイアログで行った設定に応じて、FD-9 に接続します。測定器が接続されている場合、メニュー項目は [ 切断 ] になります。[ 切断 ] をクリックすると、接続されている FD-9 が切断されます。
- [ 測定 ] : 中断した測定を再開します。
- FD-9 が接続されていて、測定が中断されている場合にのみ有効になります。
- [ キャンセル ] : 現在実行中の測定を中止します。
- FD-9 が接続されている場合にのみ有効になります。

## [ ツール (T)] メニュー

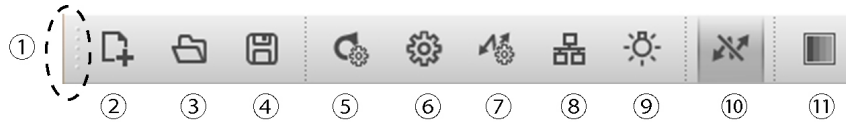
- [ 測定器点検 ] : [ 測定器点検 ] 画面を開きます。p. 62 を参照してください。
- [ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] : [ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] の手順を開始します。p. 69 を参照してください。

## [ ヘルプ (H)] メニュー

- [ マニュアル ] : 本取扱説明書を開きます。
- [ バージョン情報 ] : 本ソフトウェアのバージョン情報を表示します。

## 1 ツールバー

ツールバーには、よく使用する機能のボタンが含まれています。



マウスのポインターをボタンの上に置くと、そのボタンの機能の簡単な説明がステータスバーに表示されます。

- (1) ツールバーをドッキング / ドッキング解除するには、ここをクリックしてドラッグします。
- (2) [新規作成] ダイアログを開きます。p. 53 を参照してください。
- (3) チャート定義データファイルを選択する [チャートを開く] ダイアログを開きます。
- (4) [ファイルを保存] ダイアログを開いて、測定データを出力します。
- (5) [設定] ダイアログの [測定オプション] タブを開きます。p. 29 を参照してください。
- (6) [設定] ダイアログの [環境] タブを開きます。p. 32 を参照してください。
- (7) [測定器接続設定] ダイアログを開きます。p. 24 を参照してください。
- (8) [ネットワーク設定] ダイアログを開きます。p. 28 を参照してください。
  - FD-9 が USB で接続されていない場合は無効になります。
- (9) [ユーザー光源設定] ダイアログを開きます。p. 59 を参照してください。
- (10) FD-9 を接続 / 切断します。



FD-9 が接続されています。ボタンをクリックすると、FD-9 が切断されます。



FD-9 が接続されていません。ボタンをクリックすると、[測定器接続設定] ダイアログの設定に応じて、FD-9 に接続します。

- (11) [濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整] の手順を開始します。p. 69 を参照してください。

### ツールバーの表示 / 非表示

ツールバーを表示 / 非表示にするには、[表示] メニューで [ツールバー] を選択します。

### ツールバーのドッキング / ドッキング解除

ツールバーはドッキングが可能です。ツールバーの左端 (ツールバーが垂直にドッキングされている場合は上端) をクリックしてドラッグすると、ツールバーを任意の別の場所に移動できます。ツールバーは、ソフトウェアウィンドウの上側または下側に水平にドッキングさせたり、ソフトウェアウィンドウの左側または右側に垂直にドッキングさせたり、あるいはドッキングを解除して浮動ツールバーとして使用することができます。

## Ⅰ ステータスバー

ステータスバーは、各種の情報を表示する複数のセクションで構成されています。

各セクションに表示される情報は、画面の左側から下記の順序になります。

- カーソルの下のメニュー項目またはツールバーボタンの説明
- FD-9 のステータス情報
- 接続されている FD-9 の情報：測定器の名前とシリアル番号 (FD-9 が接続されている場合にのみ表示。)
- 接続されているハンディ分光濃度計：測定器の名前とシリアル番号 (ハンディ分光濃度計が接続されている場合にのみ表示。)

### ステータスバーの表示 / 非表示

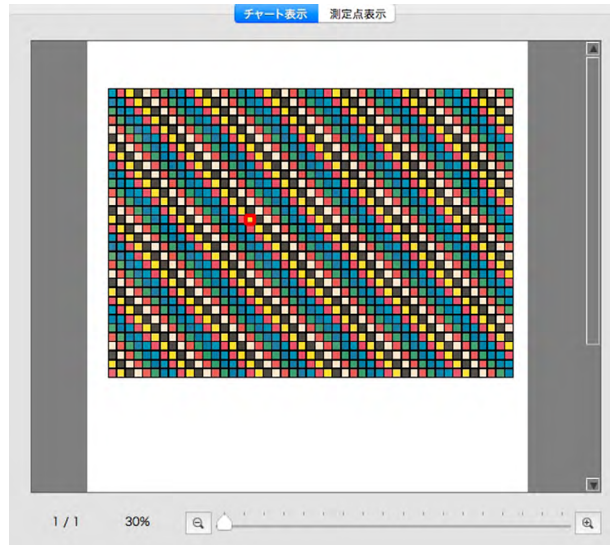
ステータスバーを表示 / 非表示にするには、[ 表示 ] メニューで [ ステータスバー ] を選択します。



## 1 チャートキャンバス

チャートキャンバスは、チャート定義データチャートまたはスキャンされたチャートの画像（測定位置）を表示する2つのタブで構成されます。

### [チャート表示]タブ



[チャート表示]タブは、選択したチャートまたは測定のパッチのカラー画像を表示します。

チャート定義データ：                      チャート定義データを[データリスト]ウィンドウで選択すると、チャート定義データで定義されているパッチ色がパッチに表示されます。

チャート定義データを用いた測定データ名：

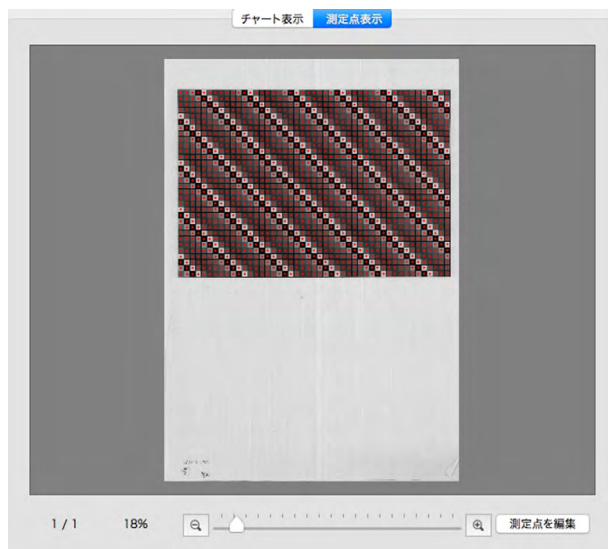
[データリスト]ウィンドウでチャート定義データ名またはチャート定義データ名の下の測定データ名が選択された状態で測定が実行されると、測定中に各パッチが斜めに分割され、定義されているパッチ色が左上半分に、測定された色が右下半分に表示されます。測定の完了後にデータリストのチャート定義データ名下の測定データ名を選択すると、測定された色のみがパッチに表示されます。

フリーフォームチャートの測定データ名（チャート定義データを用いない場合）：

[データリスト]ウィンドウのフリーフォームチャートのセクションの測定結果を選択すると、測定された色がパッチに表示されます。

- 測定されたチャート内のパッチの測定データを表示するには、パッチを[チャート表示]タブで選択します。そのパッチの測定データが[測定データ]ウィンドウに表示されます。表示される測定データ項目は、[測定条件設定]ウィンドウで選択されている項目です。

## [ 測定点表示 ] タブ



[ 測定点表示 ] タブは、測定されたチャートシートの白黒画像と、測定点の場所を示します。

チャート定義データ：                      チャート定義データを [ データリスト ] ウィンドウで選択すると、[ 測定点表示 ] タブに画像は表示されません。

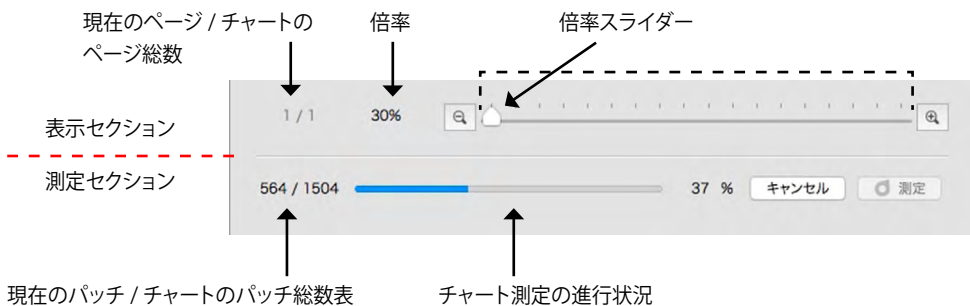
チャート定義データを用いた測定データ名：                      チャート定義データ名の下の測定データ名を [ データリスト ] ウィンドウで選択すると、チャートシートのスキャン画像が、実際に測定した測定点とともに表示されます。

フリーフォームチャートの測定データ名（チャート定義データを用いない場合）：                      [ データリスト ] ウィンドウのフリーフォームチャートのセクションの測定結果を選択すると、チャートシートのスキャン画像が、パッチ認識で特定された測定点とともに表示されます。

測定点の編集の詳細については、p. 45 を参照してください。

## チャートキャンバスのステータスバー

チャートキャンバスのステータスバーは下図のとおりです。



### 表示セクション


現在のページ / チャートのページ総数

現在のページと、チャート内のページの総数を示します。


複数ページのチャートの場合、現在の値をクリックすると、希望のチャートページを選択するためのドロップダウンリストが開きます。


倍率

チャートの現在の倍率を表示します。現在の値をクリックすると、希望の倍率設定または [ ウィンドウに合わせる ] を選択するためのドロップダウンリストが開きます。

 ズームアウト。クリックするたびに、倍率が 1% 小さくなります。

### 倍率スライダー

倍率を徐々に調整する場合はスライダー  を動かし、素早く調整する場合はバーの上をクリックしてスライダーを希望の点に直接動かします。

 ズームイン。クリックするたびに、倍率が 1% 大きくなります。

 測定点を編集 ([ 測定点表示 ] タブでのみ表示)

[ 測定点を編集 ] ダイアログを開きます。p. 45 を参照してください。

測定セクション


現在のパッチ / チャートのパッチ総数

測定中に、現在測定中のパッチと、現在のチャートページ内のパッチの総数を示します。

チャート測定の進行状況

現在のチャートページの測定の進行状況を示します。

 進行中の測定をキャンセルします。

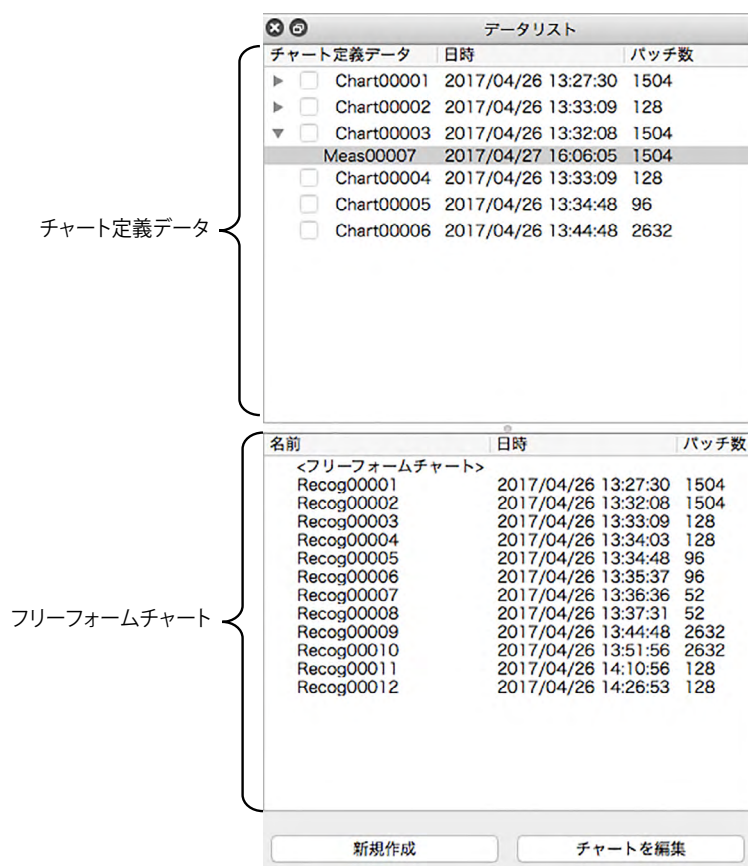
 一時停止されていた測定をパッチ認識後に再開します。

# 1 ウィンドウ

FD-S2w には、ドッキング可能なウィンドウが 4 つあります。

[ データリスト ] ウィンドウ	チャート定義データと測定結果をリストに表示します。
[ 測定条件設定 ] ウィンドウ	測定データを計算するための設定の選択が可能です。
[ 測定データ ] ウィンドウ	各測定条件設定に対して計算されたカラーパッチのうち、選択されたパッチのデータを表示します。
[ 分光反射率グラフ ] ウィンドウ	選択されたカラーパッチの分光反射率グラフを表示します。

## [ データリスト ] ウィンドウ



[ データリスト ] ウィンドウは 2 つのセクションに分割されています。チャート定義データのセクションには、使用できるチャート定義データと、各チャート定義データに対して実行された測定データ名が表示され、フリーフォームチャートセクションには、チャート定義データなしで実行された測定データ名が表示されます。

定義チャート名や測定データ名以外の項目の表示・非表示は [ 設定 ] ダイアログの [ 環境 ] タブで設定できます。p. 32 を参照してください。

## チャート定義データのセクション

チャート定義データのセクションには、チャート定義データと、各チャート定義データに対して実行された測定値のリストが表示されます。

Chart definition data	Date	Number
▼ <input type="checkbox"/> Chart00001	2017/04/26 ...	1504
Meas00001	2017/04/26 ...	1504
Meas00002	2017/04/26 ...	1504
Meas00006	2017/04/26 ...	1504
▼ <input type="checkbox"/> Chart00002	2017/04/26 ...	128
Meas00003	2017/04/26 ...	128
Meas00004	2017/04/26 ...	128
▼ <input type="checkbox"/> Chart00003	2017/04/26 ...	96
Meas00005	2017/04/26 ...	96
<input type="checkbox"/> Chart00004	2017/04/26 ...	52
<input type="checkbox"/> Chart00005	2017/04/26 ...	2632

### チャート定義データ

チャート定義データは、カラーパッチのサイズ、位置、色が定義済みのチャートです。チャート定義データの作成の詳細については、p. 52 を参照してください。

チャート定義データを選択すると：

- [チャート表示] タブに、選択したチャートのカラー画像が表示されます。[チャート表示] タブでカラー画像内のパッチをクリックしても、[測定データ] ウィンドウに測定データは表示されず、[分光反射率グラフ] ウィンドウにも分光反射率グラフは表示されません。
- [測定点表示] タブには画像は表示されません。
- 測定は選択したチャート定義データに対して行われ、完了すると、選択したチャート定義データの下にその測定データ名が表示されます。
- チャート定義データ名の横にある ▼ (OS X、macOS の場合) または ▲ (Windows の場合) をクリックすると、チャート定義データに対して行われた測定データ名のリストが折りたたまれます。
- チャート定義データ名の横にある ► (OS X、macOS の場合) または ▷ (Windows の場合) をクリックすると、チャート定義データに対して行われた測定データ名のリストが展開されます。

### FD-9 ジョブ測定チェックボックス

FD-9 ジョブ測定チェックボックスがオン (有効) の場合、対応するチャート定義データ名が FD-9 の [Connection & Joblist] 画面に表示され、これを FD-9 で選択すると、そのチャート定義データに対する測定を実行できます。

### 右クリックメニュー


チャート定義データ名を右クリックすると表示されるメニューには、以下の機能があります。

- 【名前を編集】**           チャート定義データ名の編集を可能にします。
  - チャート定義データ名は、チャート名をダブルクリックして編集することもできます。
- 【ファイルを保存】**   チャート定義データを (\*.xml ファイルとして) 保存する [保存] ダイアログを開きます。
- 【チャートを編集】**   チャート定義データを編集する [チャートを編集] ダイアログを開きます。 p. 52  
を参照してください。
- 【Tiff 画像データを保存】** チャート定義データの画像を (\*.tiff ファイルとして) 保存する [保存] ダイアログを開きます。
- 【削除】**               選択したチャート定義データを削除します。
- 【測定径】**           チャート定義データの測定径を設定します。  
使用できる設定 : [自動]、[1x1]、[2x2]、[3x3]、[4x4]
  - [1x1] 以外の設定では、設定値に等しい仮想測定径を作成するために、同じパッチでパッチ内の位置が少しずれた複数の重複測定が使用されます。各パッチに複数の測定が行われるので、このような設定では測定時間が長くなります。

#### チャート定義データを用いた測定データ名

チャート定義データに対して行われた測定の測定データ名は、各チャート定義データ名の下に表示されます。これらの測定データ名を表示するには、チャート定義データ名の横にある ► (OS X、macOS の場合) または ▷ (Windows の場合) をクリックして、チャート定義データに対して行われた測定データ名のリストを展開します。

チャート定義データを用いた測定データ名を選択すると：

- [チャート表示] タブに、測定されたチャートのカラー画像が表示されます。[チャート表示] タブでカラー画像内のパッチをクリックすると、[測定データ] ウィンドウにパッチの測定データが表示され、[分光反射率グラフ] ウィンドウには分光反射率グラフが表示されます。
- [測定点表示] タブは、チャートシートのスキャン画像を示し、その画像に測定点が重ねて表示されます。測定点は、 をクリックすると編集できます (p. 45 を参照)。
- 測定は、選択した測定データ名に使用されたのと同じチャート定義データに対して行われ、完了すると、新しい測定が同じチャート定義データ名の下に表示されます。

#### 右クリックメニュー

チャート定義データ名の下の測定データ名を右クリックすると表示されるメニューには、以下の機能があります。

- 【名前を編集】**           測定データ名の編集を可能にします。
  - 測定データ名は、測定データ名をダブルクリックして編集することもできます。
- 【ファイルを保存】**   選択されてる測定データ名の測定データをファイル出力する [保存] ダイアログを開きます。

保存するときの標準ファイル名は、チャート定義データ名と測定番号から作成されます。フリーフォーム測定の場合、測定番号だけが使用されます。事前に選択されているファイル形式は、cgats txt ファイル (\*.txt) です。

チャート定義データの場合の測定の例：

Chart00042\_00116.txt

フリーフォーム測定の場合の例：

00116.txt

出力方法の設定（p. 32、33 を参照）に応じて、選択したすべての照明条件を備えたファイル、または各照明条件ごとの別々の測定ファイルが保存されます。照明条件が異なる別々のファイルは、適宜、ファイル名の末尾にマークが自動的に付加されます。

Chart00042\_00116\_M0.txt

Chart00042\_00116\_M1.txt

Chart00042\_00116\_M2.txt

...

使用できる形式

csv File (*.csv)	パッチ位置の順に出力されたコンマ区切り値
txt File (*.txt)	パッチ位置の順に出力されたタブ区切り値
cgats xml File (*.xml)	パッチ位置の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている xml 形式
cgats txt File (*.txt)	パッチ位置の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている txt 形式
CxF3 xml File (*.xml)	パッチ位置の順に出力され、CxF3 (色交換形式バージョン 3) で定義されている xml 形式
csv File [Output ID Order] (*.csv)	パッチ ID の順に出力されたコンマ区切り値
txt File [Output ID Order] (*.txt)	パッチ ID の順に出力されたタブ区切り値
cgats xml File [Output ID Order] (*.xml)	パッチ ID の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている xml 形式
cgats txt File [Output ID Order] (*.txt)	パッチ ID の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている txt 形式
CxF3 xml File [Output ID Order] (*.xml)	パッチ ID の順に出力され、CxF3 (色交換形式バージョン 3) で定義されている xml 形式

【削除】 選択した測定データを削除します。



## フリーフォームチャートのセクション

フリーフォームチャートのセクションには、チャート定義データなしで行われた測定データ名のリストが表示されます。

名前	日時	パッチ数
<フリーフォームチャート>		
Recog00001	2015/10/19...	28
Recog00002	2015/10/27...	28

測定データ名を選択すると：

- [チャート表示] タブに、測定されたチャートのカラー画像が表示されます。[チャート表示] タブでカラー画像内のパッチをクリックすると、[測定データ] ウィンドウにパッチの測定データが表示され、[分光反射率グラフ] ウィンドウには分光反射率グラフが表示されます。
- [測定点表示] タブは、チャートシートのスキャン画像を示し、その画像に測定点が重ねて表示されます。測定点は、 をクリックすると編集できます (p. 45 を参照)。

### 右クリックメニュー

測定データ名を右クリックすると表示されるメニューには、以下の機能があります。

- [名前を編集]** 測定データ名の編集を可能にします。
  - 測定データ名は、測定データ名をダブルクリックして編集することもできます。
- [ファイル保存]** 選択されてる測定データ名の測定データをファイル出力する [保存] ダイアログを開きます。

保存するときの標準ファイル名は、チャート定義データ名と測定番号から作成されます。フリーフォーム測定の場合、測定番号だけが使用されます。事前に選択されているファイル形式は、cgats txt ファイル (\*.txt) です。

チャート定義データの場合の測定の例：

Chart00042\_00116.txt

フリーフォーム測定の場合の例：

00116.txt

出力方法の設定 (p. 32、33 を参照) に応じて、選択したすべての照明条件を備えたファイル、または各照明条件ごとの別々の測定ファイルが保存されます。照明条件が異なる別々のファイルは、適宜、ファイル名の末尾にマークが自動的に付加されます。

Chart00042\_00116\_M0.txt  
 Chart00042\_00116\_M1.txt  
 Chart00042\_00116\_M2.txt

...

## 使用できる形式

csv File (*.csv)	パッチ位置の順に出力されたコンマ区切り値
txt File (*.txt)	パッチ位置の順に出力されたタブ区切り値
cgats xml File (*.xml)	パッチ位置の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている xml 形式
cgats txt File (*.txt)	パッチ位置の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている txt 形式
CxF3 xml File (*.xml)	パッチ位置の順に出力され、CxF3 (色交換形式バージョン 3) で定義されている xml 形式
csv File [Output ID Order] (*.csv)	パッチ ID の順に出力されたコンマ区切り値
txt File [Output ID Order] (*.txt)	パッチ ID の順に出力されたタブ区切り値
cgats xml File [Output ID Order] (*.xml)	パッチ ID の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている xml 形式
cgats txt File [Output ID Order] (*.txt)	パッチ ID の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている txt 形式
CxF3 xml File [Output ID Order] (*.xml)	パッチ ID の順に出力され、CxF3 (色交換形式バージョン 3) で定義されている xml 形式

**【チャート登録】** 選択されてる測定データ名のフリーフォームチャートをチャート定義データとして登録します。

**【削除】** 選択した測定データ名のフリーフォームチャートを削除します。

## データリスト領域のボタン

新規作成

新しいチャートを作成するためのダイアログを開きます。p. 52 を参照してください。

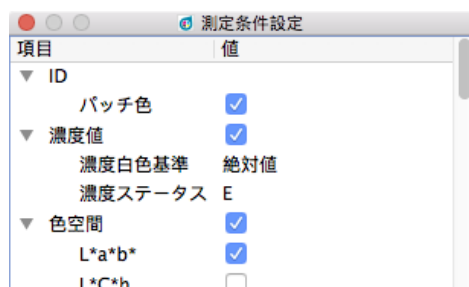
チャートを編集

チャートを編集するためのダイアログを開きます。p. 52 を参照してください。

- チャート定義データ名が選択されているときにのみ有効になります。

## [測定条件設定] ウィンドウ

[測定条件設定] ウィンドウは、どの測定データ値を [測定データ] ウィンドウに表示するか、および保存するときどの測定データ値をファイルに書き込むかを決定します。



- 測定グループ名の横にある ▼ (OS X、macOS の場合) または ▲ (Windows の場合) をクリックすると、そのグループの下にあるデータ項目のリストが折りたたまれます。
- グループ名の横にある ► (OS X、macOS の場合) または ▷ (Windows の場合) をクリックすると、そのグループの下にあるデータ項目のリストが展開されます。
- チェックボックス付きの測定項目の場合、その項目のデータ値を [測定データ] ウィンドウに表示するには、その測定項目が含まれているグループの名前の横にあるチェックボックスをオンにしてから、項目自体の横にあるチェックボックスをオンにします。項目にチェックを入れても、それが含まれているグループの名前にチェックを入れないと、その項目の測定データ値は [測定データ] ウィンドウに表示されません。
- ドロップダウンリスト付きの測定項目の場合、その項目のデータ値を [測定データ] ウィンドウに表示するには、その測定項目が含まれているグループの名前の横にあるチェックボックスをオンにしてから、使用する設定をドロップダウンリストから選択します。項目が含まれているグループの名前にチェックを入れないと、その項目の測定データは [測定データ] ウィンドウに表示されません。

• [濃度白色基準] を [用紙] に設定したとき、チャート定義データに、基準パッチとして、 $(C, M, Y, K) = (0, 0, 0, 0)$  または  $(R, G, B) = (255, 255, 255)$  と定義された色の白色パッチが含まれている必要があります。

• [照明条件] で、分光反射率を得るための照明を選択します。[観察光源] で、色空間データを計算するための光源を選択します。[観察光源] を [自動] に設定したとき、[照明光源] に適した光源<sup>\*1</sup>を自動で選択して色空間データを計算します。[観察光源] として任意の光源を選択したとき、色空間データは [照明条件] で得た分光反射率と [観察光源] で設定した光源から計算します。

\*1 適した光源

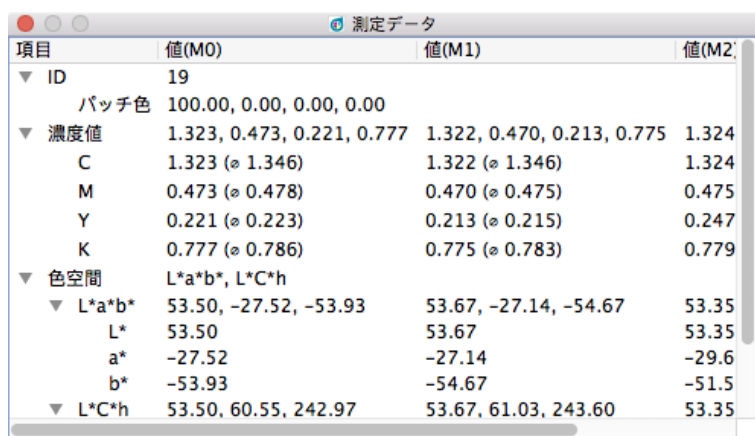
照明条件	観察光源
M0、M1、M2	D50
それ以外	照明光源と同じ

- [ID] で、パッチ定義 (RGB、CMYK、Multi Color) の表示と保存のオン / オフを切り替えることができます。これは、フリーフォーム測定で非常に役立ちます。  
一方、フィールド ID は常に測定ファイルに書き込まれます。

## [測定データ]ウィンドウ

[測定データ]ウィンドウは、[データリスト]ウィンドウで選択した測定済みチャートに[チャート表示]タブで現在選択されているカラーパッチの[測定条件設定]ウィンドウで選択されている各測定項目と照明条件に対して計算されたデータを表示します。

- チャート定義データ名が[データリスト]ウィンドウで選択されている場合は、そのチャート定義データの画像でパッチが選択されていても、データは表示されません。
- チャートに、パッチ定義が同じ複数のパッチが含まれている場合、これらのパッチの濃度値は、アクティブなパッチの測定値と、この定義を備えたすべてのパッチの平均値の両方を示します。



項目	値(M0)	値(M1)	値(M2)
▼ ID	19		
パッチ色	100.00, 0.00, 0.00, 0.00		
▼ 濃度値	1.323, 0.473, 0.221, 0.777	1.322, 0.470, 0.213, 0.775	1.324
C	1.323 (≈ 1.346)	1.322 (≈ 1.346)	1.324
M	0.473 (≈ 0.478)	0.470 (≈ 0.475)	0.475
Y	0.221 (≈ 0.223)	0.213 (≈ 0.215)	0.247
K	0.777 (≈ 0.786)	0.775 (≈ 0.783)	0.779
▼ 色空間	L*a*b*, L*C*h		
▼ L*a*b*	53.50, -27.52, -53.93	53.67, -27.14, -54.67	53.35
L*	53.50	53.67	53.35
a*	-27.52	-27.14	-29.6
b*	-53.93	-54.67	-51.5
▼ L*C*h	53.50, 60.55, 242.97	53.67, 61.03, 243.60	53.35

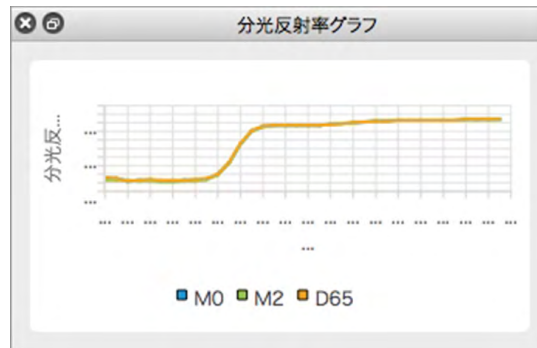
表示される測定データ項目は、[測定条件設定]ウィンドウで選択されている項目です。

- 測定グループ名またはサブグループ名の横にある ▼ (OS X, macOS の場合) または ▲ (Windows の場合) をクリックすると、その測定グループまたはサブグループの下にある測定データのリストが折りたたまれます。
- 測定グループ名またはサブグループ名の横にある ► (OS X, macOS の場合) または ▷ (Windows の場合) をクリックすると、その測定グループまたはサブグループの下にある測定データのリストが展開されます。

## [分光反射率グラフ] ウィンドウ

[分光反射率グラフ] ウィンドウは、[データリスト] ウィンドウで選択した測定済みチャートに [チャート表示] タブで現在選択されているカラーパッチの [測定条件設定] ウィンドウで選択されている各照明条件に対する分光反射率グラフを表示します。

- チャート定義データ名が [データリスト] ウィンドウで選択されている場合は、そのチャート定義データの画像でパッチが選択されていても、グラフは表示されません。



## 全ウィンドウに共通の操作

### ウィンドウの表示 / 非表示


ウィンドウを表示 / 非表示にするには、[ 表示 ] メニューでウィンドウ名を選択します。メニューのウィンドウ名の前のチェックボックスがオンのウィンドウが表示され、オフのウィンドウは非表示になります。ウィンドウ名をクリックすると、ウィンドウのステータスが切り替わります。

ウィンドウは、ウィンドウのタイトルバーにある X をクリックして非表示にする ( 閉じる ) こともできます。

### ウィンドウのドッキング / 積み重ね / 浮動

ウィンドウは、そのタイトルバーをクリックして希望の位置にドラッグすることで、FD-S2w のチャートキャンバス領域の上側、下側、左側、または右側にドッキングできます。ウィンドウを新しい場所に近づけると、青い領域が開き、ドラッグしたウィンドウをその中にドロップできます。浮動ウィンドウは、そのタイトルバーをダブルクリックしてドッキングすることも可能です。この場合、ウィンドウは、最後にドッキングされていた位置に戻されます。

ウィンドウを同じ領域でタブとして積み重ねるには、そのタイトルバーをクリックしてドッキングウィンドウにドラッグし、ドッキングウィンドウが青色になったら、ドッキングウィンドウにドロップします。すると、領域の下部にあるウィンドウタブをクリックすることで、積み重ねられたウィンドウ間を切り替えられるようになります。

ウィンドウを浮動させるには、ドッキングウィンドウのタイトルバーをクリックしてドッキングウィンドウの外にドラッグし、キャンバス領域にドロップします。また、ウィンドウの浮動は、ドッキングウィンドウのタイトルバーのダブルクリックや、タイトルバーの復元ボタン (  ) のクリックで行うこともできます。

### ウィンドウのサイズ変更

ウィンドウは、その境界をクリックして希望のサイズにドラッグすることで、サイズを変更できます。ドッキングウィンドウのサイズを変更すると、同じドッキング領域内の他のウィンドウのサイズも変更されます。

# ソフトウェアの起動

- ソフトウェアのインストールの詳細については、『インストールガイド』を参照してください。

## Ⅰ Windows を使用している場合：

測定ユーティリティソフトウェア FD-S2w を起動するには、[スタート]メニューで [KONICA MINOLTA] をクリックし、FD-S2w フォルダをクリックしてから、そのフォルダ内の FD-S2w のアイコンをクリックします。

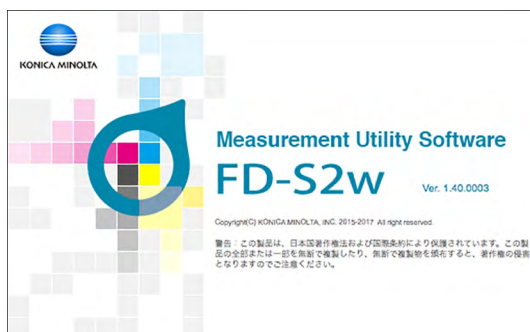
FD-S2w のショートカットがデスクトップに登録されている場合は、そのアイコンをダブルクリックして FD-S2w を起動することもできます。

## Ⅰ OS X、macOS を使用している場合：

FD-S2w のアイコンをダブルクリックして FD-S2w を起動することができます。

## Ⅰ スプラッシュ画面

ソフトウェアが起動すると、バージョンと著作権の情報を示す次のスプラッシュ画面が表示されます。



スプラッシュ画面は、[ヘルプ]メニューで[バージョン情報]を選択して表示することもできます。

## I FD-9 との接続

FD-S2w は、USB や LAN 経由で FD-9 と接続することができます。

- ソフトウェアは、以前に使用されていた場合、起動時に、最後に使用した FD-9 への再接続を自動的に試みます。最後に使用した FD-9 のシリアル番号を持つ FD-9 がない場合は、“FD-9 の接続に失敗しました。”というエラーメッセージが表示され、[ 測定器接続設定 ] ダイアログが表示されます。
- FD-S2w を使用する場合、コンピューターの「スリープ」機能を無効にすることをお勧めします。スリープ機能が有効の場合、使用中にコンピューターが「スリープ」状態に入ってチャートスキャンが急に中断されることがあります。その場合、チャートを手で排紙して、再接続をします。「スリープ」機能の設定は「電源オプション」(Windows の場合) または「省エネルギー」パネル (OS X、macOS の場合) で行います。
- コニカミノルタの正規サービス施設による校正後、FD-S2w を実行しているコンピューターに FD-9 が最初に接続されてから約 1 年が経過すると、[ 定期校正 ] ダイアログが表示されます。p. 90 を参照してください。

### リストからの選択

- FD-9 のスイッチが ON の状態で、[ 設定 (S) ] を選択します。[ 測定器接続設定 ] ダイアログが表示され、使用できる FD-9 測定器のリストが表示されます。



- 希望の FD-9 をリストから選択し、[ 接続 ] をクリックします。ソフトウェアが FD-9 への接続を試み、接続に成功すると、ダイアログが自動的に閉じます。
  - 接続に失敗すると、“FD-9 の接続に失敗しました。”というエラーメッセージが表示されます。リストで選択した FD-9 に対応する FD-9 のスイッチが ON であり、エラーメッセージが表示されていないことを確認してください。



## USB による接続

- 1 FD-9 とコンピューターが USB で接続されていて、FD-9 のスイッチが ON の状態で、メニューバーの [ 設定 (S) ] を選択し [ 測定器接続設定 ] を選択します。[ 測定器接続設定 ] ダイアログが表示されます。
- 2 [ デバイス指定 ] をクリックします。[ USB ] と [ Ethernet ] の項目が有効になります。
- 3 [ USB ] が選択されていない場合は、[ USB ] をクリックして選択してから、下矢印をクリックし、測定器を接続する COM ポートをプルダウンリストから選択します。
  - 必要な COM ポートがプルダウンリストに含まれていない場合は、必要な COM ポートを直接入力します (“COM20” など)。



- 4 [ 接続 ] をクリックします。ソフトウェアが FD-9 への接続を試み、接続に成功すると、ダイアログが自動的に閉じます。
  - 接続に失敗すると、“FD-9 の接続に失敗しました。”というエラーメッセージが表示されます。FD-9 のスイッチが ON であり、FD-9 が接続されている COM ポートが正しく設定されていることを確認してください。
  - OS X 10.11 および macOS 10.12 で USB 接続にて通信不具合が発生する場合、「LAN 経由の接続」(p. 26) でご使用下さい。

## LAN 経由の接続

FD-9 に LAN 経由で接続するには、LAN の IP アドレスまたは FD-9 に設定されているネットワーク名を使用します。

- LAN の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイは、測定器に直接設定することや、FD-S2w の [ ネットワーク設定 ] ダイアログを使用して設定することができます。ネットワーク名は、FD-S2w の [ ネットワーク設定 ] ダイアログでのみ設定できます。
- [ ネットワーク設定 ] ダイアログを使用してネットワーク設定を行う方法については、p. 28 を参照してください。
- OS X、macOS の場合はネットワーク名を使用して接続することはできません。

### LAN の IP アドレスを使用した接続

- 1 FD-9 が LAN に接続されていて、FD-9 のスイッチが ON の状態で、メニューバーの [ 設定 (S) ] を選択し [ 測定器接続設定 ] を選択します。[ 測定器接続設定 ] ダイアログが表示されます。
- 2 [ デバイス指定 ] をクリックします。[ USB ] と [ Ethernet ] の項目が有効になります。
- 3 [ Ethernet ] をクリックして選択し、[ IP アドレス ] をクリックして選択してから、下矢印をクリックし、測定器の IP アドレスをプルダウンリストから選択します。
  - 必要な IP アドレスがプルダウンリストに含まれていない場合は、必要な IP アドレスを直接入力します。



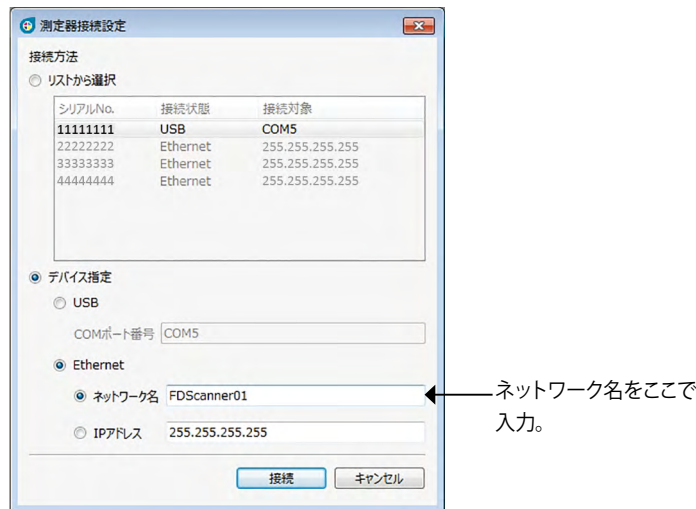
- 4 [ 接続 ] をクリックします。ソフトウェアが FD-9 への接続を試み、接続に成功すると、ダイアログが自動的に閉じます。
  - 接続に失敗すると、“FD-9 の接続に失敗しました。”というエラーメッセージが表示されます。FD-9 のスイッチが ON であり、FD-9 の IP アドレスが正しく設定されていることを確認してください。

## ネットワーク名を使用した接続 (Windows のみ)

FD-9 にネットワーク名が割り当てられている場合は、そのネットワーク名を使用して接続を実行できます。

- ネットワーク名の割り当ては、[ ネットワーク設定 ] ダイアログを使用して実行できます。p. 28 を参照してください。
- OS X、macOS の場合はネットワーク名を使用して接続するのはできません。

- 1 FD-9 が LAN に接続されていて、FD-9 のスイッチが ON の状態で、メニューバーの [ 設定 (S) ] を選択し [ 測定器接続設定 ] を選択します。[ 測定器接続設定 ] ダイアログが表示されます。
- 2 [ デバイス指定 ] をクリックします。[ USB ] と [ Ethernet ] の項目が有効になります。
- 3 [ Ethernet ] をクリックして選択し、[ ネットワーク名 ] をクリックして選択してから、測定器のネットワーク名を入力します。

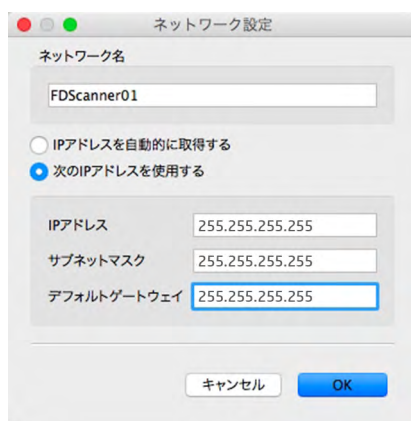


- 4 [ 接続 ] をクリックします。ソフトウェアが FD-9 への接続を試み、接続に成功すると、ダイアログが自動的に閉じます。
  - 接続に失敗すると、“FD-9 の接続に失敗しました。” というエラーメッセージが表示されます。FD-9 のスイッチが ON であり、FD-9 のネットワーク名が正しく設定されていることを確認してください。

## ネットワーク設定の設定

ネットワーク設定 ( ネットワーク名、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DHCP を使用するかどうか ) は、[ ネットワーク設定 ] ダイアログから設定できます。

- 1 FD-9 に USB で接続します。 ( p. 25 を参照してください。 ) ネットワーク設定は、USB で FD-9 に接続されている場合にのみ実行できます。
- 2 メニューバーで、[ 設定 (S) ] - [ ネットワーク設定 ] を選択します。[ ネットワーク設定 ] ダイアログが表示されます。



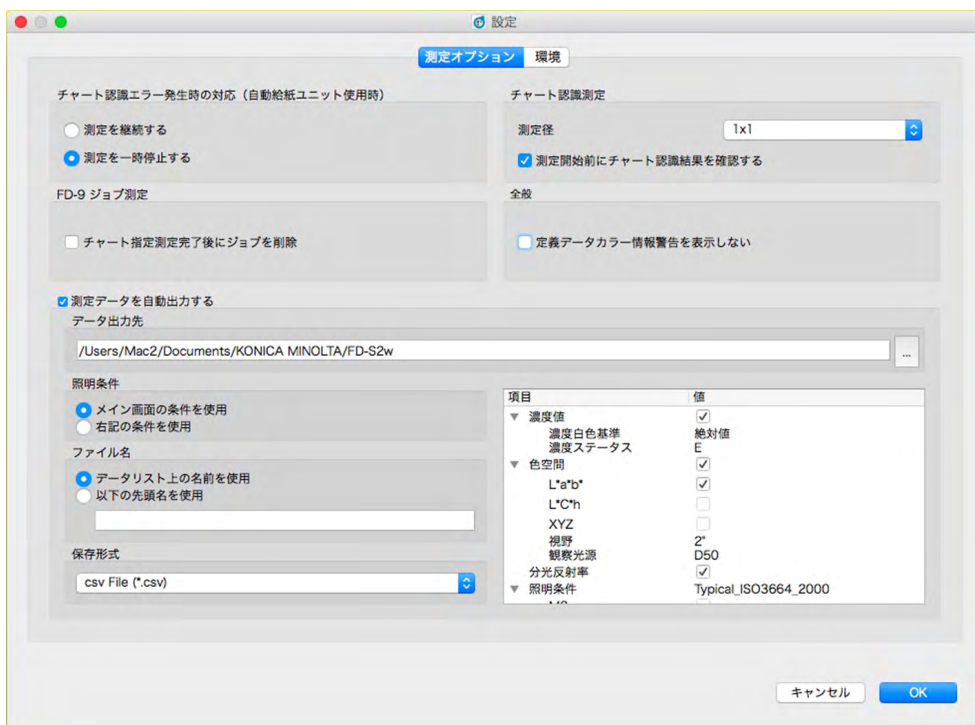
- 3 希望の設定を行います。
  - [IP アドレスを自動的に取得する] (DHCP を使用する ) が選択されている場合、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ] のテキストボックスは無効になります。
- 4 [OK] をクリックします。[ ネットワーク設定 ] ダイアログが閉じます。
- 5 FD-9 のスイッチを数秒 OFF にしてから、再度 ON にします。
  - 新しい設定は、FD-9 が再起動されるまでは有効になりません。

# 測定

## I 測定の設定

### [ 設定 ] ダイアログ - [ 測定オプション ] タブ

[ 設定 ] ダイアログの [ 測定オプション ] タブを開くには、メニューバーから [ 設定 (S) ] - [ 測定オプション ] を選択するか、[ 設定 ] ダイアログが開いていて [ 環境 ] タブが表示されているときに [ 測定 ] タブをクリックします。



[ チャート認識エラー発生時の対応 ( 自動給紙ユニット使用時 ) ]

スキャン中にエラーが発生した場合に行われる対応を決定します。既定値：[ 測定を一時停止する ]

[ 測定を継続する ]：エラーが発生しても、エラーメッセージを表示せずに、チャートの給紙またはスキャンを継続します。

[ 測定を一時停止する ]：エラーが発生した場合に、チャートの給紙またはスキャンを一時停止して、ポップアップエラーメッセージを表示します。

[ FD-9 ジョブ測定 ]

[ チャート指定測定完了後にジョブを削除 ] 既定値：無効

選択したチャート定義データへのスキャンが完了すると、選択したチャート定義データ名からチェックマークが削除されます。

## [ チャート認識測定 ]

## [ 測定径 ]

測定に使用する測定径のサイズを選択します。既定値：[1x1]

使用できる設定：[ 自動 ]、[1x1]、[2x2]、[3x3]、[4x4]

- [1x1] 以外の設定では、設定値に等しい仮想測定径を作成するために、同じパッチでパッチ内の位置が少しずれた複数の重複測定が使用されます。各パッチに複数の測定が行われるので、このような設定では測定時間が長くなります。

[ 測定開始前にチャート認識結果を確認する ] 既定値：無効

プレ測定後に測定を一時停止して、測定点の検証と変更を可能にします。

## [ 全般 ]

[ チャート定義データカラー情報警告を表示しない ] 既定値：無効

測定中のテストチャートと選択されているチャート定義データのパッチレイアウト、パッチ色 / 濃度などが一致しない場合でも、警告を表示しません。

## [ 測定データを自動出力する ]

各測定の後に数値測定データをファイルに自動的に保存するかどうかを決定します。既定値：無効

[ 測定データを自動出力する ] が有効な場合、次の項目を使用できます。

## [ データ出力先 ]

自動出力された測定データが保存される場所を設定します。( 最大長：200 文字 )

[ … ]：希望の保存場所を参照するためのダイアログを開きます。

## [ 測定条件 ]

各測定の後にファイルに保存する数値データの計算にどの照明条件を使用するかを決定します。既定値：[ メイン画面の条件を使用 ]

[ メイン画面の条件を使用 ]： [ 測定条件設定 ] ウィンドウの条件を使用します。

[ 右記の条件を使用 ]： ダイアログの右側で選択した条件を使用します。

## [ ファイル名 ]

測定データの自動出力に使用するファイル名の形式を決定します。既定値：[ データリスト上の名前を使用 ]

[ データリスト上の名前を使用 ]： ファイル名は、チャート名と測定番号から作成されます。

フリーフォーム測定の場合、測定番号だけが使用されます。

事前に選択されているファイル形式は、cgats txt ファイル (\*.txt) です。

ファイル名の形式：

<チャート名>+<測定番号>\_<照明条件>.<ファイル拡張子>

チャート定義データの場合の測定の例：Chart00042\_00116\_M0.txt

フリーフォーム測定の場合の例：00116\_M0.txt

[ 以下の先頭名を使用 ]：

テキストボックスに入力された名前をファイル名の先頭に使用します。

ファイル名の形式：

<テキストボックスのテキスト>+<シーケンス番号>\_<照明条件>.<ファイル拡張子>

例：TestMeas0001\_M0.txt

テキストボックス ([ 以下の先頭名を使用 ] を選択した場合のみ有効) :

ファイル名の前頭として使用するテキストの入力用。最大長 : 32 文字

#### [ 形式 ]

測定データを自動出力する形式を決定します。既定値 : csv ファイル (\*.csv)

使用できる形式 :

csv ファイル (*.csv)	パッチ位置の順に出力されたコンマ区切り値
txt ファイル (*.txt)	パッチ位置の順に出力されたタブ区切り値
cgats xml ファイル (*.xml)	パッチ位置の順に出力され、CGATS ( グラフィックアート技術標準委員会 ) で定義されている xml 形式
cgats txt ファイル (*.txt)	パッチ位置の順に出力され、CGATS ( グラフィックアート技術標準委員会 ) で定義されている txt 形式
CxF3 xml ファイル (*.xml)	パッチ位置の順に出力され、CxF3 ( 色交換形式バージョン 3 ) で定義されている xml 形式
csv ファイル [ 出力は ID 順 ] (*.csv)	パッチ ID の順に出力されたコンマ区切り値
txt ファイル [ 出力は ID 順 ] (*.txt)	パッチ ID の順に出力されたタブ区切り値
cgats xml ファイル [ 出力は ID 順 ] (*.xml)	パッチ ID の順に出力され、CGATS ( グラフィックアート技術標準委員会 ) で定義されている xml 形式
cgats txt ファイル [ 出力は ID 順 ] (*.txt)	パッチ ID の順に出力され、CGATS ( グラフィックアート技術標準委員会 ) で定義されている txt 形式
CxF3 xml ファイル [ 出力は ID 順 ] (*.xml)	パッチ ID の順に出力され、CxF3 ( 色交換形式バージョン 3 ) で定義されている xml 形式

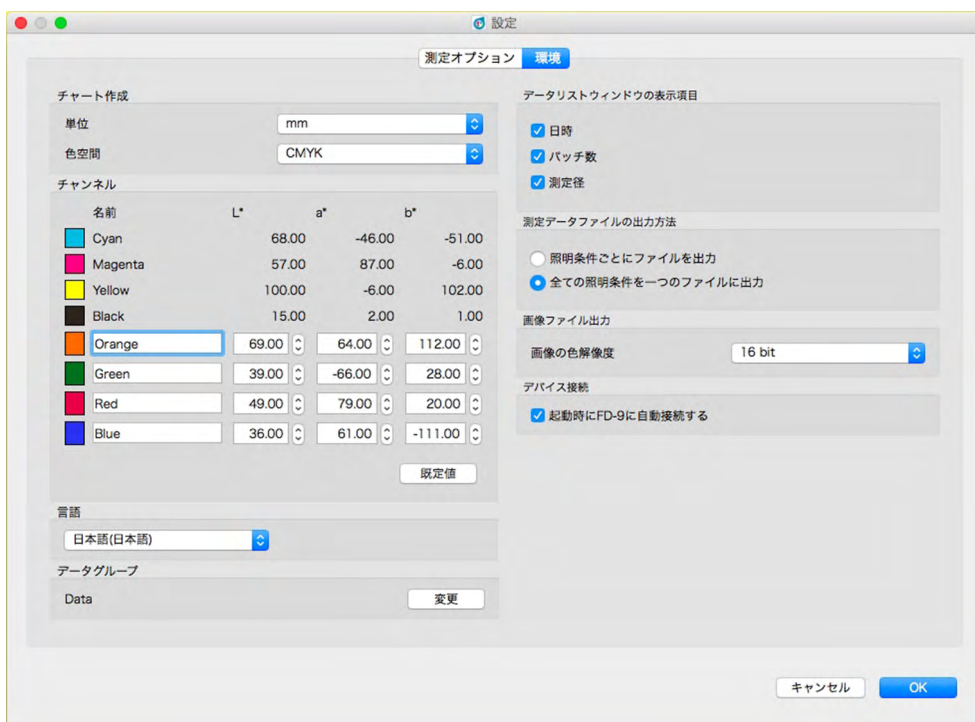
測定条件設定領域 : 自動的に出力される測定データを計算するための照明条件を設定します。

[OK]                    設定を保存してダイアログを閉じます。

[ キャンセル ]        変更を保存せずにダイアログを閉じます。

## [ 設定 ] ダイアログ - [ 環境 ] タブ

[ 設定 ] ダイアログの [ 環境 ] タブを開くには、メニューバーから [ 設定 (S) ] - [ 環境 ] を選択するか、[ 設定 ] ダイアログが開いていて [ 測定オプション ] タブが表示されているときに [ 環境 ] タブをクリックします。



- [ チャート作成 ] および [ チャンネル ] セクションの設定は、以降に作成されるチャートにのみ適用されます。以前に作成されたチャートは、チャートの作成時に設定されていた [ 単位 ] と [ 色空間 ] の設定を使用し表示されます。

### [ チャート作成 ]

[ 単位 ] :      使用する単位を設定します。既定値 : [ mm ]  
 使用できる設定 : [ mm ]、[ インチ ]

[ 色空間 ] :    チャート作成時に使用するカラーシステムを設定します。既定値 : [ RGB ]  
 使用できる設定 : [ RGB ]、[ CMYK ]、[ 5 色 ]、[ 6 色 ]、[ 7 色 ]、[ 8 色 ]

### [ チャンネル ]

[ 色空間 ] として [ 5 色 ]、[ 6 色 ]、[ 7 色 ]、または [ 8 色 ] が選択されている場合に、チャンネル 5 以上の  $L^*a^*b^*$  のカラー値を定義します。

- チャンネル 5 以上への色の変更は、これらのチャンネルを使用して以前に作成されたチャートが再度編集および保存された場合に適用されます。



- [ 言語 ]            FD-S2w の次回起動時に使用する言語を設定します。  
使用できる設定 : [English( 英語 )]、[ 日本語 ( 日本語 )]、[ 中文 ( 簡体字 )( 中国語 ( 簡体字 )]、  
[Deutsch( ドイツ語 )]、[Français( フランス語 )]、[Español( スペイン語 )]  
• 設定への変更は、FD-S2w が再起動されるまでは有効になりません。

[ データグループ ]

FD-S2w では、測定データを以下の場所にある Chart\ および Density\ フォルダの下にあるデータフォルダに自動的に保存します。

OS X、macOS の場合 : /Users/(user name)/Library/Application Support/KONICA MINOLTA/  
FD-S2w/

Windows の場合 : C:\ユーザー \< ユーザー名 >\AppData\Local\KONICA MINOLTA\FD-S2w\

ここに表示されるフォルダ名は、Chart\ および Density\ フォルダの下にあるユーザーデータフォルダに使用されている名前です。

希望に応じて、異なるユーザーには異なるユーザーデータフォルダを使用できます。

- データフォルダごとの最大測定数 : 6,000  
※ 測定数が多いと、ソフトウェアの起動に非常に時間がかかるようになります。このため、1 フォルダあたりの測定数は 3,000 程度に抑えることをお勧めします。
- データグループの追加 / 変更については、p. 34 を参照してください。

[ データリストウィンドウの表示項目 ]

チャート・測定名以外の項目の表示・非表示を設定できます。

項目 :

[ 日時 ]、[ パッチ数 ]、[ 測定径 ]

[ 測定データファイルの出力方法 ]

[ 照明条件ごとにファイルを出力 ] : 測定データを出力するとき、選択された照明条件ごとにファイルが作成されます。測定 1 個の出力ファイル数は選択された照明条件の数になります。

[ 全ての照明条件を一つのファイルに出力 ] : 測定データを出力するとき、選択された全照明条件の測定データを 1 個のファイルに出力します。選択された照明条件数に関わらずファイル 1 個だけが作成されます。

[ 画像ファイル出力 ]

[ 画像の色解像度 ] : TIFF 画像ファイル出力の色解像度

使用できる設定 : [8 bit]、[16 bit]

[ デバイス接続 ]

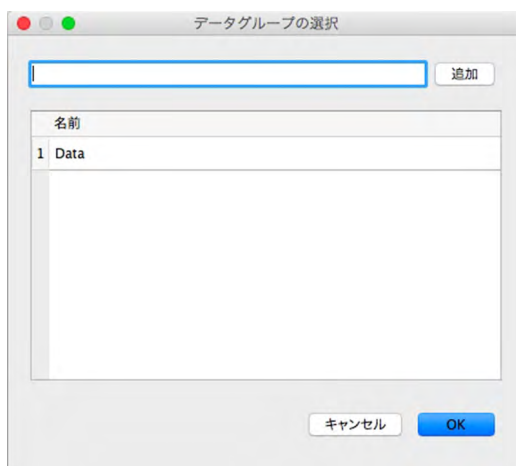
[ 起動時に FD-9 に自動接続する ] : 有効な場合、FD-S2w は起動時に FD-9 に自動的に接続を行います。

[OK]                設定を保存してダイアログを閉じます。

[ キャンセル ]    変更を保存せずにダイアログを閉じます。

## データグループの追加 / 変更

- 1 [変更]をクリックします。[データグループの選択]ダイアログが表示され、現在設定されているデータグループのリストが表示されます。



- 2 データグループを追加するには、希望のグループ名をテキストボックスに入力し、[追加]をクリックします。新しいデータグループ名がデータグループリストに追加されます。
- 3 データグループを変更するには、使用できるグループのリストから希望のデータグループを選択し、[OK]をクリックします。[データグループの選択]ダイアログが閉じ、新しいデータグループ名が[環境]タブの[データグループ]に表示されます。[環境]タブを閉じると、選択したデータグループに保存された測定が、FD-S2wのメイン画面の[データリスト]ウィンドウまたは[濃度 / カラーバランス]ウィンドウの[チャートリスト]ウィンドウに表示されます。

[OK] 設定を保存してダイアログを閉じます。

[キャンセル] 変更を保存せずにダイアログを閉じます。

## Ⅰ チャート条件

- チャートによっては、以下の用紙サイズとレイアウト条件に合致しても測定できないことがあります。

### 用紙サイズ

	FD-9 本体単体使用の場合	別売の自動給紙ユニット FD-A09 の場合
用紙幅	45 ～ 330mm	90 ～ 320mm
用紙長	170 ～ 1500mm	170 ～ 450mm
用紙厚	0.05 ～ 0.45mm	0.08 ～ 0.25mm *1

- 位置決めマーカは不要です。

\*1 別売の自動給紙ユニット FD-A09 を使用するときの推奨する最大用紙積載量

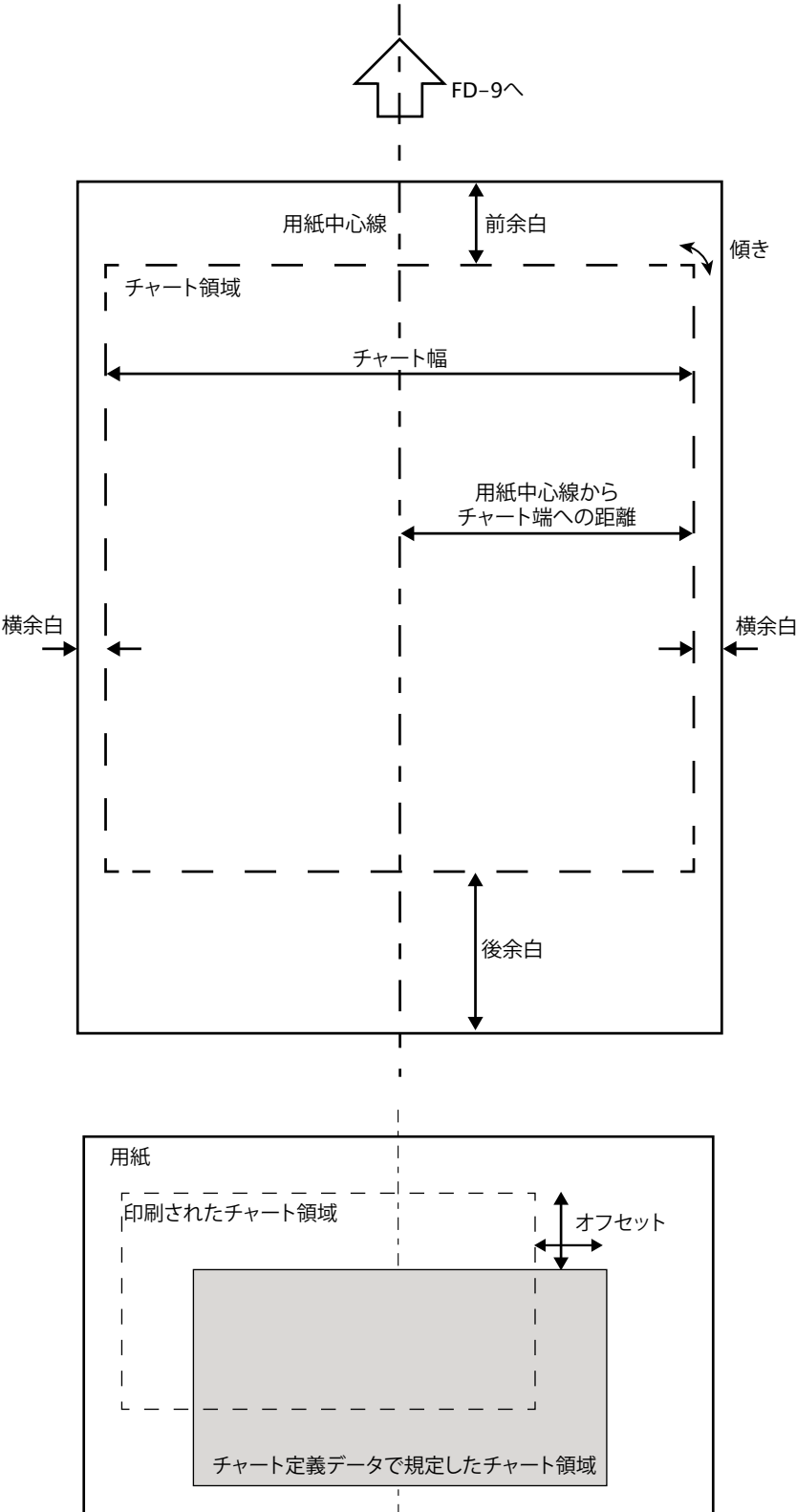
普通紙 (80g/m<sup>2</sup>) : 100 枚

厚紙 (130g/m<sup>2</sup>) : 70 枚

### 用紙とチャートの位置関係

用紙上のチャートのレイアウトは、以下のレイアウトに合致する必要があります。(右図を参照)

最小上端マージン	23mm
最小下端マージン	33mm
最小両端マージン	4mm
用紙中心線よりチャート領域両端への距離	150mm 以内
チャート領域最大幅	300mm
チャート領域最大長さ	1444mm
印刷傾き (用紙端に対して)	± 2° (最大)
オフセット (印刷位置) (チャート定義データとのずれ)	± 21mm (最大)



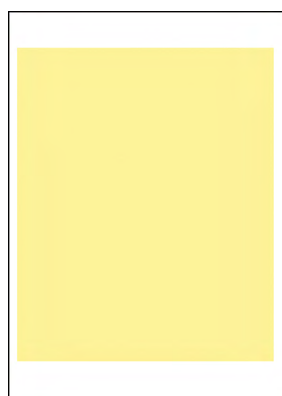
## 一般的なパッチ領域（パッチのグループ）とパッチ条件

パッチ領域間の白色領域	8mm 以上
1 ページ当たりの最大パッチ領域数	50
パッチサイズ（縦・横）	最小：6mm； 最大：30mm
パッチの傾き	給紙方向ラインの± 2°以内
1 ページ当たりの最大パッチ数	12932 (参照：A4 サイズの用紙：1394 A3 サイズの用紙：2928)

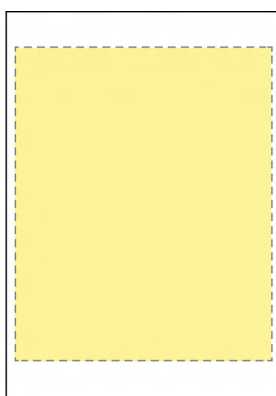
- パッチ領域には、縦方向と横方向の間隔を一定にした同一サイズのパッチを配置してください。
- パッチ領域の周辺の領域は白色にしてください。パッチ領域の周囲は高濃度の色にしないでください。
- パッチ領域の境界の 2mm 以内にテキストやその他の文字あるいは記号がないようにしてください。
- ストリップチャートの場合、チャートの縦方向の延長線上の領域に文字がないようにしてください。
- パッチは正方形または長方形でなければなりません。円、楕円、不規則な形状は、パッチとして認識されない場合があります。
- 隣接するパッチ間、またはパッチと隣接する間隔での濃度差は 40 / 256 トーン以上でなければなりません。
- パッチ間隔の幅は、パッチ幅の 17% 未満にしてください。

## ベタチャート条件

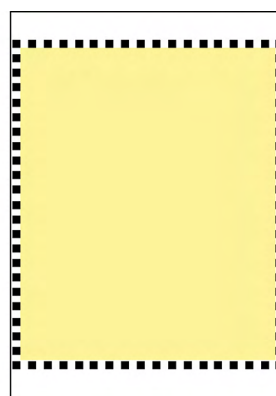
ベタチャート（ページの大部分をカバーする単一の大規模なソリッドカラーの領域からなるチャート）を測定する場合、測定パッチ位置決め精度を得るために下記のベタ領域の外周を示す対策のどちらかをお勧めします。



元のチャート



方法 1：外周に破線で囲み線を追加する。



方法 2：黒パッチ（ベタ領域と異なる色）を追加する

## フリーフォームチャート測定のためのチャート条件

フリーフォームチャート測定のため、FD-9 は、パッチ領域の位置とサイズおよび各パッチ領域内のパッチを確定しようとします（位置とサイズのデータが事前に定義されていない場合）。ただし、ある特定の条件の下では、FD-9 は、正しくパッチ領域とパッチを認識できない場合があります。このような場合、測定するチャートのレイアウトを持つチャート定義データを作成し、このチャート定義データを使用して測定を行うことをお勧めします。

## 1 チャート定義データの測定の実行

チャート定義データには、各パッチの色のデータと、パッチの位置とサイズのデータが含まれています。チャート定義データに QR コードが付いているとき、その QR コードにチャート名、ページ数、パッチ数（パッチ行と列）が記録され、テストチャート測定のときにチャート定義データを自動選択できます。

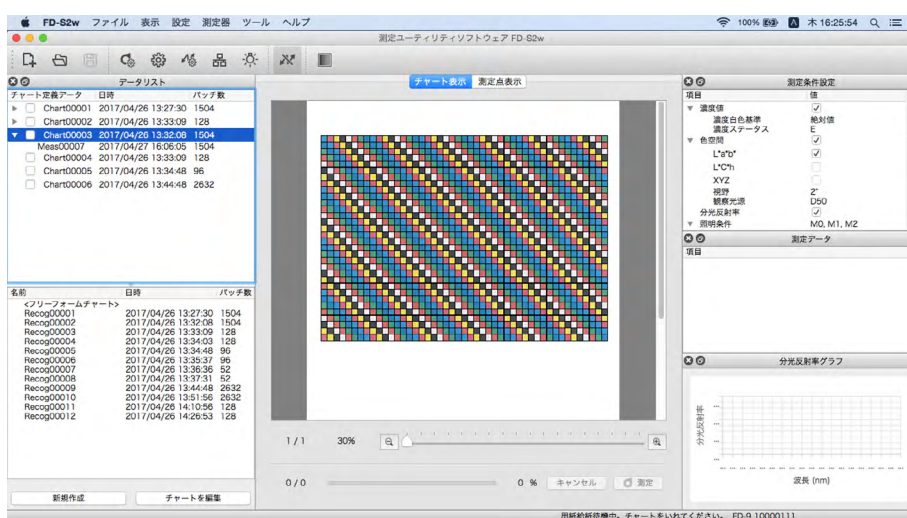
- チャート定義データの作成については、p. 52 を参照してください。

## チャート定義データのユーザーによる選択

ユーザーが選択したチャート定義データに対しての測定を実行するには：

- QR コードによる選択されたチャート定義データに対しての測定については、p. 40 を参照してください。

- 1 チャート定義データのリストで希望のチャートを選択します。チャート定義データチャートのカラー画像がチャートキャンバスに表示されます。



- 2 測定するテストチャートを FD-9 に挿入します。

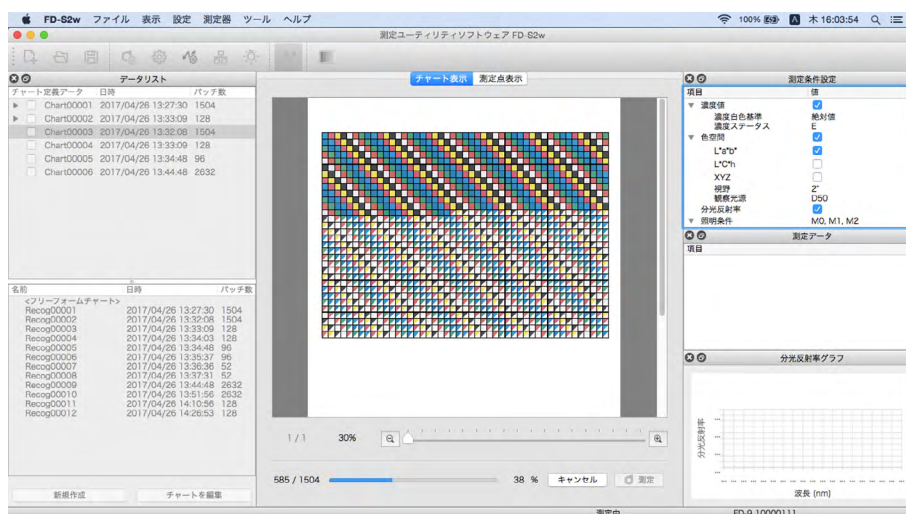
- 複数ページチャートの場合、テストチャートの 1 ページ目を挿入します。
- オプションの自動給紙ユニットを使用している場合は、測定する 1 つ以上のテストチャートを給紙トレイに置いてから、FD-9 本体の [OK] ボタンを押します。複数ページチャートの場合、上からチャートページ順にテストチャートを給紙トレイに置きます。

- 3 測定するテストチャートのプレ測定が行われます。

- 測定するテストチャートのプレ測定で認識されたパッチのサイズと位置がチャート定義データのパッチ位置と一致しない場合、“位置検出した結果がチャート定義データと異なります。”という警告メッセージが表示されます。（このメッセージは、テストチャートが実際には正しくても、テストチャート内の白い領域がパッチエリアとして認識されないことが原因で表示される場合もあります。）測定を継続する場合は、[OK] をクリックします。

- 4 FD-9 でパッチ測定が開始されます。[チャート表示] タブに、チャート定義データチャートのカラー画像が表示され、各パッチに定義されている色がパッチの左上半分に表示されます。各パッチの測定が完了すると、パッチの右下半分が、測定された色に変更されます。テストチャートの測定の進行状況は、ステータスバーに表示されます。

- 測定をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。測定がキャンセルされ、数秒後に、FD-9 がテストチャートを排出します。



- 複数ページテストチャートを手動による給紙の場合、次のページをFD-9に挿入すると、FD-9がステップ3と4を繰り返します。同じテストチャートページを順番どおりで挿入します。
- 複数ページのテストチャートをオプションの自動給紙ユニットで給紙の場合、すべてのページが測定完了するまでステップ3と4を自動的に繰り返します。
- 測定中にコンピューターが「スリープ」状態に入ると、チャートスキャンが急に中断されることがあります。その場合、チャートを手動で排紙して、再接続をします。「スリープ」機能を無効にするのは「電源オプション」(Windowsの場合)または「省エネルギー」パネル(OS X、macOSの場合)で行います。

- 5 テストチャート測定が完了すると、連番で測定データ名として付けて、選択したチャート定義データ名の下に表示され、データが自動的に格納されます。

- [データリスト] ウィンドウで測定結果を選択すると、チャートキャンバスの[チャート表示] タブの画像が、測定したチャートの画像に変更され、定義されている色と測定された色を表示する斜めに分割されたパッチの代わりに、測定された色のみが各パッチで表示されます。
- オプションの自動給紙ユニット使用の場合、自動給紙ユニットは給紙トレイにあるすべてのテストチャートを測定するまで、トレイから次のテストチャートを挿入し、ステップ3から5を繰り返します。測定中にチャート認識エラーが発生すると、[設定] ダイアログの[測定オプション] タブの「チャート認識エラー発生時の対応(自動給紙ユニット使用時)」設定に従って処理を行います。

## チャート定義データの QR コードによる自動選択

QR コードがテストチャートにある場合、チャート測定るときチャート定義データを自動的に選択することがされます。

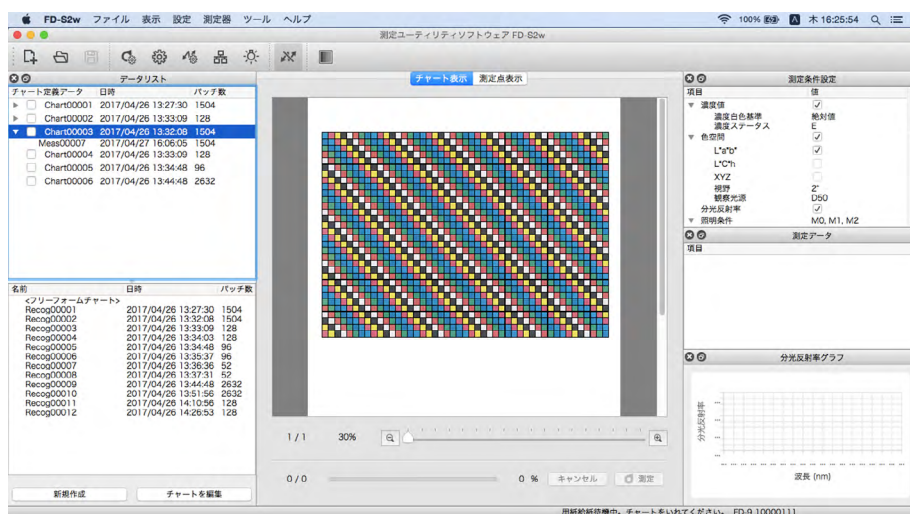
QR コード付きテストチャートのチャート定義データ測定を実行するには：

- チャート定義データのユーザーによる選択の測定の場合、p. 38 参照。

### 1 測定するテストチャートを FD-9 に挿入します。

- QR コード付き複数ページのチャートを測定する場合、テストチャート内のページは任意順番で挿入できます。FD-S2 wは QR コードからチャート内のページ番号を読み取ります。
- オプションの自動給紙ユニットを使用している場合は、測定する 1 つ以上のテストチャートを給紙トレイに置いてから、FD-9 本体の [OK] ボタンを押します。テストチャートは複数ページチャートの場合、各チャート内のページは任意順番で給紙トレイに置くことはできますが、異なるチャートを混ぜることはできません。

### 2 FD-9 で測定するテストチャートのプレ測定が行われ、測定するチャートの QR コードで指定されているチャート定義データが自動的に選択されます。チャート定義データチャートの画像（複数ページテストチャートの場合はチャートの 1 ページ目）はチャートキャンバスに表示します。

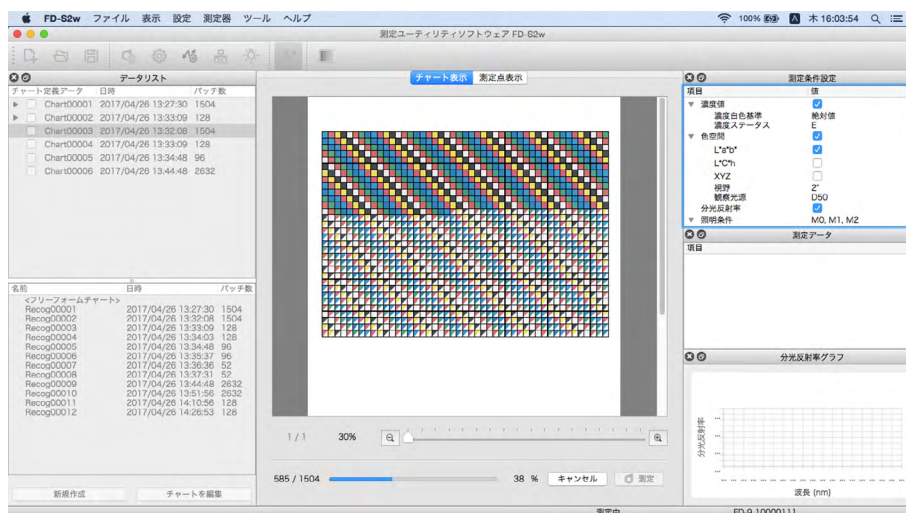


- QR コードで指定しているチャート定義データ名はチャートリストに含まれてない場合、QR コードが付いてない場合と同じ動作になります。チャートリストにチャート定義データ名またはチャート定義データ下の測定データ名が選択されてる場合、そのチャート定義データに対して測定を行います (p. 38 参照)。フリーフォームチャートのリストで“<フリーフォームチャート>”が選択されてる場合、フリーフォームチャート測定を行います (p. 42 参照)。



- 3 FD-9 でパッチ測定が開始されます。[チャート表示] タブに、チャート定義データチャートのカラー画像が表示され、各パッチに定義されている色がパッチの左上半分に表示されます。各パッチの測定が完了すると、パッチの右下半分が、測定された色に変更されます。テストチャートの測定の進行状況は、ステータスバーに表示されます。

- 測定をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックします。測定がキャンセルされ、数秒後に、FD-9 がテストチャートを排出します。



- 複数ページのテストチャートを手動による給紙の場合、テストチャートのほかのページを FD-9 に挿入すると、FD-9 がステップ 2 から 4 を繰り返します。テストチャート内のページは任意順番で挿入できますが、テストチャートのすべてのページを挿入する前に違うチャートのページを挿入すると、そのページは別のチャートとして測定します。
- 複数ページのテストチャートをオプションの自動給紙ユニットで給紙の場合、すべてのページが測定完了するまでステップ 2 から 4 を自動的に繰り返します。
- 測定中にコンピューターが「スリープ」状態に入ると、チャートスキャンが急に中断されることがあります。その場合、チャートを手動で排紙して、再接続をします。「スリープ」機能を無効にするのは「電源オプション」(Windows の場合) または「省エネルギー」パネル (OS X、macOS の場合) で行います。

- 4 テストチャートの測定が完了すると、連番で測定データ名として付けて、QR コードによる選択したチャート定義データ名の下に表示され、データが自動的に格納されます。

- [データリスト] ウィンドウで測定結果を選択すると、チャートキャンバスの [チャート表示] タブの画像が、測定したチャートの画像に変更され、定義されている色と測定された色を表示する斜めに分割されたパッチの代わりに、測定された色のみが各パッチで表示されます。
- オプションの自動給紙ユニット使用の場合、自動給紙ユニットは給紙トレイにあるすべてのテストチャートを測定するまで、トレイから次のテストチャートを挿入し、ステップ 3 から 5 を繰り返します。測定中にチャート認識エラーが発生すると、[設定] ダイアログの [測定オプション] タブの "チャート認識エラー発生時の対応 (自動給紙ユニット使用時)" 設定に従って処理を行います。

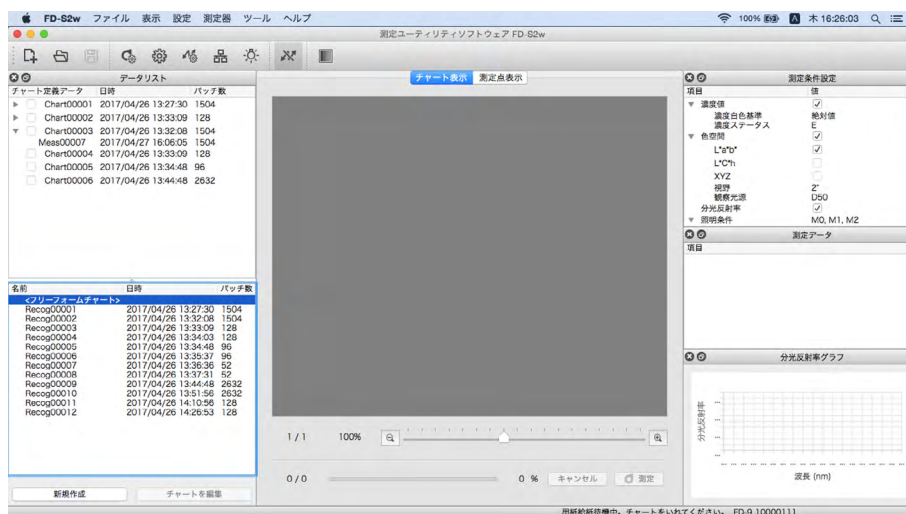
## I フリーフォームチャートの測定の実行


フリーフォームチャートの測定とは、チャート定義データを使わずに行う測定です。

- フリーフォームチャートの測定のためのパッチエリアとパッチ条件の詳細については、p. 35 の「フリーフォームチャート測定のためのチャート条件」を参照してください。

フリーフォームチャートの測定を実行するには：

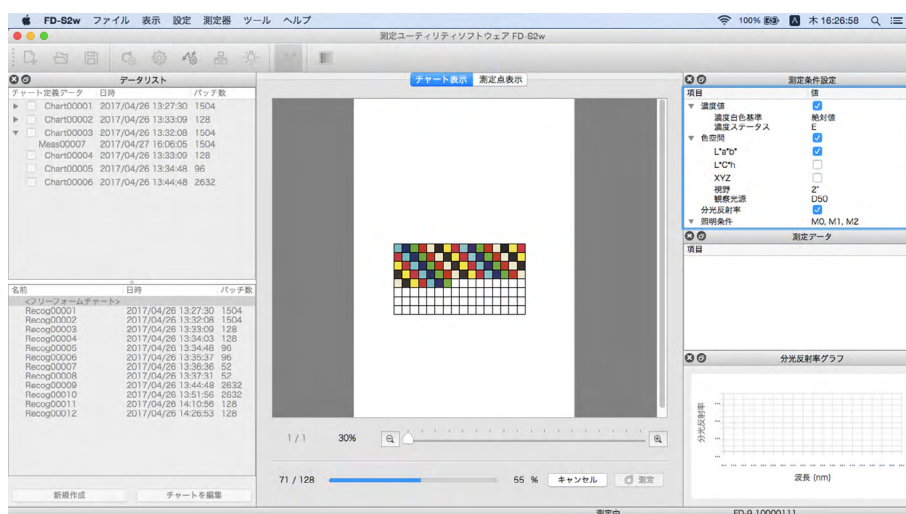
- 1 フリーフォームチャートのリストで“<フリーフォームチャート>”を選択します。チャートキャンバス領域は空白になります。



- 2 測定するチャートを FD-9 に挿入します。
  - オプションの自動給紙ユニットを使用している場合は、測定する 1 つ以上のチャートを給紙トレイに入れてから、FD-9 本体の [OK] ボタンを押します。
- 3 測定するチャートのプレ測定が行われ、パッチ位置と測定点が決定されます。
  - QR コードがテストチャートにある場合、“<フリーフォームチャート>”を選択しても、チャート測定るときチャート定義データが自動的に選択されます。
- 4 [設定] ダイアログの [測定オプション] タブで [測定開始前にチャート認識結果を確認する] が有効な場合、プレ測定の後に測定が一時停止され、認識されたパッチと測定点を [測定点表示] タブで確認できます。(測定点の編集については、p. 45 を参照してください。) 測定を継続するには、 を押します。

5 FD-9 でパッチ測定が開始されます。各パッチの測定が完了すると、パッチの測定された色が表示されます。チャートの測定の進行状況は、ステータスバーに表示されます。

- 測定をキャンセルするには、[キャンセル]をクリックします。測定がキャンセルされ、数秒後に、FD-9 がテストチャートを排出します。



- 測定中にコンピュータが「スリープ」状態に入ると、チャートスキャンが急に中断されることがあります。その場合、チャートを手動で排紙して、再接続をします。「スリープ」機能を無効にするのは「電源オプション」(Windows の場合) または「省エネルギー」パネル (OS X、macOS の場合) で行います。

6 測定が完了すると、測定結果が連番で測定データ名となり、フリーフォームチャートのリストに表示され、データが自動的に格納されます。

- オプションの自動給紙ユニット使用の場合、自動給紙ユニットは給紙トレイにあるすべてのテストチャートを測定するまで、トレイから次のテストチャートを挿入し、ステップ 3 から 5 を繰り返します。測定中にチャート認識エラーが発生すると、[設定] ダイアログの [測定オプション] タブの "チャート認識エラー発生時の対応 (自動給紙ユニット使用時)" 設定に従って処理を行います。

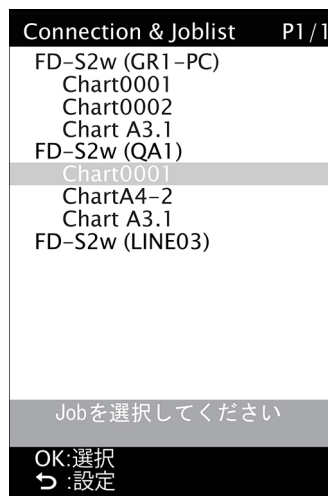
## I FD-9 ジョブ測定の実行

FD-9 で FD-S2w を使用している場合、測定データの送信先コンピューターを FD-9 から選択できます。また、[データリスト] ウィンドウのチャート定義データのセクションでチャート定義データが [FD-9 ジョブ測定] に対して有効にされている場合は、測定の対象とするチャート定義データも選択できます。

- FD-9 ジョブ測定のチャート定義データを有効にするには、チャート定義データリスト領域のチャート定義データの隣にあるチェックボックスをクリックしてチェックボックスをオンにします。
- FD-9 が USB で接続されている場合は、使用できる送信先コンピューターは 1 台のみです。FD-9 が LAN 経由で接続されている場合は、FD-9 に接続されている複数のコンピューターの中から送信先コンピューターを選択できます。

FD-9 で送信先コンピューターまたはチャート定義データを選択するには：

- 1 FD-9 で、メイン画面 ( “チャートをいれてください” と表示されている画面 ) が LCD に表示されているときに、[OK] を押します。FD-9 の LCD が以下の [Connection & Joblist] 画面に切り替わります。



- 2 測定の送信先として使用するコンピューターまたはチャート定義データを選択するには、▼ または ▲ を押します。
- 3 [OK] を押します。FD-9 の LCD がメイン画面に戻ります。
- 4 選択後に、測定を実行するためにテストチャートが FD-9 に給紙された場合：
  - チャート定義データ名を選択した場合、チャートが FD-9 に給紙されると、測定は、選択したコンピューター上の選択したチャート定義データに対して行われます。
  - チャート定義データ名を選択して、設定ダイアログの [測定オプション] タブの [FD-9 ジョブ測定] の “チャート指定測定完了後にジョブを削除” が有効な場合、チャートの測定が正常に完了した後は、チャート定義データのリモート選択が無効になります。
  - コンピューターを選択した場合、チャートが FD-9 に給紙されると、測定は、選択したコンピューター上のフリーフォームチャートの測定として行われます。
- 5 測定が完了すると、データは、選択したコンピューターまたは選択したチャートのコンピューターに表示されます。

## Ⅰ 測定点の編集

スキャンされたチャート上の測定点は[測定点を編集]ダイアログで編集でき、編集結果は新しいチャートとして登録されます。

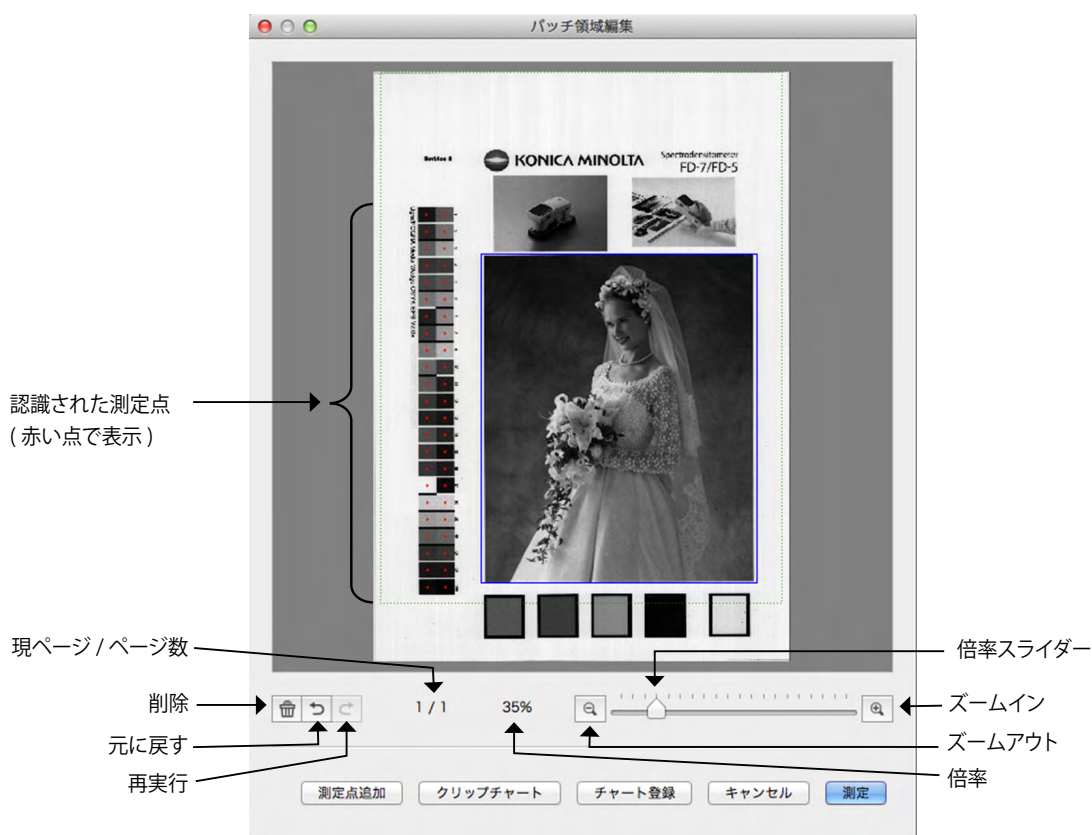
フリーフォームチャートの測定の場合、測定点の編集は、プレ測定後のパッチ測定前と、チャートのパッチ測定の完了後に実行できます。

チャート定義データチャートの測定の場合、スキャンおよび測定されたチャート上の測定点の編集は、チャートのパッチ測定の完了後にのみ実行できます。

- 測定されたチャートではなくチャート定義データの編集については、p. 52 を参照してください。

### [パッチ領域編集] ダイアログ

[パッチ領域編集] ダイアログを開くには、チャートキャンバスの[測定点表示]タブの **測定点を編集** をクリックします。[パッチ領域編集] ダイアログが表示されます。



## 測定点の削除

### 1 削除する点を、次のいずれかの方法で選択します。

単一点：

単一点を選択するには、その点をクリックします。色が赤から黄色に変わります。

複数の隣接点：

複数の隣接点を選択するには、選択する点を囲む青枠をクリック & ドラッグで作成します（青枠内の点の色が赤から黄色に変わります）。



複数の非隣接点：

複数の非隣接点を選択するには、最初の点をクリックしてから、[Ctrl] (Windows) / [Cmd] (macOS) を押しながら追加の点をクリックします（各点を選択すると、その色が赤から黄色に変わります）。

選択のキャンセル：

点の選択をキャンセルするには、選択した 1 つ以上の測定点以外の領域をクリックします。測定点の色が赤に戻ります。

### 2 削除する測定点を選択した後、 (削除) をクリックします。選択した測定点が削除されます。

- 削除を元に戻すには、 (元に戻す) をクリックします。このボタンが押されるたびに、最後の削除から順に、削除が 1 つずつ元に戻されます。
- 元に戻した削除を再実行するには、 (再実行) ボタンをクリックします。このボタンが押されるたびに、最後に元に戻された削除から順に、元に戻された削除が 1 つずつ再実行されます。

## 測定点の直接追加

- 1 スキャンされたチャートの画像の上にクリック & ドラッグして、測定点を追加するエリアを囲む青枠を作成してから、マウスボタンを離します。
- 2 **測定点追加** をクリックします。[測定点追加] ダイアログを表示します。行数・列数の初期設定は最小パッチサイズで青枠内に作成できる行数・列数です。
- 3 任意行数・列数を設定し、[OK] をクリックします。[チャート領域編集] ダイアログが表示され、ステップ1で青枠を囲んだエリアに設定された行数・列数の赤いグリッドが表示します。





- 設定された行数または列数が最小パッチサイズでステップ1で青枠を囲んだエリアに作成できない場合、最小パッチサイズで設定行数・列数が作成できるように赤グリッドのエリアを広げます。
- 最大パッチサイズで設定された行数・列数で作成するエリアがステップ1で青枠を囲んだエリアより小さい場合、赤グリッドを囲むエリアは設定された行数・列数を最大パッチサイズで囲むエリアに縮めます。
- 赤グリッドのサイズはグリッドの右下隅をクリックし、カーソルが両方向矢印にしてから右下隅をドラッグして変更できます。ただし、グリッドサイズは最小パッチサイズ×行数・列数より小さいまたは最大パッチサイズ×行数・列数より大きいのはできません。
- 赤グリッドの位置はグリッド内にクリック & ドラッグで任意の位置に移動できます。




- **レイアウト設定：**
  - パッチエリア設定はレイアウトセクションに数値で変更できます。（用紙レイアウト設定は変更できません。）
  - 左上座標：赤グリッドの左上座標位置の変更は、XとY値をクリックして直接入力するまたは値の横にある ▲ または ▼ のボタンをクリックして設定で行います。
  - パッチ数：パッチ数を変更は、行数と列数の値をクリックして直接入力するまたは値の横にある ▲ または ▼ のボタンをクリックして設定で行います。（パッチ数は行数×列数で、直接設定できません。）
  - パッチサイズ：パッチサイズの変更は、幅値と高さ値をクリックして直接入力するまたは値の横にある ▲ または ▼ のボタンをクリックして設定で行います。すべてのパッチは同じパッチサイズになります。必要に応じて、赤グリッド全体のサイズは変更されます。
  - パッチ間隔：パッチ間隔（あるパッチの端から隣接パッチの同じ端までの距離）の変更は、幅値と高さ値をクリックして直接入力するまたは値の横にある ▲ または ▼ のボタンをクリックして設定で行います。すべてのパッチ間隔は同じになります。必要に応じて、赤グリッド全体のサイズは変更されます。
- **チャート領域の倍率：**

チャート領域の倍率は、以下の方法で変更できます。

率の横 ▼ をクリックして、ドロップダウンリストから希望の倍率または [ウィンドウに合わせる] を選択します。

倍率を下げるには  (ズームアウト) を、上げるには  (ズームイン) をクリックします。

または

スライダー  をクリックして、希望の倍率にドラッグします。

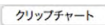
#### 4 赤グリッドのサイズ、位置、レイアウトと行数・列数の設定を完了するため、[OK]をクリックします。[チャート領域編集] ダイアログが閉じて、[パッチ領域編集] ダイアログに戻ります。測定点が赤グリッドの各矩形の中心に追加します。

- [Cancel] をクリックすると、測定点の追加と変更を保存せずに [チャート領域編集] ダイアログを閉じて、[パッチ領域編集] ダイアログに戻ります。

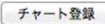


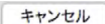
## クリッピングチャートによる測定点の追加

- クリッピングチャートによる測定点の追加は、[ 設定 ] ダイアログの [ 測定オプション ] タブで [ 測定開始前にチャート認識結果を確認する ] が有効 ( オン ) にされている状態でフリーフォームチャートの測定を実行する場合にのみ可能です。

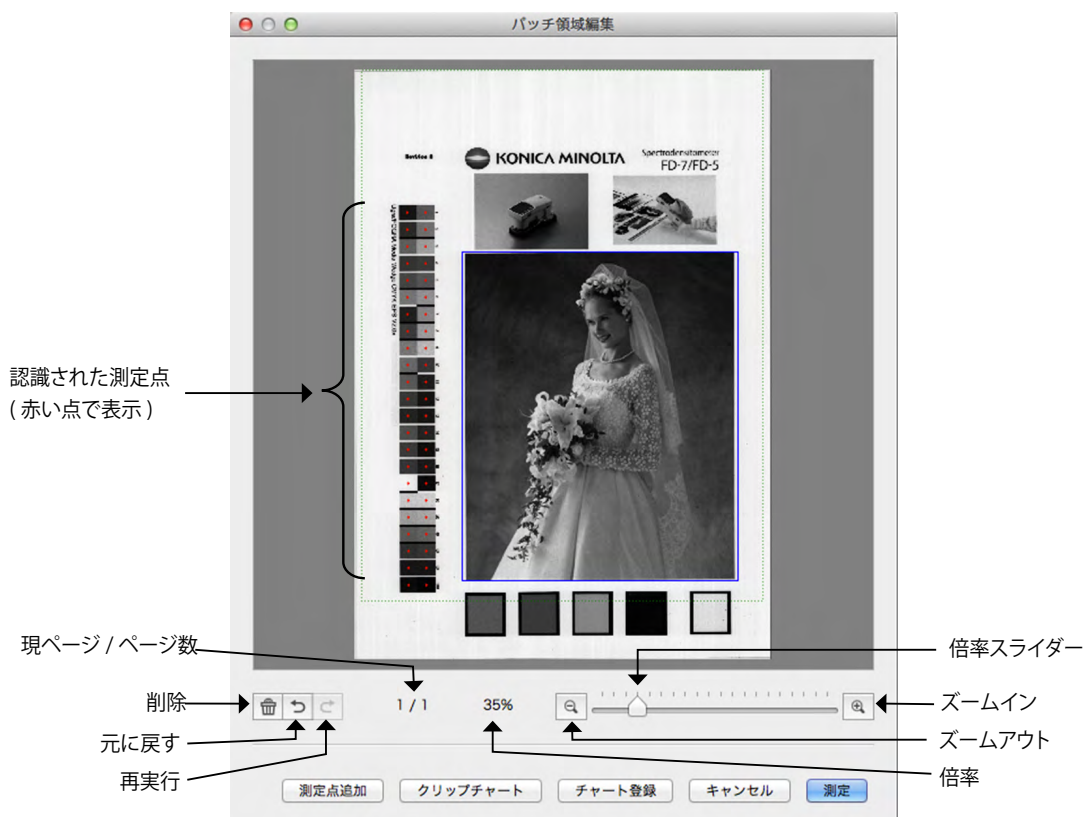
- 1 スキャンされたチャートの画像をクリック & ドラッグして、測定点を追加するエリアを囲む青枠を作成してから、マウスボタンを離します。
- 2  をクリックします。囲んだエリアの自動再認識が試行されます。
  - 選択したエリアが主に単色の場合、単一のパッチとして認識され、単一の測定点が作成されます。選択したエリアが大きい場合、複数の測定点が作成されることがあります。
  - 選択したエリアに色が異なる複数の領域が含まれていて、それらの領域が十分な大きさの場合、自動再認識ではそれらの領域をパッチとして認識し、各パッチに対して測定点が作成されます。
  - 選択したエリアに色ムラがある場合、自動再認識ではエリア内でパッチを認識できず、測定点を作成できない場合があります。

## 編集した測定点を新しいチャートとして保存

測定を希望どおりに編集した後で、 をクリックします。チャートが、[ データリスト ] ウィンドウのチャート定義データのセクションに新しいチャート定義データとして追加されます。

- 変更を保存せずにダイアログを終了するには、 をクリックします。

## コントロール



- 削除： 選択した1つ以上の測定点を削除します。  
 元に戻す： 最後の削除を元に戻します。  
 再実行： 最後の元に戻した削除を再実行します。

倍率：現在の倍率を表示します。▼をクリックすると、希望の倍率設定または[ウインドウに合わせる]を選択するためのドロップダウンリストが開きます。

ズームアウト：チャート領域の倍率を小さくします。

倍率スライダー：倍率を徐々に調整する場合はスライダー を動かし、素早く調整する場合はバーの上をクリックしてスライダーを希望の点に直接動かします。

ズームイン：チャート領域の倍率を大きくします。

測定点追加

クリック & ドラッグで作成された青枠で囲まれた領域に測定点の追加を行います。追加される測定点の行数と列数を指定することができます。

クリップチャート

(プレ測定後のフリーフォームチャートの測定中の編集時にのみ有効) クリック & ドラッグで作成された青枠で囲まれた領域の再認識を試行します。再認識が成功すると、新しい測定点が追加されます。

チャート登録

編集したチャートが、[データリスト] ウィンドウのチャート定義データのセクションに新しいチャート定義データとして保存されます。

キャンセル

変更をキャンセルしてダイアログを閉じます。

測定

(プレ測定後のフリーフォームチャートの測定中の編集時にのみ有効) このダイアログを閉じて測定に続けます。

# 測定データの出力

FD-S2w では、各測定のプレ測定画像、測定点、および測定データを測定時に自動的に保存します。

測定データは、下記の手順でファイルに出力することもできます。

- 1 メニューバーで、[ファイル]-[データ出力]を選択します。[保存]ダイアログが開きます。
- 2 出力したデータを保存する場所を参照し、希望のファイル名を入力します。  
標準ファイル名は、チャート定義データ名と測定番号から作成されます。フリーフォーム測定の場合、測定番号だけが使用されます。事前を選択されているファイル形式は、cgats txt ファイル (\*.txt) です。出力方法の設定 (p. 32、33 を参照) に応じて、選択したすべての照明条件を備えたファイル、または各照明条件ごとの別々の測定ファイルが保存されます。照明条件が異なる別々のファイルは、適宜、ファイル名の末尾にマークが自動的に付加されます。

Chart00042\_00116\_M0.txt

Chart00042\_00116\_M1.txt

Chart00042\_00116\_M2.txt

...

- 3 使用するファイルの種類を選択します。使用できるファイルの種類：

csv ファイル (*.csv)	パッチ位置の順に出力されたコンマ区切り値
txt ファイル (*.txt)	パッチ位置の順に出力されたタブ区切り値
cgats xml ファイル (*.xml)	パッチ位置の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている xml 形式
cgats txt ファイル (*.txt)	パッチ位置の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている txt 形式
CxF3 xml ファイル (*.xml)	パッチ位置の順に出力され、CxF3 (色交換形式バージョン 3) で定義されている xml 形式
csv ファイル [出力は ID 順] (*.csv)	パッチ ID の順に出力されたコンマ区切り値
txt ファイル [出力は ID 順] (*.txt)	パッチ ID の順に出力されたタブ区切り値
cgats xml ファイル [出力は ID 順] (*.xml)	パッチ ID の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている xml 形式
cgats txt ファイル [出力は ID 順] (*.txt)	パッチ ID の順に出力され、CGATS (グラフィックアート技術標準委員会) で定義されている txt 形式
CxF3 xml ファイル [出力は ID 順] (*.xml)	パッチ ID の順に出力され、CxF3 (色交換形式バージョン 3) で定義されている xml 形式

- 4 [OK] をクリックします。選択した場所に測定データが出力されます。[測定条件設定] ウィンドウで選択した照明条件ごとに、ファイルが 1 つ作成されます。

# チャート定義データの作成 / 編集

チャート定義データチャートは 1 枚以上のページで、各ページには 1 つ以上のパッチエリアがあり、各パッチエリアには 1 つ以上のパッチがふくまれていて、各パッチの色、位置、サイズが定義されています。チャート定義データの自動認識のための QR コードもチャートに追加できます。

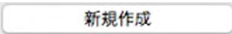
チャート定義データを作成するには、スキャンしたフリーフォームチャートをチャート定義データとして登録するか、完全に新しいチャート定義データを作成する、または既存のチャート定義データを編集します。

## 1 フリーフォームチャートをチャート定義データとして登録

- 1 登録するフリーフォームチャートを、[ データリスト ] ウィンドウのフリーフォームチャートのセクションで選択します。
- 2 チャートを右クリックし、右クリックメニューから [ チャート登録 ] を選択します。チャートが [ データリスト ] ウィンドウのチャート定義データのセクションにコピーされ、“Chartxxxx” という名前が自動的に設定されます (“xxxx” はチャート定義データ名の次のシーケンス番号)。

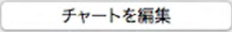
## 1 完全に新しいチャート定義データを作成

- 新しいチャート定義データを作成前に、[ 設定 ] ダイアログの [ 環境 ] タブでの [ 単位 ] と [ 色空間 ] の設定を確認してください。

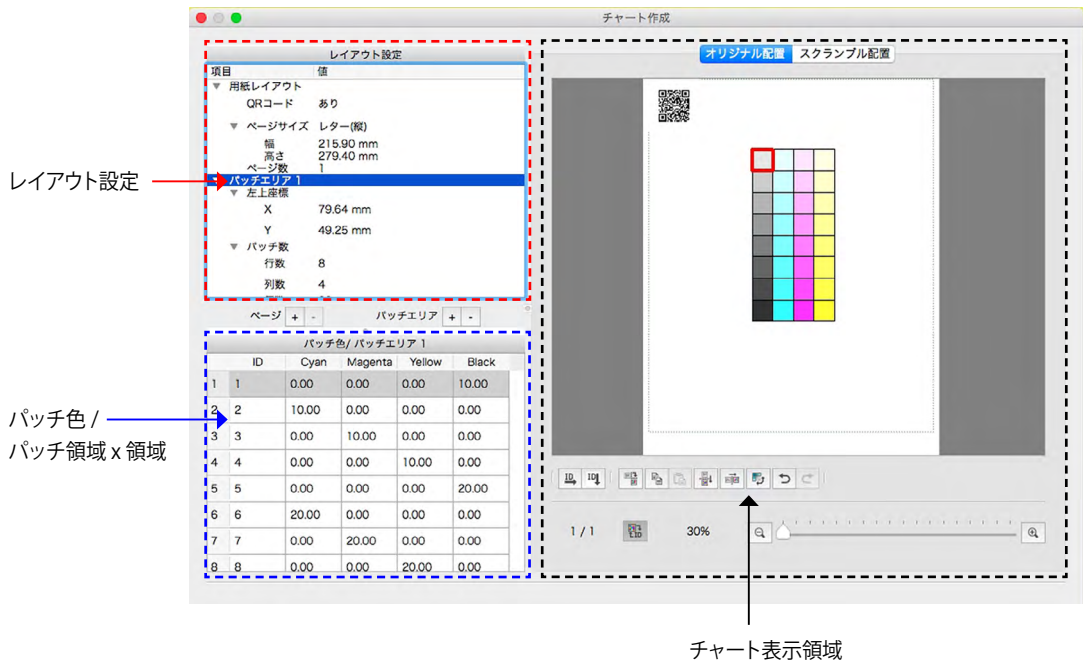
- 1 [ データリスト ] ウィンドウの下部にある  をクリックします。  
または  
メニューバーで、[ ファイル ] - [ チャートファイル新規作成 ] を選択します。
- 2 [ チャート作成 ] ダイアログが表示されます。チャート定義データを作成または編集するための [ チャート作成 ] ダイアログでの操作については、p. 53 を参照してください。

## 1 既存のチャート定義データを編集

チャート定義データのセクションで既存のチャート定義データを編集するには：

- 1 編集するチャート定義データをチャート定義データのセクションで選択します。
- 2 [ データリスト ] ウィンドウの下部にある  をクリックします。  
または  
チャート定義データのセクションでチャート定義データを右クリックし、右クリックメニューから [ チャートを編集 ] を選択します。
- 3 [ チャート作成 ] ダイアログが表示されます。チャート定義データを作成または編集するための [ チャート作成 ] ダイアログでの操作については、p. 53 を参照してください。

## I [チャート作成] ダイアログ



### レイアウト領域

- ・セクションまたはサブセクションのタイトルの横にある ▼ (OS X、macOS の場合) または ▲ (Windows の場合) をクリックすると、そのセクションまたはサブセクションが折りたたまれます。
- ・セクションまたはサブセクションのタイトルの横にある ► (OS X、macOS の場合) または ▷ (Windows の場合) をクリックすると、そのセクションまたはサブセクションが展開されます。

### 測定単位に関する注意：

新たに作成したチャートでは、各セクションの幅と高さの測定単位は、[設定] ダイアログの [環境] タブの [チャート作成] の [単位] の設定に従います。

フリーフォームチャートから登録されたチャートや、以前に作成されたチャートの場合は、そのチャートをスキャンまたは作成したときに設定された単位になります。

### [用紙レイアウト]：

#### [QRコード]

- ・QRコードは2次元バーコードです。FD-S2 wで使用するQRコードにはチャート定義データ名、ページ数、各ページのパッチエリア数、と各パッチエリアの行数・列数・パッチ数の情報が記録されています。

QRコードの設定をクリックし、表示されたプルダウンリストから希望の設定を選択します。

あり：QRコードをチャートに載せます。

なし：QRコードをチャートに載せません。

- ・設定を“ある”に変更するとき、仮のQRコードスペースホルダーをチャートに追加します。QRコードスペースホルダーをクリック&ドラッグで希望の位置に移動できます。

- ・QRコードスペースホルダーはパッチエリアに重なる場合または緑点線のスキャ

ン範囲枠の外にある場合、エラーメッセージが表示されます。

- ・ 作成中・編集集中チャートを保存するとき、QR コードのスペースホルダーの位置に正式な QR コードが作成されます。

## 【ページサイズ】

現在のページサイズをクリックし、表示されたプルダウンリストから希望のページサイズを選択します。

選択できるサイズ： [レター (縦)] (既定値)

[レター (横)]

[タブロイド]

[リーガル]

[A4 (縦)]

[A4 (横)]

[A3]

[A3 ノビ]

[カスタム]

- ・ 用紙サイズとして“カスタム”を選択すると、[幅]と[高さ]の値をクリックして希望の値を入力することで、サイズを直接入力できます。





## 【幅】、【高さ】

[ページサイズ]を“カスタム”に設定すると、[幅]と[高さ]の値を変更できます。このためには、値をクリックして直接編集するか、値の横にある▲と▼のボタンを使用します。

- ・ [ページサイズ]を“カスタム”以外に設定すると、[幅]と[高さ]の値は参照目的でのみ表示され、変更できません。





## 【ページ数】

[ページ数]は、参照目的でのみレイアウトセクションに表示され、ここで直接変更することはできません。

- ・ チャートのページを追加または削除するには、レイアウト領域の下にある[ページ]の横にある  または  のボタンをクリックします。 をクリックすると、チャートの末尾にページが追加され、 をクリックすると、現在選択されているページがチャートから削除されます。
- ・ 複数ページのチャート内で別のページを選択するには、チャート領域の下にあるページ番号をクリックします。

## 【パッチエリア xx】

ここでの設定により、現在表示されているチャートページ上での指定のパッチエリアの位置とレイアウトが決まります。

- ・ チャートのパッチエリアを追加または削除するには、レイアウト領域の下にある[パッチエリア]の横にある  または  のボタンをクリックします。 をクリックすると、チャートにパッチエリアが追加され、 をクリックすると、レイアウト領域で選択されているパッチエリアがチャートから削除されます。

## 【左上座標】

チャートページの左端と上端からパッチエリアの左上隅までの X と Y の距離を設定できます。このためには、値をクリックして直接編集するか、値の横にある▲と▼のボタンを使用します。

最小値：X：4.00mm、Y：0.00

パッチエリアは、チャート表示領域内でパッチエリアをクリック & ドラッグして直接移動することもできます。

**[ パッチ数 ]：**

パッチエリア内の行数、列数、パッチの総数を設定できます。このためには、値をクリックして直接編集するか、値の横にある ▲ と ▼ のボタンを使用します。

[ 行数 ]：パッチエリア内の行の数。

[ 列数 ]：パッチエリア内の列の数。

[ 個数 ]：パッチの総数。

- ・パッチの数が [ 行 ] × [ 列 ] より少ない場合、パッチは左上隅から開始され、そのパッチ数に達するまで、各行が連続して埋められていきます。たとえば、[ 行 ] が 3、[ 列 ] が 5、[ 個数 ] が 12 に設定されている場合、1 行目のパッチは 5 つ、2 行目のパッチは 5 つになり、3 行目では左側に残りのパッチが 2 つのみ設定されます。
- ・[ 個数 ] を [ 行 ] × [ 列 ] より大きい値に設定することはできません。
- ・[ 個数 ] は、[ 行 ] と [ 列 ] の値では自動的に変更されず、希望のパッチ数に設定する必要があります。

**[ パッチサイズ ]：**

パッチエリア内のパッチの幅と高さを設定できます。このためには、値をクリックして直接編集するか、値の横にある ▲ と ▼ のボタンを使用します。

最小値：6.00 mm 最大値：30.00 mm

[ 幅 ]：パッチの幅

[ 高さ ]：パッチの高さ

- ・選択したパッチエリア内のパッチはすべて、同じサイズに設定されます。
- ・また、パッチサイズの設定は、パッチエリアの右下隅のパッチをクリックし、カーソルをそのパッチのフレームの右下隅に動かして両方向矢印にしてから、パッチのフレームをクリック & ドラッグして行うこともできます。パッチはすべて、同じサイズに設定されます。

**[ パッチ間隔 ]：**

あるパッチの端から隣接パッチの同じ端までの距離を設定できます。このためには、値をクリックして直接編集するか、値の横にある ▲ と ▼ のボタンを使用します。

[ 幅 ]：あるパッチの左端から隣接パッチの左端までの距離。

[ 高さ ]：あるパッチの上端からそのすぐ下のパッチの上端までの距離。

- ・パッチ間隔は、すべてのパッチで同じになります。
- ・パッチ間隔が [ パッチサイズ ] の幅や高さよりも小さい値に設定されると、パッチは相互に水平や垂直に隣接されます。
- ・スキャンされたフリーフォームチャートを登録することで作成されたチャートの場合、パッチ間隔をパッチサイズよりも大きい値に設定すると、スキャンされたパッチエリア内のパッチがバラバラに分散されます。

**ページボタン**



ページをチャートの末尾に追加します。



現在のページをチャートから削除します。

- ・チャートに含まれているページが 1 つのみの場合は、ページは削除できません。

## [ パッチエリア ] のボタン



パッチエリアをチャートに追加します。



現在選択されているパッチエリアをチャートから削除します。

## [ パッチ色 ]/[ パッチエリア x]

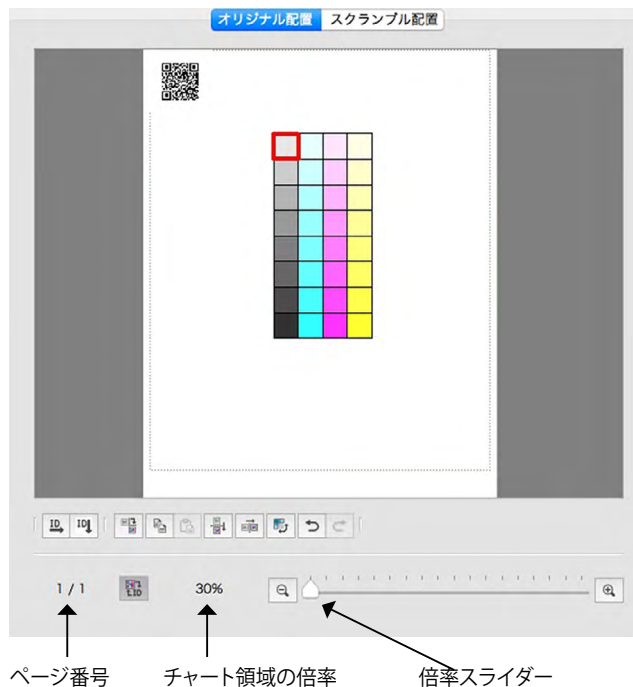
レイアウト領域で選択されている [ パッチエリア ] 内のパッチと、各パッチの色のリストを表示します。

新たに作成したチャートでは、色の設定は、[ 設定 ] ダイアログの [ 環境 ] タブの [ チャート作成 ] の [ 色空間 ] の設定に従います。

- 以前に直接作成されたチャートの場合は、チャートを作成したときの [ 色空間 ] の設定が使用されます。
- スキャンされたフリーフォームチャートから登録されたチャートでは、[ 色空間 ] は、[ 設定 ] ダイアログの [ 環境 ] タブの [ チャート作成 ] の [ 色空間 ] の設定とは無関係に、[ RGB ] になります。
- それぞれの色の値を設定できます。このためには、値をクリックして直接編集するか、値の横にある ▲ と ▼ のボタンを使用します。それぞれの値が設定されると、チャート表示領域の対応するパッチの色が即座に変更されます。
- それぞれのパッチの ID も設定できます。このためには、値をクリックして直接編集するか、値の横にある ▲ と ▼ のボタンを使用します。



## チャート表示領域



ページ番号


チャート領域の倍率

倍率スライダー

**[オリジナル配置] タブ：**パッチを、チャートで配置されていた元の順序で表示します。


**[スクランブル配置] タブ：**パッチを、各パッチエリア内でランダムに配置します。

**緑点線枠：** スキャンできる範囲

 (ID 割り当て (横方向))

パッチ ID を、左上隅で 1 から始まり、各行で増分されていくようにリセットします。


- チャートに複数のパッチエリアが存在する場合、パッチ ID は、チャートページの左上隅に最も近いパッチエリアから始まるようにリセットされます。

 (ID 割り当て (縦方向))

パッチ ID を、左上隅で 1 から始まり、各列で増分されていくようにリセットします。

- チャートに複数のパッチエリアが存在する場合、パッチ ID は、チャートページの左上隅に最も近いパッチエリアから始まるようにリセットされます。


- パッチ ID は直接設定することも可能です。パッチ ID が別のパッチと同じ ID に設定されると、ダイアログの下側に "ID が重複しています" と表示されます。

 (回転)

チャートを 90 度時計回りに回転させます。

 (パッチコピー)





選択したパッチ色をコピーします。

 (パッチ貼り付け)


コピーしたパッチ色を選択したパッチに貼り付けます。(ID は貼り付けの前と同じままになります。)

 (上下反転)

チャートを上下反転します。

- |   |                   |                        |
|---|-------------------|------------------------|
|  | <b>( 左右反転 )</b>   | チャートを左右反転します。          |
|  | <b>( 行列入れ替え )</b> | チャートの行と列を入れ替えます。       |
|  | <b>( 元に戻す )</b>   | パッチ色の貼り付けを元に戻します。      |
|  | <b>( 再実行 )</b>    | 元に戻したパッチ色の貼り付けを再実行します。 |



**ページ番号：** 複数ページのチャートで別のページを選択するには、ここをクリックして、ドロップダウンリストから希望のページを選択します。

 クリックすると、チャート表示領域の表示がパッチ ID とパッチ色の間で切り替わります。


チャート領域の倍率：

チャート領域の倍率は、以下の方法で変更できます。

率の横をクリックして、ドロップダウンリストから希望の倍率設定または [ ウィンドウに合わせる ] を選択します。

倍率を下げるには  (ズームアウト) を、上げるには  (ズームイン) をクリックします。

または

スライダー  をクリックして、希望の倍率にドラッグします。

- |                  |  |
|------------------|--|
| <b>[ 上書き保存 ]</b> | チャート定義データのリストで既存のチャート定義データを上書きします。(測定が既に関連付けられている既存のチャート定義データの編集時には表示されません。) |
| <b>[ 別名保存 ]</b>  | チャート定義データをチャート定義データのリストに新しいチャート定義データとして保存します。                                |
| <b>[ キャンセル ]</b> | 行った変更をキャンセルしてダイアログを閉じます。   |

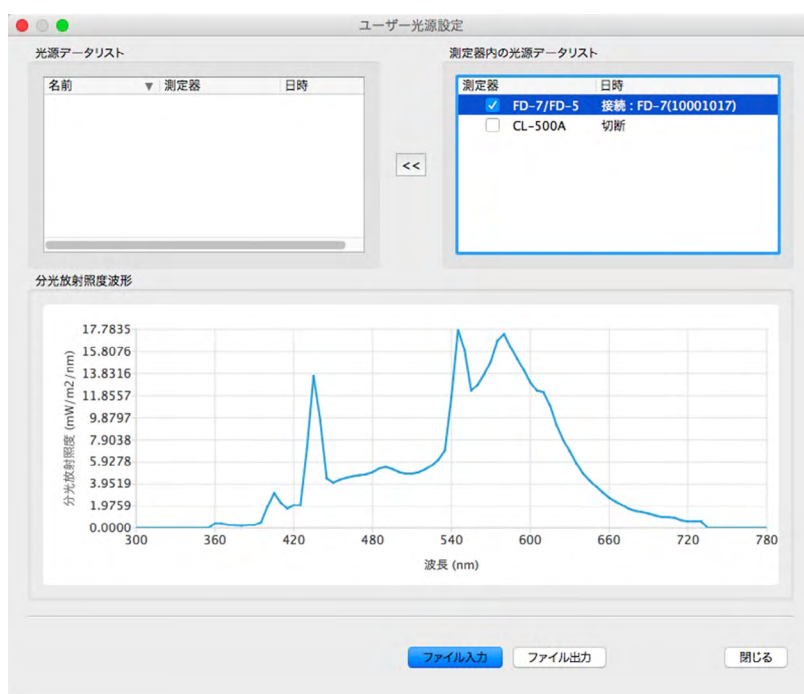
# ユーザー光源

FD-S2w では、M0、M1、M2 などの標準の照明条件や、C、D65 などの標準の光源の下での測定データの計算に加えて、ユーザーが設定した光源に基づいてデータを計算することもできます。これにより、測定値を、印刷物が確認される光源条件に基づいて計算することができます。



- ユーザー光源データは、コニカミノルタの分光放射照度計 CL-500A または分光濃度計 FD-7 から読み込むことができます。
- また、ファイルからの読み込みやファイルへの出力も可能です。

## Ⅰ CL-500A または FD-7 に格納されているユーザー光源データの設定

- 1 メニューバーで、[ 設定 ] - [ ユーザー光源設定 ] を選択します。[ ユーザー光源設定 ] ダイアログが表示され、現在設定されているユーザー光源が (あれば) 表示されます。
  - 現在設定されているユーザー光源をクリックすると、その光源の分光放射照度波形が表示されます。



- 2 [ 測定器内の光源データリスト ] で、測定器を選択します。選択した測定器に格納されている照度測定が読み込まれます。測定器のシリアル番号と測定器内の各照度測定の測定日時が [ 測定器内の光源データリスト ] に表示されます。
  - FD-7 は、単一のユーザー光源設定のみを格納できます。FD-7 を選択すると、測定が測定器から読み込まれるとすぐに、光源の分光放射照度波形が表示されます。
  - CL-500A は、複数の光源のデータを格納できます。いずれかの測定が選択されるまでは、分光放射照度波形は表示されません。

- 3 データを [ 光源データリスト ] に追加するには、追加する測定を選択して  をクリックします。測定を選択すると、選択した測定の分光放射照度波形が表示されます。
  - [ 測定器内の光源データリスト ] で複数の測定を選択することはできません。複数の測定を読み込むには、追加する各測定にこの手順を繰り返します。
  - FD-S2w には最大で 5 つのユーザー光源を設定できます。5 つのユーザー光源が [ 光源データリスト ] に設定されている場合、 ボタンは無効になります。
  - FD-S2w でユーザー光源の名前を変更するには、その光源を右クリックして [ 名前を編集 ] を選択します。選択した光源の名前がテキストボックスに表示されます。新しい名前に変更してください (16 文字まで)。テキストボックスの外側をクリックすると、名前の編集が終了します。
- 4 追加する光源を [ 光源データリスト ] に追加して新しい名前を設定した後は、[ 閉じる ] をクリックしてダイアログを閉じます。ダイアログを閉じると、選択したユーザー光源が FD-S2w に設定され、[ 測定条件設定 ] ウィンドウの [ 照明条件 ] セクションに表示されます。

## 1 ファイルからのユーザー光源データの読み込み

FD-S2w には、\*.uid ファイル (FD-S1w で作成されたファイル) または \*.uid2 ファイルに格納されたユーザー光源データを読み込むことができます。

- 1 [設定]メニューから[ユーザー光源設定]を選択します。[ユーザー光源設定]ダイアログが表示され、現在設定されているユーザー光源が(あれば)表示されます。
- 2 [読み込み]をクリックします。[開く]ダイアログが表示されます。
- 3 読み込むファイルが含まれているフォルダを参照します。
- 4 ファイルを選択して[開く]をクリックします。ファイルの光源データが読み込まれ、[光源データリスト]に追加されます。
- 5 読み込んだファイルの名前は、読み込んだ光源の名前として使用されます。同じ名前のユーザー光源が存在する場合は、既存のデータを上書きするかどうかを尋ねるメッセージボックスが表示されます。データを上書きする場合は[はい]を、上書きしない場合は[いいえ]をクリックします。
  - FD-S2w でユーザー光源の名前を変更するには、その光源を右クリックして[名前を編集]を選択します。選択した光源の名前がテキストボックスに表示されます。希望の名前に変更してください(100文字まで)。テキストボックスの外側をクリックすると、名前の編集が終了します。
- 6 希望の光源を[光源データリスト]に読み込んで希望の名前を設定した後は、[閉じる]をクリックしてダイアログを閉じます。ダイアログを閉じると、選択したユーザー光源が FD-S2w に設定され、[測定条件設定]ウィンドウの[照明条件]セクションに表示されます。

## 1 ファイルへのユーザー光源データの出力

FD-S2w に設定されているユーザー光源データを \*.uid ファイルまたは \*.uid2 ファイルに出力できます。

- 1 [設定]メニューから[ユーザー光源設定]を選択します。[ユーザー光源設定]ダイアログが表示され、現在設定されているユーザー光源が(あれば)表示されます。
- 2 出力する光源を[光源データリスト]で選択します。
  - 複数の光源を選択することはできません。
- 3 [ファイル出力]をクリックします。[保存]ダイアログが表示されます。
- 4 出力したファイルを保存するフォルダを参照します。
- 5 希望のファイル名を入力します。
- 6 希望のファイルの種類を選択します。
  - \*.uid: 出力したファイルは FD-S1w または FD-S2w で読み込みや使用が可能です。
  - \*.uid2: 出力したファイルは FD-S2w でのみ読み込みや使用が可能です。
- 7 [保存]をクリックします。ファイルが保存されます。
  - 他の光源を出力する場合は、必要に応じて手順 2～6 を繰り返します。
- 8 [閉じる]をクリックして[ユーザー光源設定]ダイアログを閉じます。

# 測定器点検

測定器点検機能では、オプションのカラータイルを使用して、FD-9 の測定性能を確認します。この機能の基本作業は

- ① 購入時またはコニカミノルタ校正サービス利用後に基準値を設定します。(p. 62)
- ② 許容値を設定します。(p. 65)
- ③ 点検測定を定期的に行います。(p. 66)

購入時またはコニカミノルタ校正時からの測定器の変化をお客様自身が確認することができますので、校正サービス利用時の判断材料として使用できます。

- 点検用のカラータイル (BCRA tiles) はサーモクロミズム（温度による色変化）があります。温度環境に十分配慮して点検を実施してください。

## I 基準値の設定

タイルの基準値は、[ 基準値設定 ] ダイアログで設定できます。値を測定するには、タイルを測定するか、基準値をファイルから読み込みます。

### タイルの測定による基準値の設定

- メニューバーから [ ツール ] - [ 測定器点検 ] を選択したときに基準値がまだ設定されていない場合、[ 基準値設定 ] ダイアログが表示されます ([ タイル測定 ] が選択され、[ 測定 ] が有効になっています)。タイルを測定することで値を設定する場合は、下記の手順 3 から続行してください。ファイルから読み込んで値を設定する場合は、次のセクションを参照してください。

- 1 [ 測定器点検 ] ダイアログで、[ 基準値設定 ] をクリックします。[ 基準値設定 ] ダイアログが表示されます。
  - 基準値はすでに設定されてる場合、その基準値は表示されます。



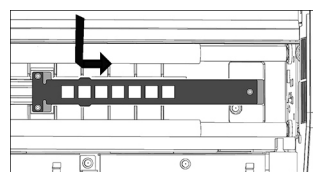
- 2 [ タイル測定 ] を選択します。[ 測定 ] が有効になり、[ 読み込み ] が無効になります。
- 3 [ 測定 ] をクリックします。タイル片 No. 1 ( 色 : 白～赤 ) を FD-9 に挿入することを求めるダイアログが表示されます。
- 4 FD-9 のカバーを開けます。

# 5 タイル片 No. 1 を図に示すとおりに入ります。

タイル片の右端にあるタブを FD-9 の白バックングの右端にあるスロットと合わせ、タイル片の左端にある横材を FD-9 の原稿台の切り欠きと合わせます。

白バックングを押し下げないようにゆっくり下に押し、タイル片を可能な限り右側にスライドさせます。

・タイル表面を触らないように注意してください。



# 6 FD-9 のカバーを閉じます。

# 7 [測定] をクリックします。“測定中 ...” が表示され、FD-9 がタイル片を測定します。

# 8 タイル片 No. 1 の測定が完了すると、タイル片 No. 2 (色：オレンジ～黒) を FD-9 に挿入することを求めるダイアログが表示されます。

# 9 FD-9 のカバーを開けます。

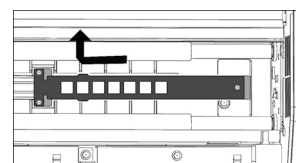
# 10 タイル片 No. 1 を図に示すとおりに取り出します。

タイル片をゆっくり押し下げて可能な限り左側にスライドさせ、タイル片の右側を FD-9 のスロットから外します。

タイル片を取り出します。白バックングがタイル片を少し押し上げます。

タイル片は慎重に取り外してください。

・タイル表面を触らないように注意してください。



# 11 タイル片 No. 2 を図に示すとおりに入ります。

タイル片の右端にあるタブを FD-9 の白バックングの右端にあるスロットと合わせ、タイル片の左端にある横材を FD-9 の原稿台の切り欠きと合わせます。

白バックングを押し下げないようにゆっくり下に押し、タイル片を可能な限り右側にスライドさせます。

・タイル表面を触らないように注意してください。

# 12 FD-9 のカバーを閉じます。

# 13 [測定] をクリックします。“測定中 ...” が表示され、FD-9 がタイル片を測定します。

# 14 タイル片 No. 2 の測定が完了すると、測定された基準値が [基準値] 表に表示されます。

基準値設定

☐ ファイル

読み込み

☒ タイル測定

測定

基準値

基準値	WHITE	PALE GREY	MID GREY	DIFF. GREY	DEEP GREY	DEEP PINK	RED	ORAN	YELLOW	GREEN	DIFF. GREEN	CYAN	DEEP BLUE	BLACK
L*	95.34	82.59	56.72	56.26	27.47	40.99	37.80	63.75	84.24	50.84	52.20	49.44	12.25	8.00
a*	-0.41	-0.39	0.02	-3.48	0.07	29.79	54.85	46.22	0.62	-31.79	-31.04	-17.76	14.80	-0.96
b*	2.92	1.51	0.64	1.55	1.13	5.72	38.24	70.74	86.12	13.39	20.54	-33.56	-32.53	-2.52

## ファイルからの読み込みによる基準値の設定

- メニューバーから[ツール]-[測定器点検]を選択したときに基準値がまだ設定されていない場合、[基準値設定]ダイアログが表示されます([タイル測定]が選択されています)。タイルを測定することで値を設定する場合は、前のセクションを参照してください。ファイルから読み込んで値を設定する場合は、下記の手順 2 から続行してください。

- 1 [測定器点検]ダイアログで、[基準値設定]をクリックします。[基準値設定]ダイアログが表示されます。
- 2 [ファイル]を選択します。[読み込み]が有効になり、[測定]が無効になります。
- 3 [読み込み]をクリックします。[開く]ダイアログが表示されます。
- 4 基準のタイル値が含まれているファイルの場所を参照し、ファイルを選択します。
- 5 ファイル形式：cgats txt ファイル (\*.txt)
- 6 [開く]をクリックします。ファイルが開かれ、ファイル内の基準値が読み込まれて[基準値]表に設定されます。

## 基準値の出力

[基準値]表に表示されている基準値は、ファイルに出力できます。

- 1 [基準値設定]ダイアログで、[ファイル出力]をクリックします。[ファイル出力]ダイアログが表示されます。
- 2 結果ファイルを保存するフォルダを参照します。
- 3 結果を保存するファイル名を入力します。
- 4 [保存]をクリックします。基準値が、手順 3 で入力した名前のファイルに保存されます。
  - ファイル形式：cgats txt ファイル (\*.txt)



# 許容値の設定

それぞれの色差値 (dL\*, da\*, db\*, dE\*ab, dE00) の許容値を設定できます。これらの許容値は、テスト測定後の判定に使用されます。判定結果は、それぞれのテスト測定値と、全体判定に対して示されます。

**差値の背景：** 緑：差値は許容内。  
赤：差値は許容外。

**判定：** “OK” で背景が緑：すべての差値が許容内  
“FAIL” で背景が赤：1 つ以上の差値が許容外

- 1 [測定器点検] ダイアログで、[許容値設定] をクリックします。[許容値設定] ダイアログが表示されます。

差	WHITE	PALE GREY	MID GREY	DIFF. GREY	DEEP GREY	DEEP PINK	RED	ORAN.	YELLOW	GREEN	DIFF. GREEN	CYAN	DEEP BLUE	BLACK
<input checked="" type="checkbox"/> dL*	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
<input checked="" type="checkbox"/> da*	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
<input checked="" type="checkbox"/> db*	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
<input checked="" type="checkbox"/> dE*ab	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
<input checked="" type="checkbox"/> dE00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00

既定値を設定

- 2 判定に差値を使用する場合は、値の横にあるチェックボックスをオンにしてください。チェックボックスがオフの場合は、クリックしてオンにしてください。  
判定に差値を使用しない場合は、値の横にあるチェックボックスをオフにしてください。チェックボックスがオンの場合は、クリックしてオフにしてください。
- 3 希望の許容値をそれぞれ設定します。現在の値をクリックまたはダブルクリックし、希望の値を入力します。
  - すべての許容値に既定値を設定するには、[既定値を設定] をクリックします。
- 4 すべての値を希望どおりに設定した後は、[OK] をクリックして設定を保存し、ダイアログを閉じます。
  - 新しい設定を保存せずにダイアログを閉じるには、[キャンセル] をクリックします。

## I 点検測定

- 1 メニューバーで、[ ツール ]-[ 測定器点検 ]を選択します。[ 測定器点検 ]ダイアログが表示されます。
  - 点検機能を初めて使う場合で、基準値がまだ設定されていないときは、[ 測定器点検 ]ダイアログではなく[ 基準値設定 ]ダイアログが表示されます。基準値の設定方法については、p. 62 を参照してください。

照明条件                      総合判定

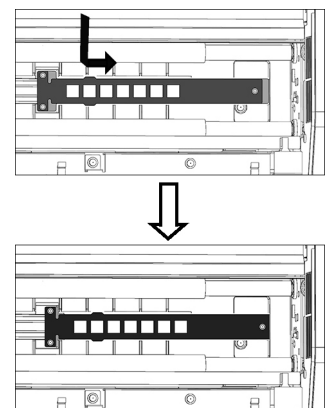
過去のテスト測定                      差値 (テスト測定値と基準値との差)

- 2 [ 点検 ]をクリックします。タイル片 No. 1 (色：白～赤)を FD-9 に挿入することを求めるダイアログが表示されます。
- 3 FD-9 のカバーを開けます。
- 4 タイル片 No. 1 を図に示すとおりに入れます。
 

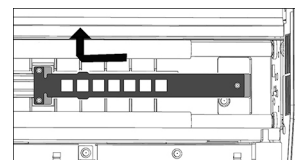
タイル片の右端にあるタブを FD-9 の白バックingの右端にあるスロットと合わせ、タイル片の左端にある横材を FD-9 の原稿台の切り欠きと合わせます。

白バックingを押し下げるようにゆっくり下に押し、タイル片を可能な限り右側にスライドさせます。

  - タイル表面を触らないように注意してください。



- 5 FD-9 のカバーを閉じます。
- 6 [測定] をクリックします。“測定中...” が表示され、FD-9 がタイル片を測定します。
- 7 タイル片 No. 1 の測定が完了すると、タイル片 No. 2 (色：オレンジ～黒) を FD-9 に挿入することを求めるダイアログが表示されます。
- 8 FD-9 のカバーを開けます。
- 9 タイル片 No. 1 を図に示すとおりに取り出します。  
 タイル片をゆっくり押し下げて可能な限り左側にスライドさせ、タイル片の右側を FD-9 のスロットから外します。  
 タイル片を取り出します。白バックングがタイル片を少し押し上げます。  
 タイル片は慎重に取り外してください。  
 ・タイル表面を触らないように注意してください。
- 10 タイル片 No. 2 を図に示すとおりに挿入します。  
 タイル片の右端にあるタブを FD-9 の白バックングの右端にあるスロットと合わせ、タイル片の左端にある横材を FD-9 の原稿台の切り欠きと合わせます。  
 白バックングを押し下げるようにゆっくり下に押し、タイル片を可能な限り右側にスライドさせます。  
 ・タイル表面を触らないように注意してください。
- 11 FD-9 のカバーを閉じます。
- 12 [測定] をクリックします。“測定中...” が表示され、FD-9 がタイル片を測定します。
- 13 タイル片 No. 2 の測定が完了すると、テストの測定値が、各色の差値と総合判定とともに、[点検] ダイアログに表示されます。



判定結果は、それぞれのテスト測定値と、全体判定に対して示されます。

**差値の背景：** 緑：差値は許容内。  
 赤：差値は許容外。

**判定：** “OK” で背景が緑：すべての差値が許容内  
 “FAIL” で背景が赤：1 つ以上の差値が許容外

## 点検測定結果の出力

点検測定の結果はファイルに出力できます。

- 1 [測定器点検] ダイアログで [結果出力] をクリックします。[結果出力] ダイアログが表示されます。
- 2 結果ファイルを保存するフォルダを参照します。
- 3 結果を保存するファイル名を入力します。
- 4 [保存] をクリックします。点検測定結果が、手順 3 で入力した名前のファイルに保存されます。
  - ファイル形式：csv

## 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整

FD-S2w の濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整機能は、特定の KONICA MINOLTA bizhub PRESS プリンターの濃度バランスを監視および調整するために使用できます。

## FD-9 単体による測定の実行

- FD-9 と自動給紙ユニット（別売付属品）で測定を行う場合、p. 71 を参照してください。

- 1 メニューバーで、[ ツール ] - [ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] を選択します。[ プリンター、調整項目と測定器の選択 ] ダイアログが表示されます。

- 2** 調整するプリンターと希望の調整プロセスに応じて、使用するテンプレートを「テンプレート」セクションのリストから選択します。

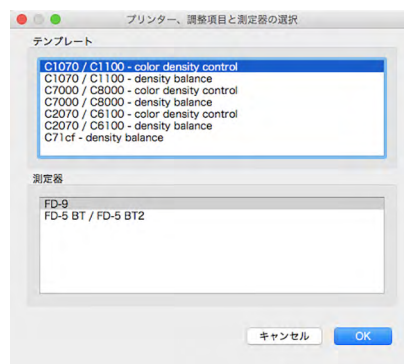
[出力紙濃度調整 (color density control)] :

出力紙濃度の調整用

[濃度バランス調整 (density balance)] :

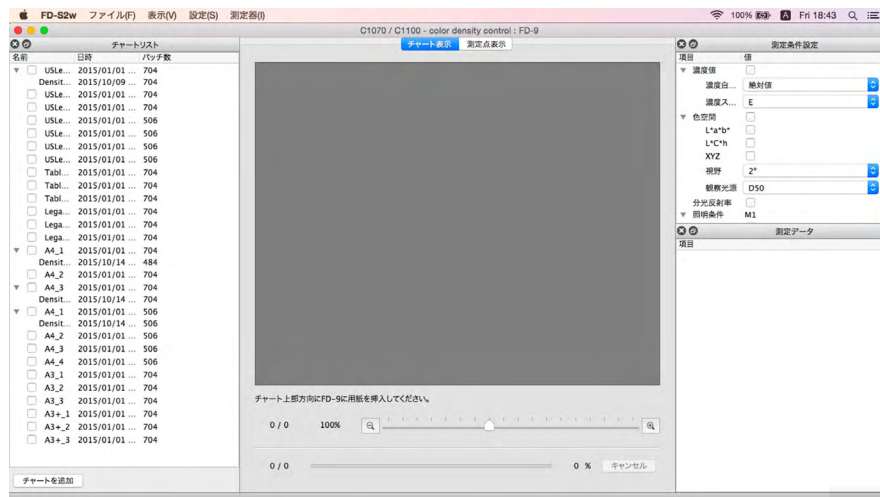
濃度バランスの調整用

- テンプレートを選択すると、そのテンプレートを使用できる測定器が「測定器」セクションに表示されます。選択したテンプレートには、表示されている測定器のみを使用できます。

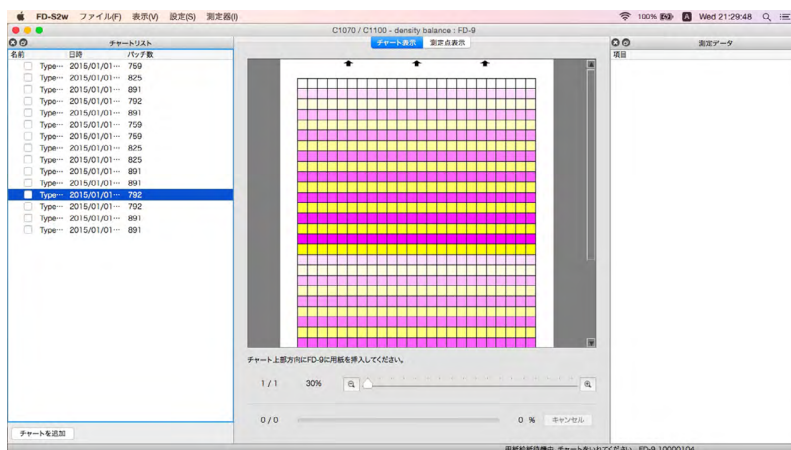


- 3 “FD-9” を測定器として選択します。

- 4** [OK] をクリックします。手順2で選択した調整プロセス用の濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整ウィンドウが表示されます。



- 測定するチャートに QR コードが付いてない場合、測定するチャートを [ チャートリスト ] から選択します。チャートの画像が [ チャート表示 ] タブに表示されます。
- 測定するチャートに QR コードが付いている場合、QR コードに記録されているチャート名が [ チャートリスト ] に存在すれば [ チャートリスト ] から自動的に選択されます。
- 出力紙濃度調整では、チャートの QR コードで指定された用紙サイズがない場合、“QR コードと一致するチャート定義データがありません。最も近いサイズのチャート定義データで測定を実行します。”というエラーメッセージが表示されます。ソフトウェアで選択されたチャート定義データを使用して測定を継続する場合は、[OK] をクリックします。測定をキャンセルしてチャートを排出する場合は、[ キャンセル ] をクリックします。

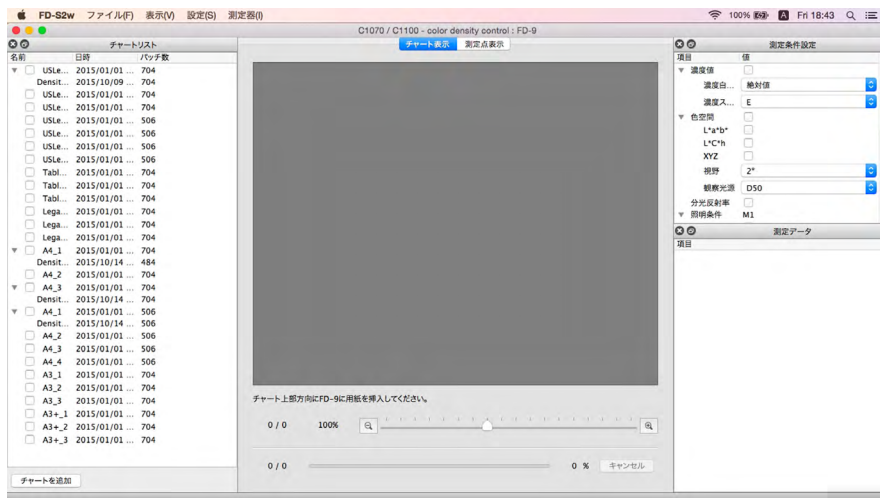
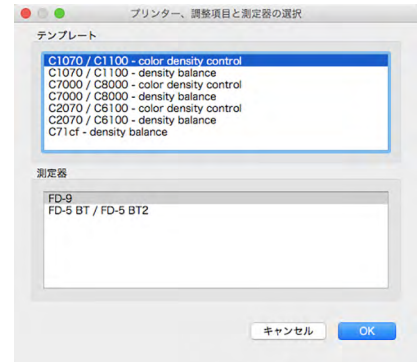


- 5 対応する印刷されたチャートを FD-9 に挿入します。
  - 必ず [ チャート表示 ] ビューに示した方向にチャートを挿入してください。チャートは、[ チャート表示 ] ビューの矢印で示したとおり、チャート上の黒太い線の反対側から挿入してください。
- 6 測定するチャートのプレ測定が行われます。
  - プレ測定画像に重ね合わされた測定点を確認するには、[ 測定点表示 ] タブをクリックします。測定点は、チャートのプレ測定画像に重ね合わされた赤い点として表示されます。
  - 測定するチャートのプレ測定で認識されたパッチのサイズと位置がチャート定義データのパッチ位置と一致しない場合、“行数または列数が異なっています。測定を継続してもよろしいでしょうか？”という警告メッセージが表示されます。(このメッセージは、チャートが実際には正しくても、チャート内の白い領域がパッチエリアとして認識されないことが原因で表示される場合もあります。) 希望する場合は、[ OK ] をクリックして測定を継続します。
- 7 FD-9 でパッチ測定が開始されます。[ チャート表示 ] タブに、選択したチャートのカラー画像が表示され、各パッチに定義されている色がパッチの左上半分に表示されます。各パッチの測定が完了すると、パッチの右下半分が、測定された色に変更されます。チャートの測定の進行状況は、ステータスバーに表示されます。
  - 測定をキャンセルするには、[ キャンセル ] をクリックします。測定がキャンセルされ、数秒後に、FD-9 がチャートを排出します。
- 8 測定が完了すると、[ チャート表示 ] タブに、測定されたチャートと各パッチの測定された色が表示されます。測定は、その日時とともに、選択したチャート定義データの下に表示され、データが自動的に格納されます。
  - チャート内のパッチの測定データを表示するには、パッチを [ チャート表示 ] タブで選択します。そのパッチの測定データが [ 測定データ ] ウィンドウに表示されます。表示される測定データ項目は、[ 測定条件設定 ] ウィンドウで選択されている項目です。
  - [ 測定結果保存 ] ダイアログの [ 測定結果の自動保存 ] の “測定後に測定結果を自動送信する” がチェック付いている場合、測定結果が指定されるプリンターへ自動的に送信します。
- 9 必要に応じて、「測定されたチャートデータの保存」の手順に従ってください。

## I FD-9 と自動給紙ユニットによる測定の実行

- FD-9 単独で測定を行う場合は、p. 69 を参照してください。

- メニューバーで、[ ツール ] - [ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] を選択します。[ プリンター、調整項目と測定器の選択 ] ダイアログが表示されます。
- 調整するプリンターと希望の調整プロセスに応じて、使用するテンプレートを [ テンプレート ] セクションのリストから選択します。  
[ 出力紙濃度調整 (color density control) ] :  
出力紙濃度の調整用  
[ 濃度バランス調整 (density balance) ] :  
濃度バランスの調整用
  - テンプレートを選択すると、そのテンプレートを使用できる測定器が [ 測定器 ] セクションに表示されます。選択したテンプレートには、表示されている測定器のみを使用できます。
- “FD-9” を測定器として選択します。
- [OK] をクリックします。手順 2 で選択した調整プロセス用の濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整ウィンドウが表示されます。



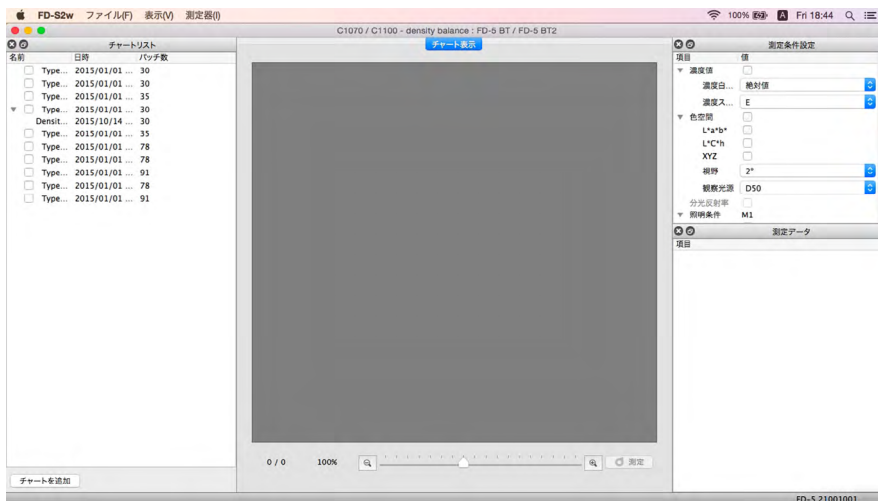
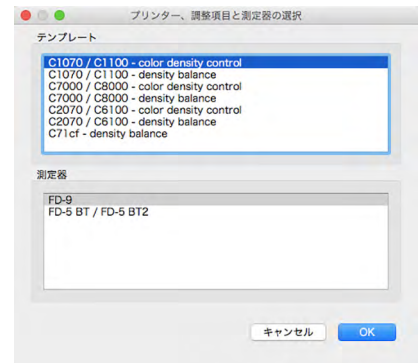
- 測定するチャートに QR コードが付いてない場合、測定するチャートを [ チャートリスト ] から選択します。チャートの画像が [ チャート表示 ] タブに表示されます。この場合、給紙トレイに置く全てのチャートは選択されたチャートに対応しているチャートにしてください。
- 測定するチャートに QR コードが付いている場合、QR コードに記録されているチャート名が [ チャートリスト ] に存在すれば [ チャートリスト ] から自動的に選択されます。この場合、給紙トレイに置くチャートは数種類のチャートでも、QR コードによって各チャートのプレ測定でそのチャートに対応するチャート定義データは自動的に選択されます。
- 出力紙濃度調整では、チャートの QR コードで指定された用紙サイズがない場合、“QR コードと一致するチャート定義データがありません。最も近いサイズのチャート定義データで測定を実行します。”というエラーメッセージが表示されます。ソフトウェアで選択されたチャート定義データを使用して測定を継続する場合は、[OK] をクリックします。測定をキャンセルしてチャートを排出する場合は、[ キャンセル ] をクリックします。

- 5 印刷されたチャートを給紙トレイに置きます。
  - 必ず [ チャート表示 ] ビューに示した方向にチャートを給紙トレイに置いてください。チャートは印刷面が上で、チャートの黒太い線が FD-9 から離れているように給紙トレイに置いてください。
- 6 FD-9 の [ OK ] ボタンを押してください。
- 7 給紙トレイの一番上の測定するチャートが FD-9 に自動的に挿入し、プレ測定が行われます。
- 8 FD-9 でパッチ測定が開始されます。[ チャート表示 ] タブに、選択したチャートのカラー画像が表示され、各パッチに定義されている色がパッチの左上半分に表示されます。各パッチの測定が完了すると、パッチの右下半分が、測定された色に変更されます。チャートの測定の進行状況は、ステータスバーに表示されます。
  - 測定をキャンセルするには、[ キャンセル ] をクリックします。測定がキャンセルされ、数秒後に、FD-9 がチャートを排出します。
- 9 測定が完了すると、[ チャート表示 ] タブに、測定されたチャートと各パッチの測定された色が表示されます。測定は、その日時とともに、選択したチャート定義データ名の下に表示され、データが自動的に格納されます。
  - チャート内のパッチの測定データを表示するには、パッチを [ チャート表示 ] タブで選択します。そのパッチの測定データが [ 測定データ ] ウィンドウに表示されます。表示される測定データ項目は、[ 測定条件設定 ] ウィンドウで選択されている項目です。
  - [ 測定結果保存 ] ダイアログの [ 測定結果の自動保存 ] の “ 測定後に測定結果を自動送信する ” がチェック付いている場合、測定結果が指定されるプリンターへ自動的に送信します。
- 10 給紙トレイに置いてるすべてのチャートが測定されるまでステップ 7 ～ 9 を自動的に繰り返されます。
- 11 必要に応じて、「測定されたチャートデータの保存」の手順に従ってください。

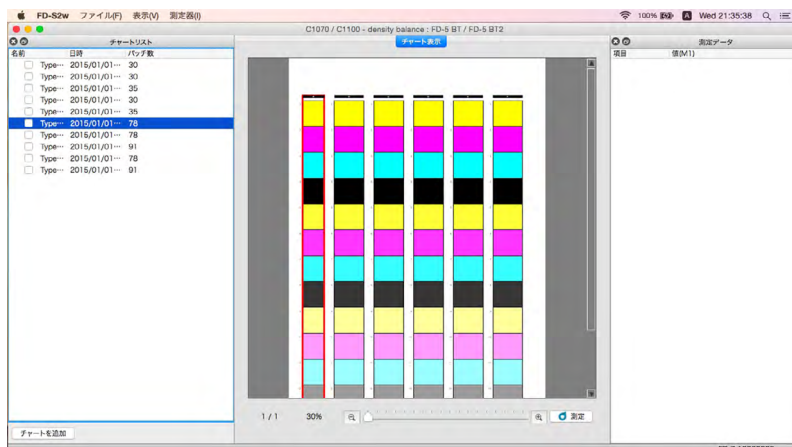



## I FD シリーズのハンディ測定器による測定の実行

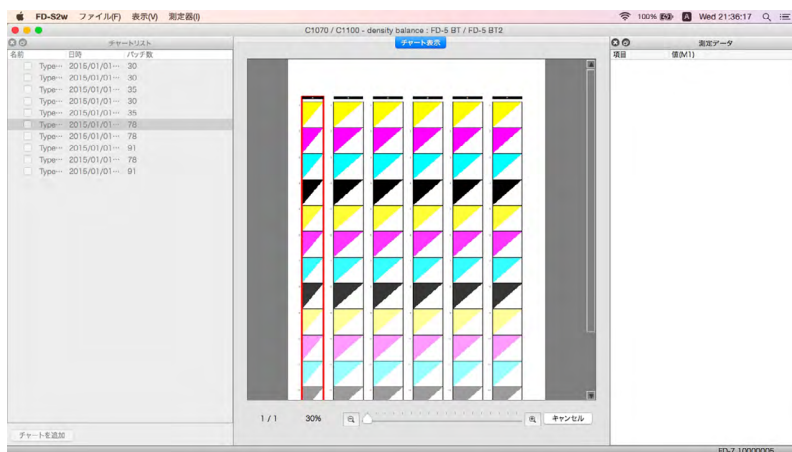
- 1 メニューバーで、[ ツール ] - [ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] を選択します。[ 濃度バランスの選択 ] ダイアログが表示されます。
- 2 調整するプリンターと希望の調整プロセスに応じて、使用するテンプレートを [ テンプレート ] セクションのリストから選択します。  
 [ 出力紙濃度調整 ]： 出力紙濃度の調整用  
 [ 濃度バランス調整 ]： 濃度バランスの調整用  
 • テンプレートを選択すると、そのテンプレートを使用できる測定器が [ 測定器 ] セクションに表示されます。選択したテンプレートには、表示されている測定器のみを使用できます。
- 3 “FD-5 BT / FD-5 BT2” を測定器として選択します。
- 4 [OK] をクリックします。手順 2 で選択した調整プロセス用の濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整ウィンドウが表示されます。



- 5 測定するチャートを[チャートリスト]から選択します。測定するチャートのパッチの画像が[チャート表示]タブに表示され、測定するパッチ列が赤枠で囲まれます。



- 6  をクリックします。チャートのパッチが変更されて、パッチの左上半分にはパッチに定義されている色が、右下半分には紙の色が表示されます。



測定をスキャンで実行する場合：

- スキャン測定の詳細については、測定器の取扱説明書を参照してください。

- 7 測定器のアクセサリであるルーラーを、測定するパッチの列と位置合わせされているチャート上に配置します。
- 8 測定器の2本の足をルーラーの溝に合わせて、測定器の試料面開口をルーラーの開口部に合わせます。
- 9 測定器の測定ボタンを押します。約1秒後にピープ音が鳴ります。
- 10 測定ボタンを押したまま、測定器をルーラーに沿って一定の速度でゆっくりスライドさせます。2～4秒ほどかけて、ルーラーの開口部の長さに沿ってスライドさせます。

- 11 1つのパッチ列のスキャンが完了したら、[チャート表示]タブで、その列の各パッチ画像の右下半分に、そのパッチに測定された色が表示されます。
- 12 [チャート表示]タブで次のパッチ列の上部をクリックし(その列が赤枠で囲まれます)、手順7～11を繰り返してその列を測定します。すべてのパッチ列が測定されるまで繰り返します。測定が、その日時とともに、選択したチャート定義データ名の下に表示され、データが自動的に格納されます。
  - [測定結果保存]ダイアログの[測定結果の自動保存]の“測定後に測定結果を自動送信する”がチェックされしたら、測定結果が指定されるプリンターへ自動的に送信します。
- 13 チャート内のパッチの測定データを表示するには、パッチを[チャート表示]タブで選択します。そのパッチの測定データが[測定データ]ウィンドウに表示されます。表示される測定データ項目は、[測定条件設定]ウィンドウで選択されている項目です。
- 14 必要に応じて、「測定されたチャートデータの保存」の手順に従ってください。

各パッチを個別に測定することで測定を実行する場合：

- パッチの測定の詳細については、測定器の取扱説明書を参照してください。
- 7 パッチ列で単一のパッチをクリックします。赤枠が変更され、選択したパッチのみが囲まれます。
  - 8 測定器の試料面開口と、測定するパッチの中心とを合わせます。
  - 9 測定器をパッチに対して下に押します。約1秒後にピープ音が鳴り、パッチに測定された色が[チャート表示]タブのパッチ画像の右下半分に表示され、次に測定するパッチに赤枠が移動します。
  - 10 すべてのパッチが測定されるまで、手順8～9を繰り返します。測定が、その日時とともに、選択したチャート定義データ名の下に表示され、データが自動的に格納されます。
    - [測定結果保存]ダイアログの[測定結果の自動保存]の“測定後に測定結果を自動送信する”がチェックされしたら、測定結果が指定されるプリンターへ自動的に送信します。
  - 11 チャート内のパッチの測定データを表示するには、パッチを[チャート表示]タブで選択します。そのパッチの測定データが[測定データ]ウィンドウに表示されます。表示される測定データ項目は、[測定条件設定]ウィンドウで選択されている項目です。
  - 12 必要に応じて、「測定されたチャートデータの保存」の手順に従ってください。

## I 測定されたチャートデータの保存

測定されたチャートデータは、次の手順でフォルダまたはプリンターに保存できます。

1 保存する測定データ名を右クリックし、右クリックメニューから「保存」を選択します。「測定結果保存」ダイアログが表示されます。

2 データの保存先を選択します。

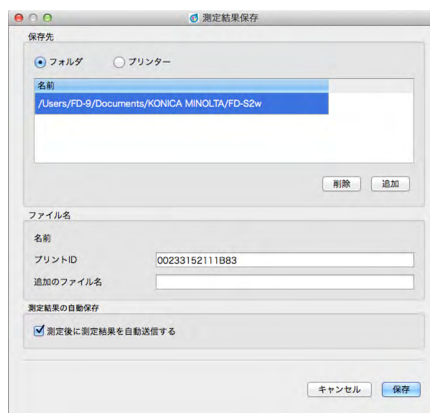
「フォルダ」：データはリストウィンドウで選択したフォルダにテキストファイルとして保存されます。

「プリンター」：データはリストウィンドウで選択したプリンター保存されます。

- リストウィンドウには、選択できるフォルダまたはプリンターが表示されます。フォルダまたはプリンターの追加または削除については、以下のセクションを参照してください。

3 データを保存するファイル名を入力します。「プリント ID」として入力された名前がファイル名として使用されます。

4 「保存」をクリックします。データが保存され、ダイアログが閉じます。



## 測定結果保存ダイアログ

濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整機能の [ 測定結果保存 ] ダイアログで測定結果の保存先 (FD-S2w のデータグループ以外のフォルダまたはプリンター) と測定後のプリンターへの自動送信の設定を行います。

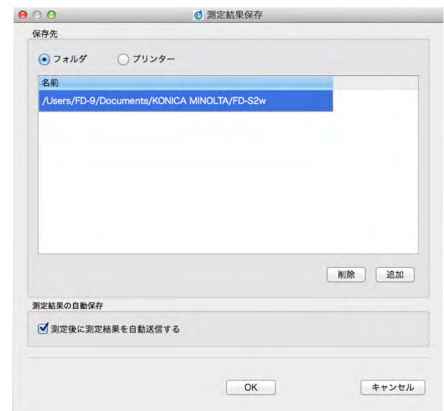
- ・ “ 測定後に測定結果を自動送信する ” 設定にかかわらず測定結果はいつも FD-S2w のデータグループに保存されます。

濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整ウィンドウで以下のどちらかの手順で [ 測定結果保存 ] ダイアログを開くことができます。

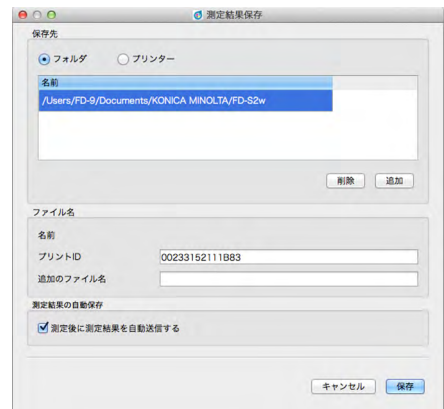
メニューバーで [ 設定 ] - [ 測定データ保存 ] を選択します。

[ 測定データ保存 ] ダイアログが表示されます。

または



チャートリストに測定データ名を右クリックし、右クリックメニューから [ 保存 ] を選択します。[ 測定結果保存 ] ダイアログが表示され、ダイアログに「ファイル名」のセクションも表示されます。



## 測定結果の自動保存

測定が完了すると測定結果を指定プリンターへ自動的に送信できます。

[ 測定結果保存 ] ダイアログの [ 測定結果の自動保存 ] での “ 測定後に測定結果を自動送信する ” チェックボックスをクリックすると設定の変更をします。

## フォルダの追加 / 削除

フォルダを追加するには：

- 1 [追加] をクリックします。[フォルダの選択] ダイアログが表示されます。
- 2 リストに追加するフォルダを参照し、[フォルダを選択] をクリックします。フォルダがリストに追加され、ダイアログが閉じます。

フォルダを削除するには：

- 1 削除するフォルダを選択します。
- 2 [削除] をクリックします。フォルダがリストから直ちに削除されます。

## プリンターの追加 / 削除

プリンターを追加するには：

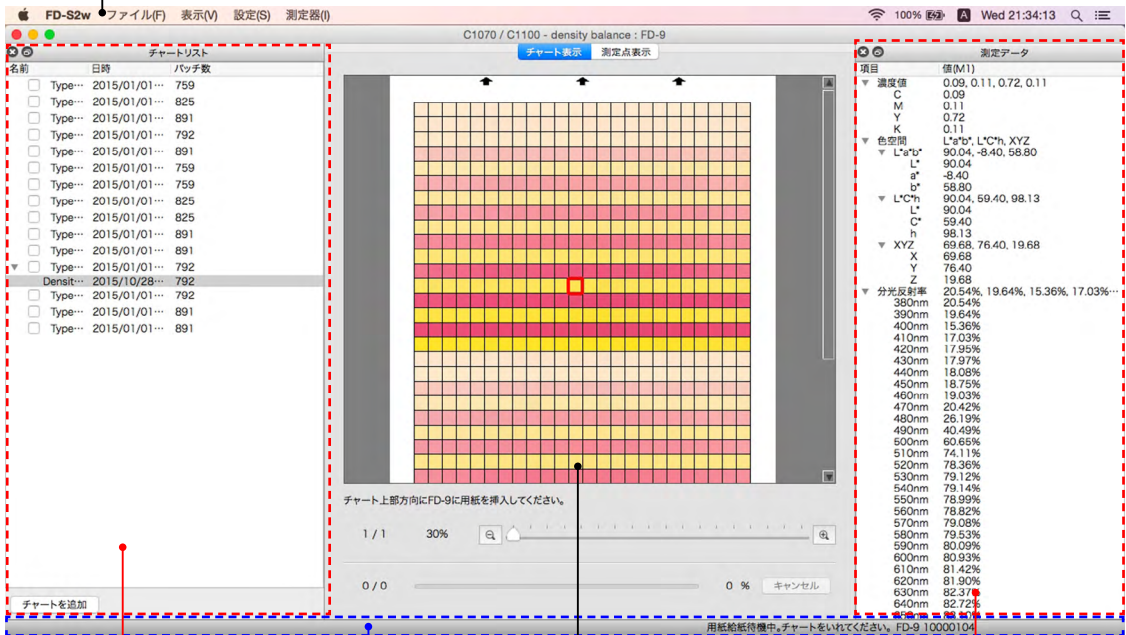
- 1 [追加] をクリックします。[プリンターを追加] ダイアログが表示されます。
- 2 必要な情報を入力し、[OK] をクリックします。プリンターがリストに追加され、ダイアログが閉じます。
  - 必要な情報：
    - プリンター名
    - パスワード
    - IP アドレス
    - ポート

プリンターを削除するには：

- 1 削除するプリンターを選択します。
- 2 [削除] をクリックします。プリンターがリストから直ちに削除されます。

# 「濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整」ウィンドウの構成

メニューバー



チャートリスト

ウィンドウの  
ステータスバー

チャートキャンバス

測定データ

「濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整」の測定ウィンドウは、FD-S2w のメインウィンドウによく似ており、メニューバー、チャートキャンバス、ウィンドウのステータスバーに加えて、[チャートリスト]ウィンドウ、[測定条件設定]ウィンドウ(既定では非表示)、[測定データ]ウィンドウの3つのウィンドウで構成されています。

## メニューバー ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ)

### [ ファイル (F) ] メニュー

[ 閉じる ] : [ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] 測定ウィンドウを閉じます。

### [ 表示 (V) ] メニュー

[ ステータスバー ] : ステータスバーを表示 / 非表示にします。

[ チャートリストウィンドウ ] : [ チャートリスト ] ウィンドウを表示 / 非表示にします。

[ 測定条件設定ウィンドウ ] : [ 測定条件設定 ] ウィンドウを表示 / 非表示にします。

[ 測定データウィンドウ ] : [ 測定データ ] ウィンドウを表示 / 非表示にします。

### [ 設定 (S) ] メニュー

[ 接続 ] : [ 接続設定 ] ダイアログを開きます。p. 24 を参照してください。

[ 測定データ保存 ] [ 測定データ保存 ] ダイアログを開きます。p. 77 を参照してください。

### [ 測定器 (I) ] メニュー

[ 接続 / 切断 ] : 測定器が接続されていない場合、メニュー項目は [ 接続 ] になります。[ 接続 ] をクリックすると、[ 測定器接続 ] ダイアログで行った設定に応じて、FD-9 に接続します。測定器が接続されている場合、メニュー項目は [ 切断 ] になります。[ 切断 ] をクリックすると、接続されている FD-9 が切断されます。

[ 測定再開 ] : 中止した測定を再開します。

- FD-9 が接続されていて、測定が中断されている場合にのみ有効になります。

[ 測定中止 ] : 現在実行中の測定を中止します。

- FD-9 が接続されている場合にのみ有効になります。



## ステータスバー ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ)

このウィンドウのステータスバーは、各種の情報を表示する複数のセクションで構成されています。

各セクションに表示される情報は、画面の左側から下記の順序になります。

- カーソルの下のメニュー項目またはツールバーボタンの説明
- FD-9 のステータス情報
- 接続されている FD-9 の情報：測定器の名前とシリアル番号 (FD-9 が接続されている場合にのみ表示。)
- 接続されているハンディ分光濃度計：測定器の名前とシリアル番号 (ハンディ分光濃度計が接続されている場合にのみ表示。)

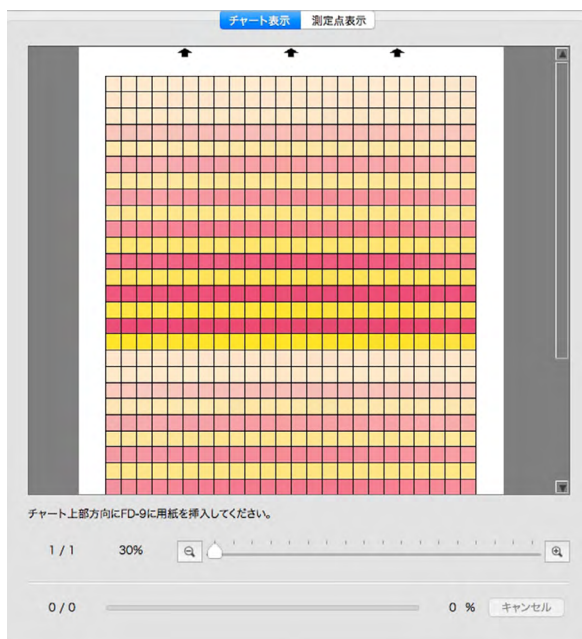
### ステータスバーの表示 / 非表示

ステータスバーを表示 / 非表示にするには、[ 表示 ] メニューで [ ステータスバー ] を選択します。

## チャートキャンバス ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ)

チャートキャンバスは、チャート定義データチャートまたはスキャンされたチャートの画像を表示する2つのタブで構成されます。

### [ チャート表示 ] タブ

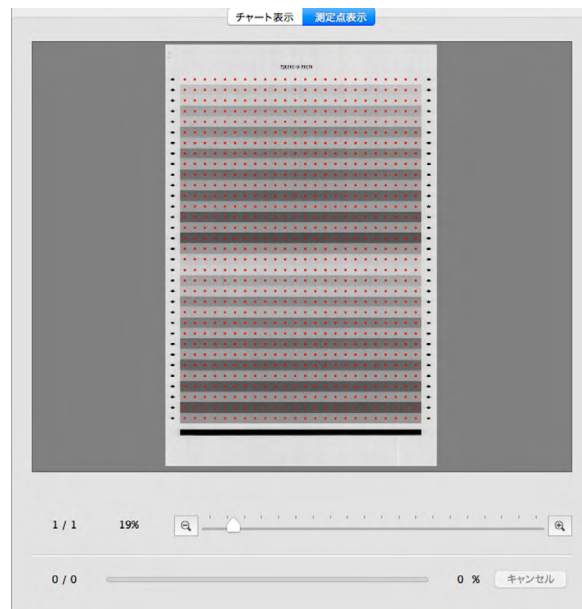


[ チャート表示 ] タブは、選択したチャート定義データまたは測定のパッチのカラー画像を表示します。

**チャート定義データ：** チャート定義データを [ チャートリスト ] ウィンドウで選択すると、チャートで定義されているパッチ色がパッチに表示されます。

**測定：** 測定中に、各パッチが斜めに分割され、定義されているパッチ色が左上半分に、測定された色が右下半分に表示されます。測定が完了すると、測定された色のみがパッチに表示されます。

## [測定点表示]タブ



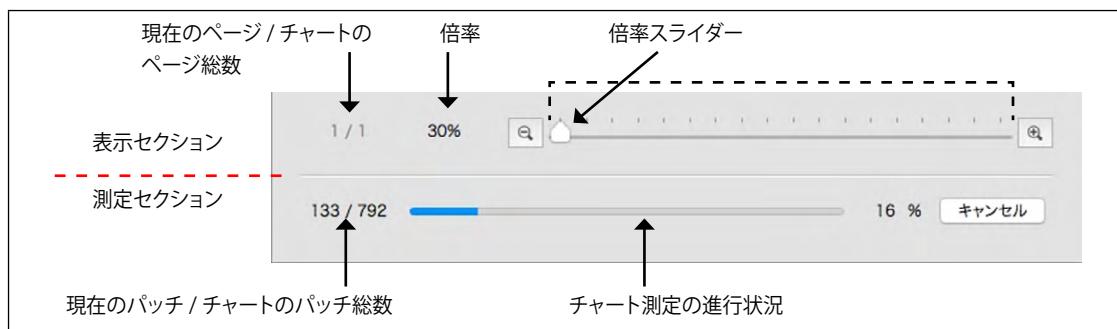
[測定点表示]タブは、測定されたチャートシートの白黒画像と、その画像の測定点の場所を示します。

**チャート：** チャートを[チャートリスト]ウィンドウで選択すると、[測定点表示]タブに画像は表示されません。

**チャートの下の測定：** チャートの下の測定結果を[チャートリスト]ウィンドウで選択すると、チャートシートのスキャン画像が、チャートに定義されている測定点とともに表示されます。

## チャートキャンバスのステータスバー

チャートキャンバスのステータスバーは下図のとおりです。



### 表示セクション


#### 現在のページ / チャートのページ総数

現在のページと、チャート内のページの総数を示します。


複数ページのチャートの場合、▼をクリックすると、希望のチャートページを選択するためのドロップダウンリストが開きます。


### 倍率

▼をクリックすると、希望の倍率設定または[ウインドウに合わせる]を選択するためのドロップダウンリストが開きます。

 ズームアウト。クリックするたびに、倍率が 1% 小さくなります。

### 倍率スライダー

倍率を徐々に調整する場合はスライダー  を動かし、素早く調整する場合はバーの上をクリックしてスライダーを希望の点に直接動かします。

 ズームイン。クリックするたびに、倍率が 1% 大きくなります。

### 測定セクション

#### 現在のパッチ / チャートのパッチ総数

測定中に、現在測定中のパッチと、現在のチャートページ内のパッチの総数を示します。

### チャート測定の進行状況

現在のチャートページの測定の進行状況を示します。

キャンセル

進行中の測定をキャンセルします。

- FD シリーズのハンディ測定器を使用しているときには、測定前にこれは表示されません。

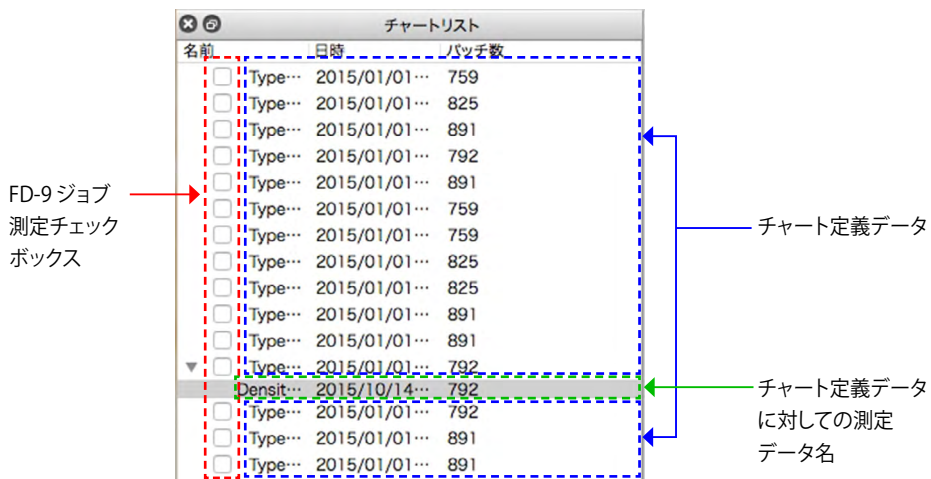
測定

FD シリーズのハンディ測定器を使用しているときに測定シーケンスを開始します。

- FD シリーズのハンディ測定器を使用しているときには、測定が開始される前のみ **キャンセル** の代わりにこれが表示されます。測定が開始されると、**キャンセル** に変わります。

## [チャートリスト] ウィンドウ ([濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整] ウィンドウ)

[チャートリスト] ウィンドウは、[濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整] ウィンドウの入力時に選択された調整用のチャート定義データのリストを表示します。



### チャート定義データ

チャート定義データとは、[濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整] ウィンドウの入力時に選択された調整と測定器用に定義されているチャートです。

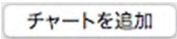
チャート定義データを選択すると：

- [チャート表示] タブに、選択したチャート定義データチャートのカラー画像が表示されます。
- [チャート表示] タブでカラー画像内のパッチをクリックしても、測定データは表示されません。
- [測定点表示] タブには画像は表示されません。
- 測定は選択したチャートに対して行われ、完了すると、選択したチャート定義データ名の下にその測定が表示されます。
- チャート定義データ名の横にある ▼ (OS X、macOS の場合) または ▲ (Windows の場合) をクリックすると、チャート定義データに対して行われた測定のリストが折りたたまれます。
- チャート定義データ名の横にある ► (OS X、macOS の場合) または ▷ (Windows の場合) をクリックすると、チャート定義データに対して行われた測定のリストが展開されます。

## FD-9 ジョブ測定チェックボックス

FD-9 ジョブ測定チェックボックスがオン (有効) の場合、対応するチャート定義データ名が FD-9 の [Connection & Joblist] 画面に表示され、これを FD-9 で選択すると、そのチャート定義データに対する測定を実行できます。

## ボタン

 チャートを追加

チャート定義データを (\*.xml または \*.csv ファイルから) [チャートリスト] に追加するダイアログを開きます。

## 右クリックメニュー

チャート定義データ名を右クリックすると表示されるメニューには、以下の機能があります。

- [名前を編集]**      チャート定義データ名の編集を可能にします。
  - チャート定義データ名は、チャート名をダブルクリックして編集することもできます。
- [保存]**              チャート定義データを (\*.xml ファイルとして) 保存する [保存] ダイアログを開きます。
- [削除]**              選択したチャート定義データを削除します。

## 測定

測定結果は、測定対象のチャート定義データ名の下に表示されます。

測定結果を選択すると：

- [チャート表示] タブに、選択した測定済みチャートのカラー画像が表示されます。
- [チャート表示] タブでカラー画像内のパッチをクリックすると、そのパッチの測定データが [測定データ] ウィンドウに表示されます。
- [測定点表示] タブは、チャートシートのスキャン画像を示し、その画像に測定点が重ねて表示されます。
- 測定は、選択した測定に使用されたのと同じチャート定義データに対して行われ、完了すると、新しい測定がそのチャート定義データ名の下に表示されます。

## 右クリックメニュー

測定名を右クリックすると表示されるメニューには、以下の機能があります。

- [名前を編集]**      測定データ名の編集を可能にします。
  - チャート名は、チャート名をダブルクリックして編集することもできます。
- [保存]**              測定されたチャートデータを保存する [保存] ダイアログを開きます。p. 77 の「測定結果保存ダイアログ」を参照してください。
- [削除]**              選択した測定データを削除します。

## [測定条件設定] ウィンドウ ([濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整] ウィンドウ)

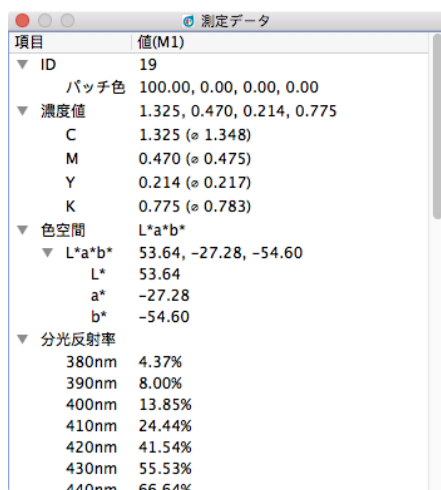
[測定条件設定] ウィンドウは、どの測定データを [測定データ] ウィンドウに表示するかを決定します。



[測定条件設定] ウィンドウは、デフォルトでは表示されません。[測定条件設定] ウィンドウを表示するには、[表示] - [測定条件設定ウィンドウ] を選択します。

- 測定グループ名の横にある ▼ (OS X、macOS の場合) または ▲ (Windows の場合) をクリックすると、その測定グループの下にある測定データのリストが折りたたまれます。
- 測定グループ名の横にある ► (OS X、macOS の場合) または ▷ (Windows の場合) をクリックすると、その測定グループの下にある測定データのリストが展開されます。
- チェックボックス付きの測定項目の場合、その項目のデータを [測定データ] ウィンドウに表示するには、その測定項目が含まれているグループの名前の横にあるチェックボックスをオンにしてから、項目自体の横にあるチェックボックスをオンにします。項目にチェックを入れても、それが含まれているグループの名前にチェックを入れないと、その項目の測定データは [測定データ] ウィンドウに表示されません。
- ドロップダウンリスト付きの測定項目の場合、その項目のデータを [測定データ] ウィンドウに表示するには、その測定項目が含まれているグループの名前の横にあるチェックボックスをオンにしてから、使用する設定をドロップダウンリストから選択します。項目が含まれているグループの名前にチェックを入れないと、その項目の測定データは [測定データ] ウィンドウに表示されません。

## [ 測定データ ] ウィンドウ ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ)



項目	値(M1)
▼ ID	19
パッチ色	100.00, 0.00, 0.00, 0.00
▼ 濃度値	1.325, 0.470, 0.214, 0.775
C	1.325 (≈ 1.348)
M	0.470 (≈ 0.475)
Y	0.214 (≈ 0.217)
K	0.775 (≈ 0.783)
▼ 色空間	L*a*b*
▼ L*a*b*	53.64, -27.28, -54.60
L*	53.64
a*	-27.28
b*	-54.60
▼ 分光反射率	
380nm	4.37%
390nm	8.00%
400nm	13.85%
410nm	24.44%
420nm	41.54%
430nm	55.53%
440nm	66.64%

[ 測定データ ] ウィンドウは、測定が [ チャートリスト ] で選択されている場合に、[ チャート表示 ] で選択されているカラーパッチの測定データを表示します。

- チャート定義データ名が [ チャートリスト ] で選択されている場合は、カラーパッチが [ チャート表示 ] タブで選択されていても、測定データは表示されません。
- チャートに、パッチ定義が同じ複数のパッチが含まれている場合、これらのパッチの濃度値は、アクティブなパッチの測定値と、この定義を備えたすべてのパッチの平均値の両方を示します。

表示される測定データ項目は、[ 測定条件設定 ] ウィンドウで選択されている項目です。

- 測定グループ名またはサブグループ名の横にある ▼ (OS X, macOS の場合) または ▲ (Windows の場合) をクリックすると、その測定グループまたはサブグループの下にある測定データのリストが折りたたまれます。
- 測定グループ名またはサブグループ名の横にある ► (OS X, macOS の場合) または ▷ (Windows の場合) をクリックすると、その測定グループまたはサブグループの下にある測定データのリストが展開されます。




## 全ウィンドウに共通の操作 ([ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウ)

### ウィンドウの表示 / 非表示

- ウィンドウを表示 / 非表示にするには、[ 表示 ] メニューでウィンドウ名を選択します。メニューのウィンドウ名の前のチェックボックスがオンのウィンドウが表示され、オフのウィンドウは非表示になります。ウィンドウ名をクリックすると、ウィンドウのステータスが切り替わります。
- ウィンドウは、ウィンドウのタイトルバーの右上にある X をクリックして非表示にする ( 閉じる ) こともできます。

### ウィンドウのドッキング / 積み重ね / 浮動

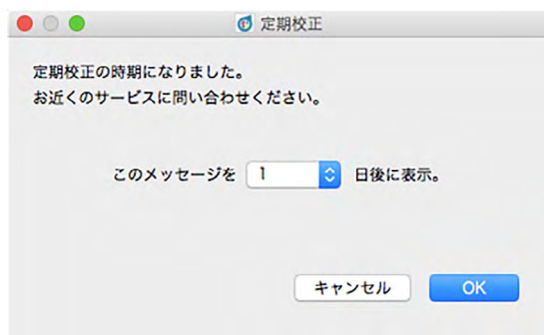
- ウィンドウは、そのタイトルバーをクリックして希望の位置にドラッグすることで、[ 濃度バランス調整 / 出力紙濃度調整 ] ウィンドウのチャートキャンバス領域の上側、下側、左側、または右側にドッキングできます。ウィンドウを新しい場所に近づけると、青い領域が開き、ドラッグしたウィンドウをその中にドロップできます。浮動ウィンドウは、そのタイトルバーをダブルクリックしてドッキングすることも可能です。この場合、ウィンドウは、最後にドッキングされていた位置に戻されます。
- ウィンドウを同じ領域でタブとして積み重ねるには、そのタイトルバーをクリックしてドッキングウィンドウにドラッグし、ドッキングウィンドウが青色になったら、ドッキングウィンドウにドロップします。すると、領域の下部にあるウィンドウタブをクリックすることで、積み重ねられたウィンドウ間を切り替えられるようになります。
- ウィンドウを浮動させるには、ドッキングウィンドウのタイトルバーをクリックしてドッキングウィンドウの外にドラッグし、キャンバス領域にドロップします。また、ウィンドウの浮動は、ドッキングウィンドウのタイトルバーのダブルクリックや、タイトルバーの復元アイコン (  ) のクリックで行うこともできます。

### ウィンドウのサイズ変更

- ウィンドウは、その境界をクリックして希望のサイズにドラッグすることで、サイズを変更できます。
- ドッキングウィンドウのサイズを変更すると、同じドッキング領域内の他のウィンドウのサイズも変更されます。

# [ 定期校正 ] ダイアログ

FD-9 の高精度を維持し、最高の性能を得るために、FD-9 をコニカミノルタの正規サービス施設で毎年校正することをお勧めします。定期校正を実施する時期になったことをお知らせするために、コニカミノルタによる校正後、FD-9 が FD-S2w に最初に接続されてから約 1 年後に、[ 定期校正 ] ダイアログが表示されます。



このダイアログが表示されたら、コニカミノルタのサービスによる校正を実施していなくても、指定の期間 (1 日、3 日、7 日、30 日、180 日、または 365 日) 後にこのダイアログが再表示されるように設定することができます。

このダイアログが再表示されるまでの期間を設定するには：

- 1 [ 日後に表示。 ] の現在の設定の横にある▼をクリックし、表示されたドロップダウンリストから希望の日数を選択します。
- 2 [OK] をクリックして設定を完了し、ダイアログを閉じます。
  - [キャンセル] をクリックすると、期間を設定せずにダイアログが閉じます。この場合、[ 定期校正 ] ダイアログは、FD-9 への接続が実行されるたびに再表示されます。

FD-9 をコニカミノルタの正規サービス施設で校正すると、この期間はリセットされ、[ 定期校正 ] ダイアログは、校正された FD-9 が FD-S2w に最初に再接続されてから約 1 年が経過するまでは再表示されません。

# エラーメッセージ

本ソフトウェアを使用中に、下記のメッセージと対処が表示される場合があります。メッセージが表示されたときは、対処を行ってください。対処を行っても正常に戻らない場合は、“サービスのご案内”に記載のお問い合わせ窓口にお問い合わせください。

エラーメッセージ	現象 / 想定される要因	対処
パッチエリアのサイズがチャート定義データと一致しません。	チャート領域の大きさがチャート定義データと異なります。	選択されているチャート定義データおよび印刷の向き、縮尺、マージン、印刷状態 * を確認してください。
パッチの色 / 濃度がチャート定義データと一致しません。 測定点を確認の上、測定を続行する場合は測定ボタンを押して下さい。	チャートのパッチの色 / 濃度がチャート定義データと異なります。 チャートの印刷濃度が大きくずれています。 パッチ位置が正しく自動認識できませんでした。	測定点を確認し、測定位置が正しく認識されている場合には、警告を無視して測定することができます。また、設定ダイアログの [ 測定オプション ] タブで警告を表示しない設定に変更することができます。取扱説明書の [ 設定 ] ダイアログ - [ 測定オプション ] タブ (p. 29) 参照。
チャート定義データとチャートの内容が一致しません。	上記の二つのエラーメッセージ以外の項目で、チャート定義データとチャートの内容が異なります。	選択されているチャート定義データおよび印刷の向き、縮尺、マージン、印刷状態 * を確認してください。
一時ファイルをディスクに書き込めません。	ディスクの空き容量が不足しています。 ディスクが、データが書き込めない状態になっています。	ディスクの空き容量を確認してください。 ディスクが、データが書き込めない状態になっていないか確認してください。
チャートの画像データを正しく取り込めません。	スキャン画像が正しく生成されません。	お使いの PC 環境がシステム要件を満たしていることを確認の上、電源を一度 OFF にした後 ON にして、測定をやり直してください。それでも改善しない場合は、「各種サービスのご案内」に記載の問い合わせ窓口までお問い合わせください。
パッチ位置検出画像処理で予期せぬエラーが発生しました。	上記以外の項目で、画像処理が正しく行えなかったと考えられます。	チャートおよびチャート定義データが仕様を満たしていること、印刷状態 * を確認して、測定をやり直してください。それでも改善しない場合は、“各種サービスのご案内”に記載の問い合わせ窓口までお問い合わせください。
PC のメモリが不足しています。	PC のメモリが不足しています。 用紙サイズが仕様より大きく、測定できません。	お使いの PC 環境がシステム要件を満たしていることを確認してください。 用紙サイズが測定可能サイズになるようにしてください。
予期せぬエラーが発生しました。	測定回路等に異常が検出されました。	FD-9 本体の電源を一度 OFF にした後 ON にし、測定をやり直してください。それでも改善しない場合は、“各種サービスのご案内”に記載の問い合わせ窓口までお問い合わせください。
パッチエリア数が多すぎます。	チャート定義データのパッチエリア数が 51 以上の設定になっています。	チャートおよびチャート定義データが仕様を満たしていることを確認して、測定をやり直してください。
パッチ数が多すぎます。	チャート定義データのパッチ数が 15001 以上になっています。	チャートおよびチャート定義データが仕様を満たしていることを確認して、測定をやり直してください。

チャートが長すぎます。	チャート用紙長さが 1500mm 以上になっています。	チャートの長さが仕様を満たしていることを確認して、測定をやり直してください。
パッチエリア数またはパッチ数がチャート定義データと一致しません。 測定点を確認の上、測定を続行する場合は測定ボタンを押して下さい。	パッチエリア数またはパッチ数がチャート定義データと一致しないために、パッチ間の境界検出に失敗しました。 検出したパッチが測定範囲外です。	測定点を確認し、測定位置が正しく認識されている場合には、警告を無視して測定することができます。測定位置が正しく認識されていない場合はチャートおよびチャート定義データが仕様を満たしていることを確認してください。
パッチエリアの行数または列数がチャート定義データと一致しません。 測定点を確認の上、測定を続行する場合は測定ボタンを押して下さい。	パッチエリアの行数または列数がチャート定義データと一致しないために、パッチ間の境界検出に失敗しました。 検出したパッチが測定範囲外です。	測定点を確認し、測定位置が正しく認識されている場合には、警告を無視して測定することができます。測定位置が正しく認識されていない場合はチャートおよびチャート定義データが仕様を満たしていることを確認してください。
QR コードと一致するチャート定義データがありません。最も近いサイズのチャート定義データで測定を実行します。	出力紙濃度調整用の測定の実行時に、スキャンされたチャートの QR コードで指定された用紙サイズが、使用できるどのチャート定義データの用紙サイズとも一致しません。このため、ソフトウェアは、QR コードで指定された用紙サイズに最も近い用紙サイズのチャート定義データを使用します。	ソフトウェアで選択されたチャート定義データを使用して測定を継続する場合は、[OK] をクリックします。 ソフトウェアで選択されたチャート定義データを使用しない場合は、[キャンセル] をクリックします。測定がキャンセルされ、チャートが FD-9 から排出されます。

\* 「印刷状態」とは印刷の歪み、擦れ、伸び、傷、傾き、等を指します。

# 使用条件

## Ⅰ システム環境

- ・ システム環境の最新情報は以下のリンクに記載しています:

<https://www.konicaminolta.jp/instruments/support/download/fluorescence/fds2w/index.html>

OS

Windows 版 Ver. 1.60:  
Windows 8.1 Pro 64 ビット  
Windows 10 Pro 64 ビット

OS X / macOS 版 Ver. 1.61:  
OS X 10.10 ~ 10.11  
macOS 10.12 ~ 10.15

(日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、簡体中文)  
パソコンのシステム構成については、上記 OS が推奨する構成または、  
下記の仕様のいずれか高い方が必須条件になります。

CPU

1GHz 相当以上

メモリー

2GB 以上

ハードディスクドライブ

8GB 以上の空容量を推奨

ディスプレイ

1024 x 768 ピクセル以上

その他

CD-ROM ドライブ 1 基 (インストール時に必要)

インターフェイス

USB 2.0 (Hi-speed)\* または Ethernet (100BaseTx)

\* OS X 10.11 では Ethernet 接続での使用を推奨します。USB 接続では通信不具合が発生することがあります。

## Ⅰ 対応測定器

自動スキャン分光測色計 MYIRO-9、FD-9

## Ⅰ 言語

表示言語

日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語 (簡体字)



### 〈ご注意〉

- 当社は、本器の誤使用・誤取扱、無断改造等による損害、および、本器の使用または使用不能による間接的、付随的損害（事業利益の損失、事業の中断等）につきましては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



KONICA MINOLTA